志木市の文化財　第87集

中野遺跡 第116地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２２

埼玉県志木市教育委員会

1．調査区遠景

2．遺構外出土尖頭器

はじめに

志木市教育委員会
教育長　柚木　博

ここに刊行する『中野遺跡第116地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が令和３年度に受託事業として実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

現在、市内には、15か所の埋蔵文化財包蔵地が登録されています。これらの埋蔵文化財は祖先が残してきた貴重な文化遺産であり、私たちはこれを大切に保護し後世に伝えていく使命があると言えます。

また、中野遺跡については、これまでの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時期にわたる複合遺跡であることが判明しています。

今回報告する中野遺跡第116地点では、縄文時代～近世にかけての遺構・遺物が多数発見されました。

今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別の御理解と御協力を頂いた事業主体者、そして深い御理解と御協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

例　　言

1．本書は、令和３年度に発掘作業を実施した、埼玉県志木市に所在する中野遺跡第116地点の発掘調査報告書である。

2．本調査は、宅地造成に伴う記録保存のための発掘調査として、文化財保護法第99条に基づき、志木市教育委員会が調査主体者として実施したものである。

3．本調査の実施にあたり、工事主体者・志木市教育委員会・株式会社中野技術（代表取締役　菅原広志）の三者による協定を締結した上で、株式会社中野技術が発掘調査支援業務を行った。

4．発掘作業は令和３年６月22日から令和３年９月30日まで行い、整理作業・報告書刊行作業を令和４年９月30日まで行った。

5．本書は徳留彰紀・大久保聡・尾形則敏・木村結香が監修し、編集は石川安司・小林陽子が行った。執筆は第１章、第２章第１節を尾形、第２章第２節から第４章を石川・小林が担当し、付編の自然科学分析については、株式会社パレオ・ラボ（代表取締役　中村賢太郎）に委託した。

6．縄文時代の遺物については黒坂禎二（公益財団法人埼玉県埋蔵調査事業団）氏、中世の遺物については浅野晴樹（元埼玉県立さきたま史跡の博物館長）・水口由紀子（前埼玉県立歴史と民俗の博物館副館長）の両氏、鋳造関連遺物については高崎直成（ふじみの市立上福岡歴史民俗資料館長）・村上伸二（前嵐山町教育委員会生涯学習課長）の両氏、武蔵型板碑の研究略史については野口達郎（熊谷市史特別調査員）氏にご教示を頂いた。記して感謝申し上げる。

7．本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。

8．調査組織は以下の通りである。

【志木市教育委員会組織】

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	柚木　博
教育政策部長	北村竜一（～令和３年度）
〃	今野美香（令和４年度～）
生涯学習課長	土崎健太
生涯学習課副課長	吉成和重
生涯学習課主幹	浅見千穂
生涯学習課主査	尾形則敏（～令和３年度）
〃	徳留彰紀
〃	大久保　聡（令和４年度～）
生涯学習課主任	尾形則敏（令和４年度～）
〃	大久保　聡（～令和３年度）
〃	石川千尋
生涯学習課主事	塚原会理（令和４年度～）
生涯学習課主事補	木村結香（令和３年８月～）

〃　　遠藤彪雅（～令和３年度）
志木市文化財保護審議会　井上國夫（会長）
〃　　深瀬　克（委員）
〃　　上野守嘉（委員）
〃　　新田泰男（委員）
〃　　金子博一（委員）
調　査　担　当　者　尾形則敏・徳留彰紀・大久保　聡

【株式会社中野技術】

○発掘調査

調　査　員　原野真祐
現場代理人　久津輪弘樹
測　量　員　小林由典・高橋貴子
調査補助員　石橋佳奈・鈴木彩乃
作　業　員　青木利恵・池田純一・石川まゆみ・石塚祐輔・稲田厚子・井上麻美子・植村智美・大戸一司・神田康一・西川政明・星野　歩・山口　智・山本圭子・米島妙子・宮澤洋美

○整理作業

調　査　員　原野真祐・石川安司・小林陽子
調査補助員　佐貫　健・福泉　藍・石橋佳奈
作　業　員　青木利恵・明石千とせ・井上麻美子・内田恭子・大原美紀・甲斐栄美子・加藤洋子・坂井美樹子・榊原みゆき・櫻井亜矢子・徳光直子・山本圭子

9．発掘作業及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

10．令和３年８月11日～13日にかけて国士舘大学文学部史学地理学科国史学専攻、夏季考古学実習として、先生引率の下、ＴＡ２名、学生47名が学外遺跡見学実習を行った。

11．本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

令和３年６月15日付け　教文資第４－624号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和４年３月29日付け　教文資第７－141号

凡　　例

1．本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第１図　　１：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製

第２図　　１：5,000　ゼンリン電子住宅地図　デジタウン「埼玉県志木市」平成27年４月発行
株式会社ゼンリン

2．本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に則している。

3．挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。

4．遺構挿図版中の水糸レベルは、海抜標高を示す。

5．ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位は㎝である。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。

6．遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。

7．挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。

8．土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は［　］、推定値は（　）を付した。

高：器高　　口：口径　　底：底径　　厚：器厚

9．遺構の略記号は、以下のとおりである。

Ｈ＝古墳時代後期・平安時代の住居跡　　ＦＰ＝縄文時代の炉穴　　Ｄ＝土坑

Ｗ＝井戸跡　　Ｍ＝溝跡　　道＝道路状遺構　　Ｐ＝ピット

目　　次

巻頭図版／はじめに
例　　言／凡　　例／目　　次／挿図目次／表 目 次／図版目次
第１章　遺跡の立地と環境 …… 1
　第１節　市域の地形と遺跡 …… 1
　第２節　遺跡の概要 …… 8
第２章　発掘調査の概要 …… 10
　第１節　調査に至る経緯 …… 10
　第２節　調査の経過 …… 12
　第３節　基本層序 …… 17
第３章　検出された遺構・遺物 …… 20
　第１節　縄文時代の遺構・遺物 …… 20
　第２節　古墳時代後期・平安時代の遺構・遺物 …… 31
　第３節　中世以降の遺構・遺物 …… 37
　第４節　遺構外出土遺物 …… 90
第４章　調査のまとめ …… 97
　第１節　旧石器時代・縄文時代について …… 97
　第２節　古墳時代後期・平安時代について …… 97
　第３節　中世以降について …… 98

［付編］自然科学分析
　Ⅰ．放射性炭素年代測定 …… 105
　Ⅱ．中野遺跡第116地点出土炭化材の樹種同定 …… 108
　Ⅲ．中野遺跡第116地点出土の動物遺体 …… 110

図　　版
報告書抄録

挿図目次

第１図　市域の地形と遺跡分布（１／20,000）… ２
第２図　中野遺跡の調査地点（１／3,000）… ９
第３図　確認調査時の遺構分布図（１／500）… 11
第４図　遺構分布図（１／250）…… 15
第５図　基本層序１（１／600・１／60）… 18
第６図　基本層序２（１／60）…… 19
第７図　炉穴１（１／60）…… 24
第８図　炉穴２（１／60）…… 25
第９図　土坑（１／60）…… 28
第10図　炉穴・土坑出土遺物（１／３）…… 30
第11図　ピット（１／60）…… 31
第12図　93号住居跡（１／60）…… 32
第13図　93号住居跡出土遺物（１／４）…… 33
第14図　94号住居跡・94号住居跡カマド（1／60・1／30）…… 34
第15図　94号住居跡遺物出土状況・掘り方（1／60）…… 35
第16図　94号住居跡出土遺物（1／4・1／3）… 36
第17図　土坑（１／60）…… 37
第18図　Ａ群２類土坑（１／60）…… 39
第19図　Ｂ群１類土坑１（１／60）…… 41
第20図　Ｂ群１類土坑２（１／60）…… 44
第21図　Ｂ群２類土坑（１／60）…… 47
第22図　Ｂ群３類土坑（１／60）…… 51
第23図　Ｃ群土坑１（１／60）…… 53
第24図　Ｃ群土坑２（１／60）…… 55
第25図　Ｃ群土坑３（１／60）…… 58
第26図　Ｄ群土坑（１／60）…… 60
第27図　Ｅ群１類土坑１（１／60）…… 61
第28図　Ｅ群１類土坑２（１／60）…… 62
第29図　Ｇ群土坑（１／60）…… 63
第30図　土坑出土遺物１（１／４・１／３）… 65
第31図　22号井戸跡（１／60）…… 66
第32図　22号井戸跡出土遺物（１／３）…… 67
第33図　29号溝跡出土遺物（1／3・1／4）… 68
第34図　29号溝跡（１／60）…… 69
第35図　30号溝跡（１／60）…… 70
第36図　１号道路状遺構（１／60）…… 71
第37図　中世以降のピット１（１／60）…… 73
第38図　中世以降のピット２（１／60）…… 74
第39図　中世以降のピット３（１／60）…… 75
第40図　中世以降のピット４（１／60）…… 76
第41図　中世以降のピット５（１／60）…… 77
第42図　中世以降のピット６（１／60）…… 78
第43図　中世以降のピット７（１／60）…… 79
第44図　中世以降のピット８（１／60）…… 80
第45図　中世以降のピット９（１／60）…… 81
第46図　中世以降のピット10（１／60）…… 82
第47図　中世以降のピット11（１／60）…… 83
第48図　中世以降のピット12（１／60）…… 84
第49図　中世以降のピット出土遺物（1／4・1／3・4／5）…… 89
第50図　遺構外出土遺物１（2／3・1／3）… 91
第51図　遺構外出土遺物２（１／３）…… 92
第52図　遺構外出土遺物３（1/4・1/3・4/5）… 93
第53図　暦年較正結果…… 106

表 目 次

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧……１
第２表　発掘調査工程表（１）……13
第２表　発掘調査工程表（２）……14
第３表　炉穴・土坑出土土器一覧……30
第４表　93号住居跡出土土器一覧……33
第５表　94号住居跡出土土器・石製品一覧…36
第６表　中世以降の土坑一覧（１）……64
第６表　中世以降の土坑一覧（２）……65
第７表　土坑出土陶磁器・土器・鉄製品一覧（１）…65
第７表　土坑出土陶磁器・土器・鉄製品一覧（２）…66
第８表　22号井戸跡出土陶器・鋳造関連遺物・板碑一覧（１）……67
第８表　22号井戸跡出土陶器・鋳造関連遺物・板碑一覧（２）……68
第９表　29号溝跡出土陶器一覧……68
第10表　中世以降のピット一覧（１）……85
第10表　中世以降のピット一覧（２）……86
第10表　中世以降のピット一覧（３）……87
第10表　中世以降のピット一覧（４）……88
第10表　中世以降のピット一覧（５）……89
第11表　ピット出土磁器・鉄製品・銭貨・石製品一覧…89
第12表　遺構外出土旧石器時代・縄文時代石器一覧…94
第13表　遺構外出土縄文土器一覧（１）……94
第13表　遺構外出土縄文土器一覧（２）……95
第14表　遺構外出土古墳時代後期土器一覧…96
第15表　遺構外出土平安時代須恵器・土器一覧…96
第16表　遺構外出土中近世陶磁器・土器一覧…96
第17表　遺構外出土近世以降石製品一覧……96
第18表　遺構外出土近世以降銭貨一覧……96
第19表　測定試料および処理……105
第20表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果…106
第21表　樹種同定結果……108
第22表　中野遺跡第116地点の動物遺体同定結果…110

図 版 目 次

図版１
１．調査１区全景
２．調査２区全景
図版２
１．１区調査前現況（東から）
２．２区表土剥ぎ（西から）
３．１区プラン確認（東から）
４．２区プラン確認
５．２区プラン確認２
６．作業風景
７．旧石器試掘坑ＴＰ７（南から）
８．旧石器試掘坑ＴＰ10（西から）
図版３
１．93 号住居跡完掘（南から）
２．93 号住居跡土層断面（西から）
３．93 号住居跡遺物出土状況（東から）
４．93 号住居跡掘り方完掘
５．94 号住居跡遺物出土状況（南東から）
６．94 号住居跡遺物出土状況近景（南東から）
７．94 号住居跡完掘（南東から）
８．94 号住居跡カマド完掘（南東から）
図版４
１．67 号炉穴完掘（南西から）
２．68 号炉穴完掘（南から）

３．69 号炉穴燃焼部土層断面（北西から）
４．70・71・72 号炉穴土層断面（南から）
５．70・71・72 号炉穴完掘（南から）
６．73 号炉穴完掘（東から）
７．74 号炉穴燃焼部土層断面（北から）
８．74 号炉穴完掘（北から）
図版５
１．75 号炉穴土層断面（東から）
２．75 号炉穴完掘（東から）
３．76 号炉穴完掘（南から）
４．77・78 号炉穴燃焼部（西から）
５．77・78 号炉穴完掘（南から）
６．79 号炉穴燃焼部土層断面（西から）
７．80 号炉穴完掘（東から）
８．81 号炉穴完掘（南から）
図版６
１．580 号土坑完掘（南から）
２．597 号土坑遺物出土状況（西から）
３．597 号土坑完掘（西から）
４．598 号土坑完掘（南から）
５．599 号土坑完掘（西から）
６．603 号土坑完掘（東から）
７．610 号土坑完掘（西から）
８．611・612 号土坑完掘（西から）
図版７
１．626 号土坑完掘（北から）
２．634 号土坑完掘（東から）
３．606・607 号土坑完掘（西から）
４．615 号土坑完掘（南から）
５．619 号土坑調査風景（西から）
６．619 号土坑完掘（北から）
７．619 号土坑完掘（東から）
８．625 号土坑調査風景（南から）
図版８
１．625 号土坑完掘（北から）
２．625 号土坑完掘（西から）
３．29 号溝跡土層断面（東から）
４．30 号溝跡完掘
５．29 号溝跡完掘
６．22 号井戸跡完掘（東から）
７．１号道路状遺構検出状況（北から）
図版９
１．２区東側土坑群
２．２区中央土坑群
図版 10
１．１区ピット群
２．２区ピット群
図版 11
１．炉穴・土坑出土遺物
２．94 号住居跡出土遺物
図版 12
１．93 号住居跡出土遺物
２．土坑出土の陶磁器・土器・鉄製品
３．22 号井戸跡出土遺物１
図版 13
１．22 号井戸跡出土遺物２
２．29 号溝跡出土遺物
３．ピット出土の磁器・鉄製品・銭貨・石製品
４．遺構外出土遺物１
図版 14
遺構外出土遺物２
図版 15
遺構外出土遺物３
図版 16
遺構外出土遺物４
図版 17
１．炭化材の走査型電子顕微鏡写真
　１ａ－１ｃ．コナラ属コナラ節
　ａ：横断面、ｂ：接線断面、ｃ：放射断面
２．中野遺跡第 116 地点出土の動物遺体（94 号住居跡出土）
　１．哺乳綱　右上腕骨骨幹部
　２．哺乳綱　左橈骨近位端

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　市域の地形と遺跡

（１）地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71㎞、東西4.73㎞の広がりをもち、面積は9.05㎢、人口約７万６千人の自然と文化の調和する都市である。

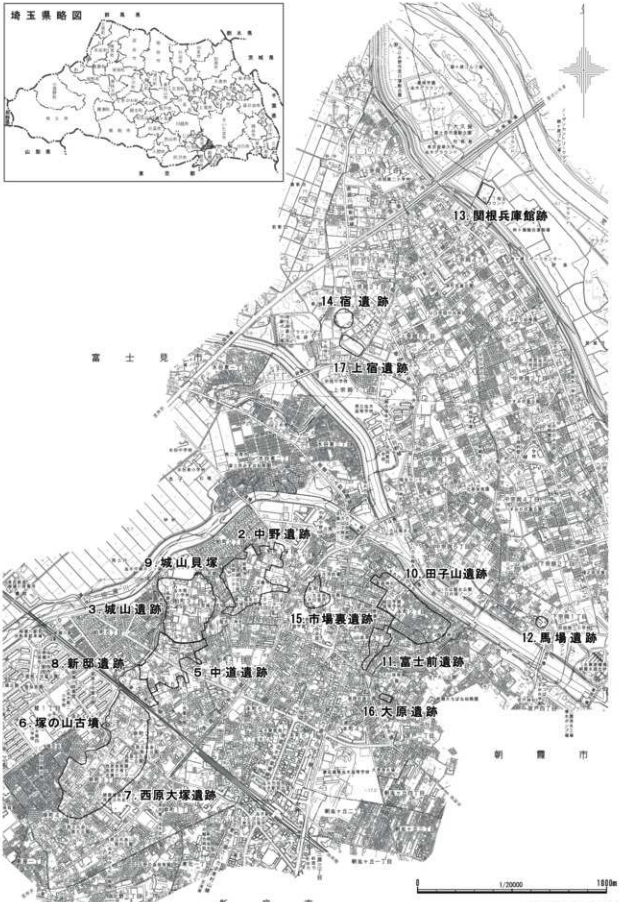
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の３本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（７）、新邸遺跡（８）、中道遺跡（５）、城山遺跡（３）、中野遺跡（２）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺

№　遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2　中野	71,220㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3　城山	82,100㎡	畑・宅地	貝塚・城郭跡・集落跡・墓跡	旧石器、縄（草創～晩）、弥（中・後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連遺物等
5　中道	54,420㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6　塚の山古墳	800㎡	林	古墳？	古墳？	古墳？	なし
7　西原大塚	164,960㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前・後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8　新邸	20,080㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄（早～中）、古（前・後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9　城山貝塚	900㎡	林	貝塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10　田子山	74,030㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄（草創～晩、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11　富士前	14,830㎡	宅地	集落跡	縄文、弥（後）～古（前）、平安、近世以降	住居跡、土坑？、溝跡？	弥生土器、土師器
12　馬場	2,800㎡	畑	集落跡	古（前）	住居跡？	土師器
13　関根兵庫館跡	4,900㎡	グランド	館跡	中世	不明	なし
14　宿	7,700㎡	水田	館跡	中世	溝跡、井桁状構築物	木・石製品
15　市場裏	13,800㎡	宅地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16　大原	1,700㎡	宅地	集落跡	近世以降？	溝跡	なし
17　上宿	8,600㎡	水田・宅地	集落跡・墓跡	平安、中・近世	住居跡、土坑、溝跡、井戸跡	土師器、須恵器、陶磁器、板碑等
合計	522,840㎡					

令和４年８月１日 現在

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



令和４年８月１日現在

第１図　市域の地形と遺跡分布（１／20,000）

跡（17）が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳（６）、城山貝塚（９）を加えた15遺跡である（第１図・第１表）。

（２）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

１．旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で、礫群や石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成６（1994）年度には２か所、平成７（1995）年度には１か所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。最新では、令和元（2019）年に第224地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。平成28（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91⑰地点からは、礫群１基が検出された。令和元～２（2019～2020）年にかけて発掘調査された中野遺跡第109地点では、立川ローム層第Ⅳ層下部～第Ⅴ層を中心とする石器集中地点が検出されており、石核調整剥片の良好な接合資料が出土している。

また、城山遺跡では、平成13（2001）年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の２か所で石器集中地点が検出されている。平成20・21（2008～2009）年に発掘調査が実施された第62地点（道路・駐車場部分）でも１か所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23（2011）年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部で石器集中地点２か所、礫群９基が検出された。令和元（2019）年には第96地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅵ層・第Ⅶ層で石器集中地点や礫群が検出されている。

２．縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成４（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器１点、平成６（1994）年に発掘調査が実施された城山遺跡第21地点から多縄文系土器３点、第22地点から爪形文系土器１点、平成10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器１点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡としては、令和４（2022）年に田子山遺跡第172地点で市内初となる撚糸文期の住居跡が１軒検出された。また、平成18（2006）年に発掘調査が実施

された中道遺跡第65地点では、早期末葉（条痕文系）の10号住居跡が検出されている。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。平成23（2011）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとまって出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で前期中葉の黒浜式期の住居跡が検出され、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。令和元（2019）年度に発掘調査が実施された城山遺跡第96地点、令和３～４（2021～2022）年に実施された中野遺跡第116①地点では、前期後葉の諸磯ａ式期の住居跡が検出されている。そのうち、城山遺跡第96地点では貝層を持つ住居跡が３軒検出された。住居内貝層からヤマトシジミ・マガキが検出されている。平成２年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曽利Ｅ式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で200軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡１軒が確認されているが、平成28（2016）年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曽利ＥⅣ式の両耳壷を出土する住居跡１軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡２軒と加曽利Ｂ式期の住居跡１軒、遺物集中地点１か所、平成25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）１軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑１基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。その他、平成26（2014）年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとまって出土している。最新資料として、平成30（2018）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第216地点で、堀之内１式期の住居跡が１軒検出されている。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行Ⅲｃ式・千網式の土器片が少量発見されている。また、令和３（2021）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第234地点で、遺構外出土ではあるが、縄文時代晩期～弥生時代初頭に位置づけられる土器片が１点発見されている。以降市内では弥生時代中期まで空白の時代となる。

３．弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については令和元（2019）年に発掘調査された城山遺跡第96地点で市内初となる宮ノ台式期の住居跡１軒、方形周溝墓１基が検出された。住居跡からは壺、甕、高坏、抉入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。なお、これらの資料のうち、土器、石器、土製品計44点は、城山遺跡10号住居跡出土遺物として、考古資料として、市指定文化財（令和３年７月１日付け）に指定されている。

弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された中野遺跡第91地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原

式土器を出土する住居跡が発見されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壷形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が650軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅釧が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の３遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第８地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ１基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位のなまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壷、吉ヶ谷式系の壷、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の３要素の特徴を示す壷土器が出土している。なお、鳥形土製品１と壷形土器４点の計５点は、考古資料として、市指定文化財（平成25年３月１日付け）に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

４．古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第２地点の１号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第８地点の２～８号住居跡は、古墳時代前期でも比較的に新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成７（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、５世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

５世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に６世紀後葉から７世紀後葉にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的に古い５世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、６世紀後葉以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第８地点で初めて古墳時代後期（７世紀中葉）の住居跡が１軒検出されている。この住居跡は、３×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材のほかベンガラ塊が出土している。

現在、５世紀後葉から７世紀後葉にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で265軒、次いで中野遺跡で58軒、中道遺跡で20軒、田子山遺跡で17軒、新邸遺跡で１軒を数える。

また住居跡以外では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、６世紀後葉以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整円形で２か所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が１基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

５．奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山・富士前遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成８（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「冨」１文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片１点、布目瓦の小破片２点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朔十二銭の一つである富壽神寶（ふじゅしんぽう）が２枚とその近くからは鉄鎌１点と土錘１点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群と南比企窯跡群の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

最新では、令和元（2019）年と令和３（2021）年に一般国道254号和光富士見バイパス事業に伴い発掘調査が実施された上宿遺跡により、平安時代の住居跡・土壙・溝跡などが検出され、宗岡地区における自然堤防上に立地する遺跡の存在が明らかになりつつある。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか９点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の冨壽神寶ほか２点の遺物は、考古資料として、市指定文化財（平成25年３月１日付け）に指定されている。

６．中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と大塚千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『舘村旧記』（註１）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記』（註２）に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山　1988・2002）。

また、平成７（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土し

ており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成８（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、鋳造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鋳造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27･28（2015･2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鋳造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鋳型、鍋の耳部分の小型鋳型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成６（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鎧（よろい）の札（ねだ）である鉄製品１点と鉄鏃１点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑、その他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成27（2015）年度に第49地点の北側に隣接する第95地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新たに土坑45基・井戸跡２基・溝跡１本・ピット231本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「Ｔ字形」の火葬土坑５基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第２地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成７（1995）年の第37地点からは、人骨と古銭５枚を出土した土坑墓１基と13世紀に比定される青磁盤１点を出土した道路状遺構１条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第１地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の第８地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓２基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院（しょうりんざんかんのんじ　だいじゅいん）」関連遺構と考えられる。その後、平成25（2013）年には、中道遺跡第74地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

最新資料としては、令和２・３年度に発掘調査を実施した西原大塚遺跡第234地点の地下式坑（912号土坑）から、人骨（女性２体）と完形品の擂鉢が共伴する良好な資料が発見された。人骨は「通常とは異なる状況」で埋葬されたと考えられ（田中　2022）、擂鉢は古瀬戸後期Ⅳ古～新段階（藤澤2008）に比定されることから、時期は中世（15世紀中葉～後葉）のものと考えられる。

また、令和元（2019）年と令和３（2021）年に一般国道254号和光富士見バイパス事業に伴い発掘調査が実施された上宿遺跡により、中・近世の土壙・井戸跡・溝跡などの多くの遺構が検出され、中世における『宗岡宿』の様相や近世における千光寺に関連する墓域群などを知ることができる貴重な成果につながった。

７．近代以降

近代以降の遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治２～５年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第８地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

第２節　遺跡の概要

ここで、今回本書で報告する中野遺跡について概観することにする。

中野遺跡は、志木市柏町１丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北方約1.2㎞に位置している。遺跡は、柳瀬川流域右岸の台地上に立地しており、標高は北端で約９ｍ、南端で約11ｍを測り、台地縁辺では際立った断崖もみられないまま、ゆるやかに北側の低地に移行する。遺跡の現況は、宅地化が急速に進行している地域で、畑地は減少している。

本遺跡は、これまでに123地点の調査（令和４年８月１日現在）が実施され、旧石器時代、縄文時代早期～晩期、弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。

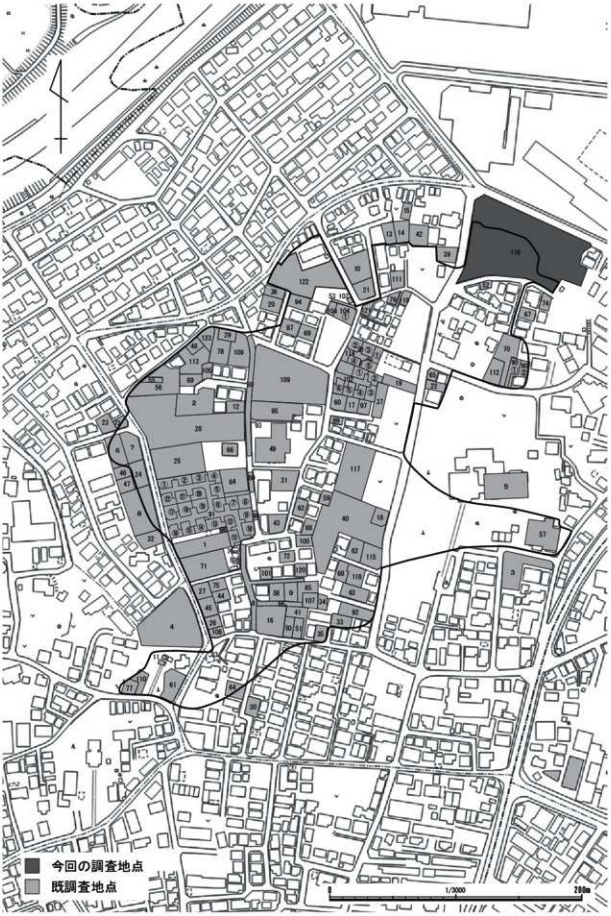
［註］

註１　『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門（みやはらなかうえもん）仲恒（なかつね）が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註２　『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18年（1486）６月から10か月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

［引用文献］

神山健吉　1988「廻回雑記」に現れる　大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第７号
2002「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第31号
田中　信　2022「第３章　調査のまとめ　第３節　中世以降について」『西原大塚遺跡第234地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第86集　埼玉県志木市教育委員会
藤澤良祐　2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院



令和４年８月１日現在

第２図　中野遺跡の調査地点（１／3,000）

第２章　発掘調査の概要

第１節　調査に至る経緯

令和２年10月、仲介業者であるＪＡあさか野から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市柏町１丁目1464－１の一部、1472－２・４の各一部、1473－１の一部、1473－４（面積4,757.06㎡）地において、個人による分譲住宅建設、個人専用住宅建設、駐車場建設等を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中野遺跡（コード11228－09－002）に一部該当及び隣接地であるため、大旨下記のとおり回答した。

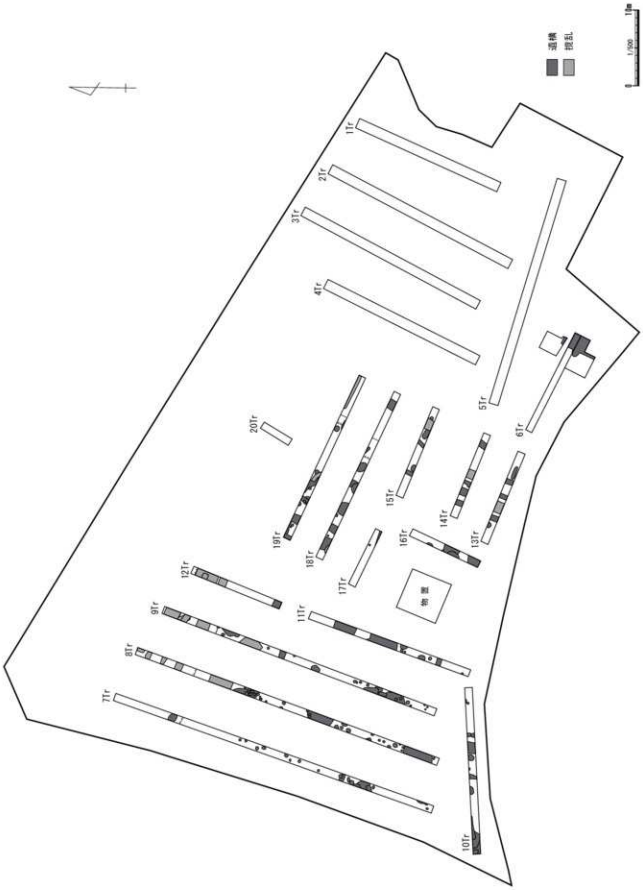
１．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

令和２年12月８日、教育委員会は、土木工事主体者である個人より確認調査依頼書を受理し、中野遺跡第116地点として、12月15日～19日に確認調査を実施した。なお、今回の地点の確認調査については、土木工事主体者の個人住宅である母屋及び納屋が既存しているため、まず、その母屋・納屋を除いた部分を第１期として実施することになった。第１期の確認調査は、第３図に示すように調査区東半部を対象とし、トレンチ６本（１～６Ｔｒ）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、６Ｔｒの東端から古墳時代後期の住居跡１軒を確認した。他のトレンチについては、台地下の低地であり、遺構は確認できなかった。教育委員会は、この結果をただちにＪＡあさか野を通し土木工事主体者に報告した。

令和３年１月、個人住宅である母屋の北側及び南側（庭部分）には樹木が植わっており、特に、北側には大木が何本も植わっているため、抜根しないものと伐採だけを行う樹木の選別を土木工事主体者・解体業者と教育委員会が現地で行った。さらに、まだ確認調査を実施していない調査区西半部については、引っ越し後の母屋解体後、残り全体を第２期として、一度に実施することで土木工事主体者と協議の上決定した。

３月、ＪＡあさか野から連絡があり、第２期の確認調査の依頼があったため、３月24日～27・29日に確認調査を実施した。第２期の確認調査は、第３図に示すように調査区西半部を対象とし、トレンチ14本（７～20Ｔｒ）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、第１期・第２期を合わせ、縄文時代の住居跡３軒・炉穴５基・土坑５基、古墳～平安時代の住居跡８軒、中世以降の土坑36基・溝跡12本など多くの遺構を確認した。教育委員会は、この結果をただちにＪＡあさか野を通し土木工事主体者に報告し、保存措置について検討を依頼した。同時に今回隣接地であった範囲については、埼玉県埋蔵文化財包蔵地調査カード（変更増補）を提出し、中野遺跡の範囲拡大の変更を行った。



第３図　確認調査時の遺構分布図（１／500）

４月、工事施工業者に決定した株式会社マイタウンから連絡があり、数度にわたる保存措置についての事前打合せを実施し、５月には、宅地造成（道路新設工事を含む）を基本計画とする保存措置について慎重に協議を行った。その結果、敷地全体（面積4,757.06㎡）のうち、道路新設工事部分と保護層を確保できなかった部分の面積1,380.69㎡については、発掘調査を実施することに決定した。

令和３年５月13日、教育委員会は土木工事主体者である個人より埋蔵文化財発掘調査依頼書が提出されたため、発掘調査の実施に向けた事前協議を実施した。

６月15日、土木工事主体者・教育委員会・民間調査組織の三者により事前協議を実施し、同日、中野遺跡第116地点埋蔵文化財保存事業に係る協定を土木工事主体者である個人、教育委員会、株式会社中野技術（代表取締役　菅原広志）の三者により締結した。

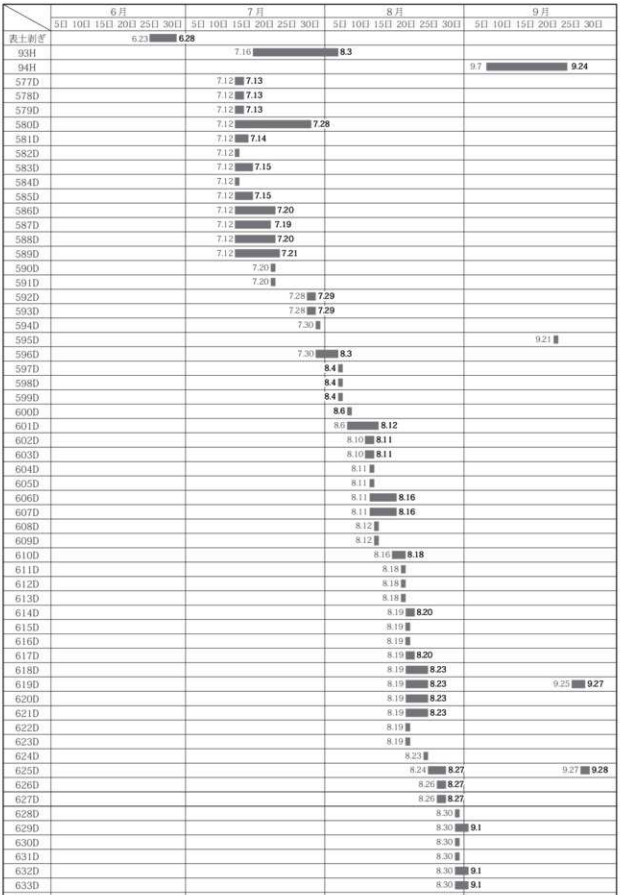
教育委員会は、６月16日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出した。以上により、教育委員会を調査主体に６月22日から発掘調査を実施した。

第２節　調査の経過

発掘調査は、令和３年６月23日から９月30日まで実施した。調査区は開発対象地の南西角側を１区、保護層を確保できない地形的に平坦面を有する中央から概ね南東・南西を含む南側を２区とした。以下、発掘調査の大まかな経過を説明し、各遺構の精査経過については、第２表の発掘調査工程表に示した。

準備作業として令和３年６月22日から現場事務所設営、器材搬入、基準点測量及び調査区の位置出しを行った後、23日から0.4㎥バックホー２台により１区の表土除去を開始し、続いて24日から28日に２区の表土除去を行った。７月３日に調査区まわりのオレンジネット設置を行い、７月５日続けて調査区整備や遺構確認作業、検出状況の写真撮影を行った後、12日から本調査を開始した。１区・２区は並行して調査を行ったが、１区を優先して終了した後に２区調査を本格稼働させた。

７月12日　本調査開始。土坑（577 ～ 589D）、ピット（１～ 5P）の精査を行う。
16日　住居跡（93H）、ピット（８～ 15P）の精査・写真撮影・平面測量を行う。
19日　ピット（23P）よりほぼ完形の尖頭器出土。出土状況は埋納的であるが当該覆土が中世以降のもので、遺構外扱いとする。29M掘削開始。
28日　住居跡（93H）完掘・写真撮影・平面測量。
29日　炉穴（68 FP）完掘・写真撮影・平面測量。
８月３日　１区空撮。29M掘削。
６日　土坑（600・601D）掘削・作図・写真撮影。２区北壁中央部確認面検出・掘り下げ。
11日　旧石器試掘坑（ＴＰ１）掘削。604 ～ 607D掘削・作図・写真撮影。国士舘大学学生の調査参加あり。
18日　70 ～ 72 FP掘削・作図・写真撮影。
23日　地下式坑（619D）竪坑完掘・写真撮影。
24日　地下式坑（625D）掘削。
25日　地下式坑（625D）掘削・作図・写真撮影。
31日　土坑（634D）掘削・作図・写真撮影。



第２表　発掘調査工程表（１）

第２表　発掘調査工程表（２）

9月１日　土坑（629・633・634D）完掘・写真撮影。

６日　２区東部攪乱掘削。

７日　住居跡（94H）プラン確認・写真撮影。

８日　１号道路状遺構検出。測量・写真撮影。

９日　住居跡（94H）掘削。土坑（635D）掘削・作図・完掘・写真撮影。

11日　住居跡（94H）写真・作図。165 ～ 177P掘削・作図・完掘・写真撮影。旧石器試掘坑（ＴＰ２）掘削。

13日　旧石器試掘坑（ＴＰ２）完掘・写真撮影。炉穴（74 FP）掘削・作図・写真。

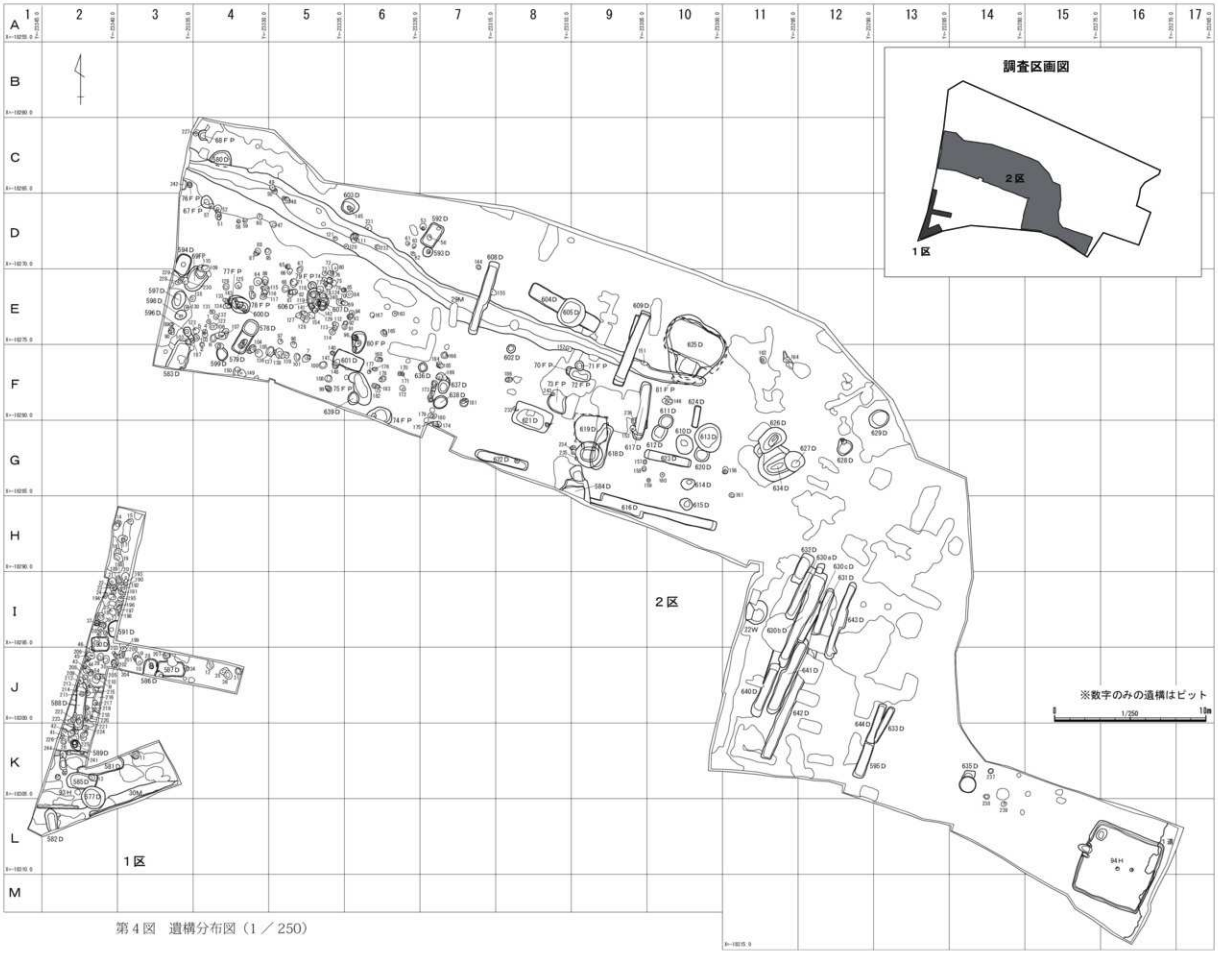
14日　住居跡（94H）遺物出土状況写真撮影・遺物取上げ・測量。炉穴（74 FP）完掘・写真撮影。179 ～ 186P完掘・写真撮影。旧石器試掘坑（ＴＰ３・４）掘削。

15日　炉穴（75 FP）掘削・完掘・写真撮影。２区空撮準備清掃。

16日　２区空撮準備清掃。空撮。

21日　住居跡（94H）カマド掘削・写真撮影・作図・完掘。

22日　炉穴（77 ～ 79 FP・81 FP）掘削・作図・写真撮影・完掘。旧石器試掘坑（ＴＰ５・６・８）掘削。



第４図　遺構分布図（1／250）

24日　１区埋め戻し。旧石器試掘坑（ＴＰ７・10・12）掘削。

25日　土坑（619D）掘削・完掘（0.1バックホー併用）。

27日　土坑（619D）写真撮影・測量。土坑（625D）掘削（0.1バックホー使用）・完掘。旧石器試掘坑（ＴＰ11）掘削。

28日　土坑（625D）写真撮影。旧石器試掘坑（ＴＰ13）掘削（0.25バックホー併用）。２区埋め戻し作業開始・撤収作業開始。

29日　旧石器試掘坑（ＴＰ13）完掘。２区埋め戻し作業・撤収作業。

30日　２区埋め戻し作業・撤収作業完了し、発掘作業を終了する。

第３節　基本層序

本調査区では13か所の旧石器試掘坑を設定し、基本層序を記録した。基本的に、立川ローム第Ｘ層上位相当まで掘り下げを行った。地形が傾斜する南東端のＴＰ13では地形に沿って110～130㎝掘削を行ったところ、上層では立川ロームⅢ層相当と推定される褐色系の土層が確認され、下層では地下水位が高いためかグライ化が進んでいる状態であった。ＴＰ13以外の調査区内では、２区西壁の南隅に近いＴＰ10で比較的良好に表土からの堆積が認められたが、他の地点では概ねⅡ～Ⅲ層が認められない状態であった。

Ⅰ層　黒褐色土　表土。

Ⅱ層　暗褐色土　白色粒子（φ0.5㎜）をごく僅かに、黒色スコリア（φ1㎜）・橙色スコリア（φ1㎜）を僅かに含む。しまり強い。

Ⅲ層　明黄褐色土　白色粒子（φ0.5㎜）・黒色スコリア（φ1㎜）・橙色スコリア（φ1.2㎜）をごく僅かに含む。粘性あり。しまり強い。

Ⅳ層　明黄褐色土　白色粒子（φ0.5㎜）・黒色スコリア（φ２～4㎜）・橙色スコリア（φ１～5㎜）を含む。粘性あり。しまり強い。

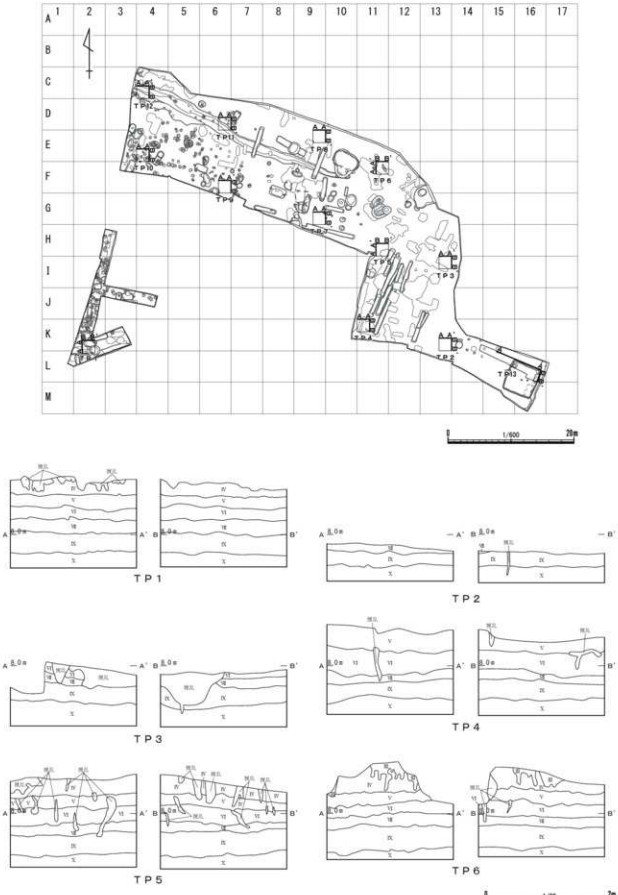
Ⅴ層　黄褐色土　白色粒子（φ0.5㎜）をごく僅かに、黒色スコリア（φ１～3㎜）・橙色スコリア（φ１～5㎜）を含む。粘性あり。しまり強い。第１黒色帯。黒色が薄い。

Ⅵ層　明黄褐色土　白色粒子（φ0.5㎜）・橙色スコリア（φ１～3㎜）を僅かに、黒色スコリア（φ１～5㎜）を含む。粘性あり。しまり強い。ＡＴ包含層準。

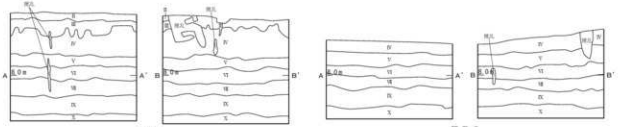
Ⅶ層　暗黄褐色土　白色粒子（φ0.5㎜）・橙色スコリア（φ１～3㎜）を僅かに、黒色スコリア（φ１～5㎜）を含む。粘性あり。しまり強い。軟質ローム。

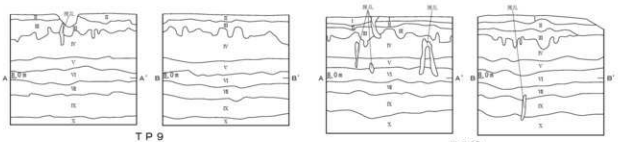
Ⅸ層　暗黄褐色土　白色粒子（φ0.5㎜）を僅かに、黒色スコリア（φ１～5㎜）・橙色スコリア（φ１～5㎜）を含む。粘性強い。しまり強い。第２黒色帯下層。

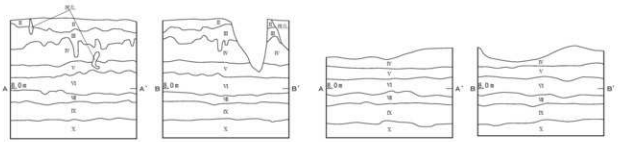
Ⅹ層　明黄褐色土　白色粒子（φ0.5㎜）をごく僅かに、黒色スコリア（φ１～2㎜）・橙色スコリア（φ１～2㎜）を僅かに含む。粘性強い。しまり強い。

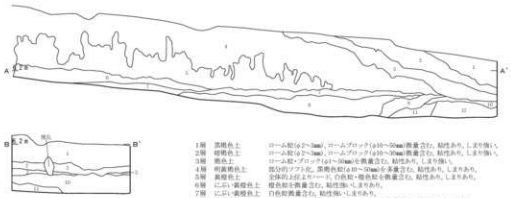


第５図　基本層序１（１／600・１／60）









第６図　基本層序２（１／60）

第３章　検出された遺構・遺物

第１節　縄文時代の遺構・遺物

（１）概要

本地点からは、縄文時代の炉穴15基（67～81ＦＰ）、土坑９基（580・597～599・603・610・612・626・634D）、ピット２本（116・122P）が検出された。炉穴で遺物が出土したのは、69・70・73～75ＦＰで、69ＦＰでは羽状縄文系土器が、70・73～75ＦＰでは条痕文系土器が出土し、それぞれ早期後半から前期前半の所産と考えられ、それ以外の炉穴からは遺物が伴わなかった。土坑は580Dから早期末葉から前期初頭の条痕文系土器が、599・603・612Dから縄文土器の小片が出土し、それ以外は遺物が伴わなかった。ピットは、116Pで擦痕状の条痕文系土器片が、122Pから早期末葉～前期初頭の条痕文系土器片が出土している。

（２）炉穴

67号炉穴

遺　構　（第７図）

［位　置］（Ｄ－４）グリッド

［検出状況］ 29Ｍ、57Pに切られる。

［構　造］ **平面形**：円形。**断面形**：西壁は61°で立ち上がり、東壁は緩やかに立ち上がる途中で57Pに切られる。底面はほぼ平坦。**規模**：長軸85㎝／短軸76㎝／深さ32㎝。**主軸方位**：Ｎ－49°－Ｗ。

［覆　土］ ３層に分層される。

［遺　物］ なし。

［時　期］ 覆土の観察から、縄文時代と思われる。

68号炉穴

遺　構　（第７図）

［位　置］（Ｃ－４）グリッド

［検出状況］ 単独。

［構　造］ **平面形**：円形。**断面形**：西壁は39°で立ち上がり、東壁は撹乱により切られている。底面は尖底状である。**規模**：長軸70㎝／短軸現況56㎝／深さ16㎝。**主軸方位**：Ｎ－84°－Ｅ。

［覆　土］ 単層である。

［遺　物］ なし。

［時　期］ 覆土の観察から、縄文時代と思われる。

69号炉穴

遺　構　（第７図）

［位　　置］（Ｄ－３・４、Ｅ－３・４）グリッド
［検出状況］ 109・110・230Pに切られる。
［構　　造］ **平面形**：楕円形。**断面形**：46°で立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸現況147㎝／短軸120㎝／深さ26㎝。**主軸方位**：Ｎ－36°－Ｅ。
［覆　　土］ ４層に分層される。
［遺　　物］ 地点上げ遺物で、石器１点、土器３点。一括遺物で、土器１点が出土した。
［時　　期］ 出土遺物と覆土の観察から、縄文時代早期末葉から前期前半と思われる。
遺　　物　（第10図１・２、図版11－１－１・２、第３表）
［土　　器］（第10図１・２、図版11－１－１・２、第３表）
１は前期前半の土器、２は表裏無文の羽状縄文系の土器である。

70号炉穴

遺　　構　（第７図）
［位　　置］（Ｆ－８・９）グリッド
［検出状況］ 72 FPに切られる。
［構　　造］ **平面形**：円形。**断面形**：立ち上がりはほとんど確認できず、焼土面のみの検出である。**規模**：長軸60㎝／短軸現況40㎝／深さ５㎝。**主軸方位**：Ｎ－68°－Ｗ。
［覆　　土］ 単層（４層）である。
［遺　　物］ 一括遺物で土器１点が出土した。
［時　　期］ 出土遺物と覆土の観察から、縄文時代早期後半と思われる。
遺　　物　（第10図１、図版11－１－１、第３表）
［土　　器］（第10図１、図版11－１－１、第３表）
１は表裏条痕文のある条痕文系の土器である。

71号炉穴

遺　　構　（第７図）
［位　　置］（Ｆ－９）グリッド
［検出状況］ 72 FPを切る。
［構　　造］ **平面形**：円形。**断面形**：47°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。**規模**：長軸70㎝／短軸54㎝／深さ17㎝。主軸方位：Ｎ－1°－Ｅ。
［覆　　土］ ２層（６・７層）に分層される。
［遺　　物］ なし。
［時　　期］ 覆土の観察から、縄文時代と思われる。

72号炉穴

遺　　構　（第７図）
［位　　置］（Ｆ－８・９）グリッド
［検出状況］ 70 FPを切り、71 FPに切られる。

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**断面形**：64°で直線的に立ち上がる。底面はほぼ平坦。**規模**：長軸142㎝／短軸80㎝／深さ12㎝。**主軸方位**：N－55°－W。

［覆　　土］　４層（１～３・５層）に分層される。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、縄文時代と思われる。

73号炉穴

遺　　構　（第７図）

［位　　置］　（F－８）グリッド

［検出状況］　243Pに切られる。

［構　　造］　**平面形**：不整円形。**断面形**：南壁は50°で緩やかに立ち上がり、北壁は立ち上がりが確認できなかった。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸180㎝／短軸132㎝／深さ32㎝。**主軸方位**：N－16°－W。

［覆　　土］　４層に分層される。

［遺　　物］　一括遺物で胎土に繊維を含んだ条痕文系の土器１点が出土した。小片のため不掲載。

［時　　期］　出土遺物と覆土の観察から、縄文時代早期末葉から前期初頭と思われる。

74号炉穴

遺　　構　（第７図）

［位　　置］　（F－６、G－６）グリッド

［検出状況］　遺構南部は調査区外である。

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**断面形**：ピット状の深まり部分はほぼ垂直に立ち上がる。西壁は40°前後で緩やかに立ち上がり、東壁は50°前後で直線的に立ち上がる。底面はほぼ平坦。**規模**：長軸162㎝／短軸86㎝／深さ76㎝。**主軸方位**：N－89°－E。

［覆　　土］　９層に分層される。

［遺　　物］　一括遺物で土器３点が出土した。

［時　　期］　出土遺物と覆土の観察から、縄文時代早期後半と思われる。

遺　　物　（第10図１、図版11－１－１、第３表）

［土　　器］　（第10図１、図版11－１－１、第３表）

１は表裏に浅い条痕をもつ条痕文系土器である。

75号炉穴

遺　　構　（第７図）

［位　　置］　（F－６）グリッド

［検出状況］　639Dに切られる。

［構　　造］　**平面形**：長楕円形。**断面形**：南壁は40°前後で緩やかに立ち上がり、北壁は70°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。**規模**：長軸230㎝／短軸102㎝／深さ45㎝。**主軸方位**：N－15°－W。

［覆　　土］　５層に分層される。

［遺　　物］ 一括遺物で土器８点が出土した。

［時　　期］ 出土遺物と覆土の観察から、縄文時代早期後半と思われる。

遺　　物 （第10図１～４、図版11－１－１～４、第３表）

［土　　器］ （第10図１～４、図版11－１－１～４、第３表）

１は撚糸文系、２～４は条痕文系土器である。

76号炉穴

遺　　構 （第７図）

［位　　置］ （Ｃ－３）グリッド

［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：円形。**断面形**：50°～60°で緩やかに立ち上がる。底面は丸底気味。**規模**：長軸40㎝／短軸32㎝／深さ15㎝。**主軸方位**：Ｎ－42°－Ｗ。

［覆　　土］ ２層に分層される。

［遺　　物］ なし。

［時　　期］ 覆土の観察から、縄文時代と思われる。

77号炉穴

遺　　構 （第８図）

［位　　置］ （Ｅ－４）グリッド

［検出状況］ 78ＦＰ、134・143Ｐに切られる。

［構　　造］ **平面形**：円形。**断面形**：掘り込み部分は60°前後で直線的に立ち上がり、西壁は段を持ちながら、ほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。**規模**：長軸80㎝／短軸26㎝／深さ27㎝。**主軸方位**：Ｎ－27°－Ｅ。

［覆　　土］ 単層（１～６層）である。

［遺　　物］ なし。

［時　　期］ 覆土の観察から、縄文時代と思われる。

78号炉穴

遺　　構 （第８図）

［位　　置］ （Ｅ－４）グリッド

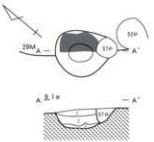
［検出状況］ 77ＦＰを切り、600Ｄ・143Ｐに切られる。

［構　　造］ **平面形**：楕円形。**断面形**：40°前後で緩やかに立ち上がる。底面はやや凸凹。**規模**：長軸124㎝／短軸104㎝／深さ40㎝。**主軸方位**：Ｎ－18°－Ｅ。

［覆　　土］ ８層（７～12層）に分層される。

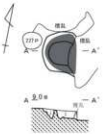
［遺　　物］ なし。

［時　　期］ 覆土の観察から、縄文時代と思われる。



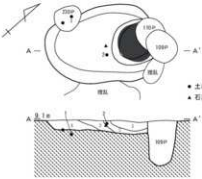
1層　暗褐色土　焼土粒(φ1～5mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　にぶい赤褐色土　焼土粒(φ1～5mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　にぶい黄褐色土　焼土粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。

67号炉穴



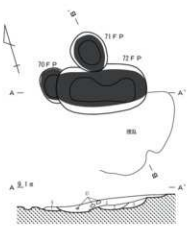
1層　赤褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性強い。しまり弱い。

68号炉穴



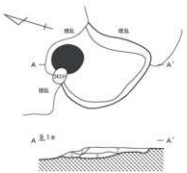
1層　にぶい黄褐色土　焼土粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐色土　焼土粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

69号炉穴



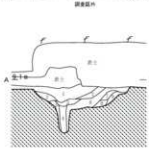
1層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)・焼土粒・ブロック(φ1～10mm)・礫(φ50～100mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　灰黄褐色土　焼土粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　褐灰色土　焼土粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
5層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
6層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)・焼土粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
7層　灰黄褐色土　焼土粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

70・71・72号炉穴



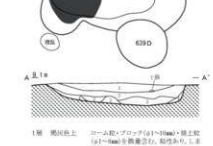
1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)・焼土粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)・焼土粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

73号炉穴



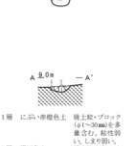
1層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　褐灰色土　焼土粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　褐灰色土　粘土粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
5層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)・焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
6層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
7層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
8層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
9層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

74号炉穴



1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)・焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)・焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量、焼土・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
5層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

75号炉穴

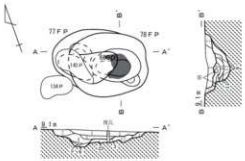


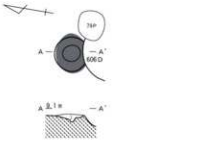
1層　にぶい赤褐色土　焼土粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2層　褐灰色土　焼土粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。

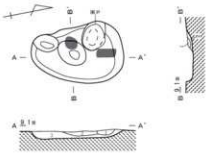
76号炉穴

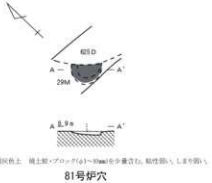
焼土範囲
被熱赤化範囲
1/60　2m

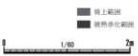
第７図　炉穴１（１／60）











第８図　炉穴２（１／60）

79号炉穴

遺　　構　（第８図）

［位　　置］（Ｅ－５）グリッド

［検出状況］　606Dに切られる。

［構　　造］　**平面形**：円形。**断面形**：北壁は15°で直線的に立ち上がり、南壁は段を持ちながら、39°～59°で立ち上がる。底面は中央部に掘り込みがある。**規模**：長軸52㎝／短軸44㎝／深さ17㎝。**主軸方位**：Ｎ－77°－Ｅ。

［覆　　土］　単層である。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、縄文時代と思われる。

80号炉穴

遺　　構　（第８図）

［位　　置］（Ｅ－６・Ｆ－６）グリッド

［検出状況］　96Pに切られる。

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**断面形**：南壁は40°前後で緩やかに弧を描きながら立ち上がり、北壁は

30°前後に直線的に立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸150㎝／短軸94㎝／深さ23㎝。**主軸方位**：N－12°－E。

［覆　　土］　３層に分層される。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、縄文時代と思われる。

81号炉穴

遺　　構　（第８図）

［位　　置］　（F－10）グリッド

［検出状況］　29M・625Dに切られる。

［構　　造］　**平面形**：円形。**断面形**：西から東に緩やかに傾斜し、東壁は直線的に62°で立ち上がる。底面は平坦で、東に傾く。**規模**：長軸50㎝／短軸現況46㎝／深さ24㎝。**主軸方位**：N－43°－W。

［覆　　土］　単層である。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、縄文時代と思われる。

（３）土坑

580号土坑

遺　　構　（第９図）

［位　　置］　（C－４）グリッド

［検出状況］　29Mに切られる。

［構　　造］　**平面形**：不整楕円形。**断面形**：東壁は60°前後で緩やかに立ち上がり、西壁は29Mに切られる。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸150㎝／短軸現況102㎝／深さ29㎝。**主軸方位**：N－38°－E。

［覆　　土］　４層に分層される。

［遺　　物］　地点上げ遺物で土器４点と、一括遺物で土器15点が出土した。その内、縄文土器１点を掲載。

［時　　期］　覆土の観察と遺物の出土状況から縄文時代早期後半から前期初頭と思われる。

遺　　物　（第10図１、図版11－１－１、第３表）

［土　　器］　（第10図１、図版11－１－１、第３表）

１は条痕文系の土器である。口唇部に押圧によるランダムな窪みが見られ、胎土には繊維を含み表裏に擦痕状の条痕がある。

597号土坑

遺　　構　（第９図）

［位　　置］　（E－３）グリッド

［検出状況］　単独。

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**断面形**：北壁は50°前後で直線的に立ち上がり、南壁は10°～65°で緩

やかに弧を描きながら立ち上がる。底面は平坦。**規模**：長軸120㎝／短軸80㎝／深さ25㎝。**主軸方位**：N－23°－E。

［覆　　土］　３層に分層される。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、縄文時代と思われる。

598号土坑

遺　　構　（第９図）

［位　　置］　（E－３）グリッド

［検出状況］　単独。

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**断面形**：西壁は22°～42°でやや段を持ちながら立ち上がり、東壁は13°～70°で緩やかに弧を描いたあとに、53°で直線的に立ち上がる。底面は丸底。**規模**：長軸80㎝／短軸58㎝／深さ37㎝。**主軸方位**：N－71°－W。

［覆　　土］　２層に分層される。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、縄文時代と思われる。

599号土坑

遺　　構　（第９図）

［位　　置］　（F－４）グリッド

［検出状況］　3Pに切られる。

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**断面形**：東壁は50°で直線的に立ち上がったあとに段を持ち、12°～77°で弧を描きながら緩やかに立ち上がる。西壁は3Pに切られる。底面はほぼ平坦。**規模**：長軸85㎝／短軸74㎝／深さ16㎝。**主軸方位**：N－15°－W。

［覆　　土］　２層に分層される。

［遺　　物］　一括遺物で縄文土器が２点出土した。いずれも小片のため、不掲載。

［時　　期］　出土遺物と覆土の観察から、縄文時代前期と思われる。

603号土坑

遺　　構　（第９図）

［位　　置］　（D－５・６）グリッド

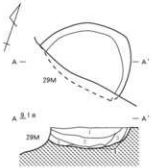
［検出状況］　145Pに切られる。

［構　　造］　**平面形**：円形。**断面形**：北壁は44°～80°で立ち上がり、南壁は20°～65°で緩やかに立ち上がる。底面中央は145Pに切られているが、ほぼ平坦である。**規模**：長軸120㎝／短軸104㎝／深さ29㎝。**主軸方位**：N－78°－E。

［覆　　土］　２層に分層される。

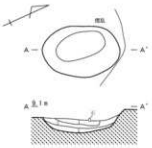
［遺　　物］　一括遺物で、縄文土器２点が出土した。いずれも小片のため、不掲載。

［時　　期］　出土遺物と覆土の観察から、縄文時代と思われる。



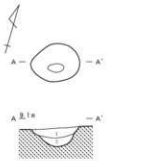
1層　灰色土　　ローム粒・赤色粒(φ1～3mm)を微量、炭(φ10～50mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗灰色土　　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。遺文土器出土。粘性あり、しまりあり。
3層　オリーブ黒色土　　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　オリーブ褐色土　　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。

580号土坑



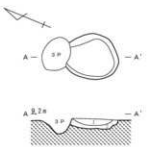
1層　褐色土　　ローム粒・焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黄褐色土　　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　明黄褐色土　　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

597号土坑



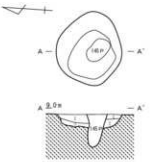
1層　褐灰色土　　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　にぶい黄褐色土　　ローム粒(大部分)をわずかに含む。粘性あり、しまりあり。

598号土坑



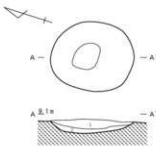
1層　にぶい黄褐色土　　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)・焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黄橙色土　　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。

599号土坑



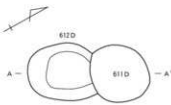
1層　灰色土　　ローム粒(φ1～2mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　にぶい黄褐色土　　ローム粒(φ1～2mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

603号土坑



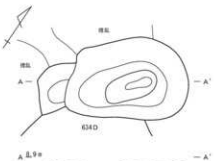
1層　灰黄褐色土　　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黄褐色土　　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

610号土坑



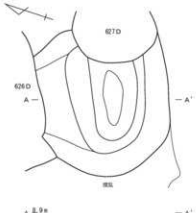
1層　褐灰色土　　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　灰色土　　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　明黄褐色土　　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。

612号土坑



1層　黄褐色土　　ローム粒(φ1～5mm)・焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　褐色土　　ローム粒(φ1～5mm)・焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　褐色土　　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　黄褐色土　　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
5層　暗黄褐色土　　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。

626号土坑



1層　明黄褐色土　　黄褐色粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黄褐色土　　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　黄褐色土　　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　明黄褐色土　　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。

634号土坑

0　1/60　2m

第９図　土坑（１／60）

610号土坑

遺　構　（第9図）

［位　　置］（G－10）グリッド

［検出状況］単独。

［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：西壁は30°～50°で緩やかに立ち上がり、東壁は5°～33°で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸132㎝／短軸112㎝／深さ26㎝。**主軸方位**：N－18°－E。

［覆　　土］２層に分層される。

［遺　　物］なし。

［時　　期］覆土の観察から、縄文時代と思われる。

612号土坑

遺　構　（第9図）

［位　　置］（G－10）グリッド

［検出状況］611Dに切られる。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：南壁は27°で立ち上がったあと、69°で直線的に立ち上がる。北壁は35°～65°で立ち上がり、底面は中央が窪む。**規模**：長軸現況100㎝／短軸94㎝／深さ46㎝。**主軸方位**：N－29°－E。

［覆　　土］３層に分層される。

［遺　　物］一括遺物で、縄文土器３点、礫１点が出土した。いずれも小片のため、不掲載。

［時　　期］出土遺物と覆土の観察から、縄文時代と思われる。

626号土坑

遺　構　（第9図）

［位　　置］（G－11）グリッド

［検出状況］634Dを切る。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：緩やかな丸底から北壁は30°で立ち上がったあと、上部で69°で直線的に立ち上がる。南壁は20°～50°で立ち上がり、上部で段をもって40°で立ち上がる。**規模**：長軸現況236㎝／短軸130㎝／深さ97㎝。**主軸方位**：N－55°－E。

［覆　　土］５層に分層される。

［遺　　物］なし。

［時　　期］覆土の観察と遺構の切り合いから、縄文時代と思われる。

634号土坑

遺　構　（第9図）

［位　　置］（G－11）グリッド

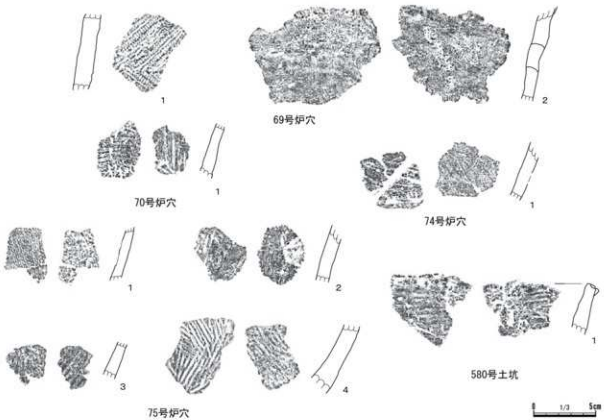
［検出状況］626・627Dに切られる。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：丸底の底部から40～50°でロート状に立ち上がる。**規模**：長軸現況245㎝／短軸215㎝／深さ94㎝。**主軸方位**：N－61°－E。

［覆　土］　４層に分層される。

［遺　物］　旧石器時代の縦長剥片が出土し遺構外遺物として扱った（第50図２）。

［時　期］　覆土の観察から、縄文時代と思われる。



第10図　炉穴・土坑出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	時期 型式等	出土位置
第10図1 図版11-1-1	69FP	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.5	器形は直線的に外傾する	横位ＬＲＬを条方向に付加／羽状構成	赤褐色／石英・白色粒子・繊維	縄文前期 関山～黒浜式	覆土下層
第10図2 図版11-1-2	69FP	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.8	器形は外傾する	内外面無文／外面上部に粘土紐接合時の粘土はみ出しが見られる	内：灰黄褐色／外：橙色／石英・角閃石・白色粒子・繊維	縄文前期 羽状縄文系	覆土中層
第10図1 図版11-1-1	70FP	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.0	器形は直線的に外傾する	内面は縦位、外面は横位の条痕文	内：暗赤灰色／外：赤褐色／石英・白色砂粒・繊維	縄文早期後半 条痕文系	覆土
第10図1 図版11-1-1	74FP	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.1	器形は直線的に外傾する	内外面に斜位の浅い条痕文	内：にぶい褐色／外：にぶい赤褐色／石英・チャート・長石・白色粒子・繊維	縄文早期後半 条痕文系	覆土
第10図1 図版11-1-1	75FP	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 0.8	器形は直線的に外傾する	撚糸Ｌ縦位施文／内面は器面の剥落が著しい	内：灰黄褐色／外：にぶい黄橙色／石英・角閃石・白色粒子	縄文早期前半 撚糸文系	覆土
第10図2 図版11-1-2	75FP	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.2	器形は直線的に外傾する	内外面に浅い条痕文	橙色／石英・砂粒・繊維	縄文早期後半 条痕文系	覆土
第10図3 図版11-1-3	75FP	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.0	器形は直線的に外傾する	内外面に浅い条痕文	内：褐灰色／外：明褐色／石英・砂粒・繊維	縄文早期後半 条痕文系	覆土
第10図4 図版11-1-4	75FP	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 2.0	器形は僅かに内湾する	内外面に斜位の明瞭な条痕文	内：褐灰色／外：橙色／石英・白色砂粒・繊維	縄文早期後半 条痕文系	覆土
第10図1 図版11-1-1	580D	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	高［4.1］ 厚 1.3	器形は直線的に外傾する	口唇端面に押圧／表裏面擦痕状の条痕	内：赤褐色／外：灰褐色／石英・白色砂粒・繊維	縄文早期後半 ～前期初頭 茅山上層以降	覆土

第３表　炉穴・土坑出土土器一覧

（4）ピット

縄文時代のピットは、出土遺物と覆土の観察及び遺構の切り合いから判断した。縄文時代と推定された２本（116・122P）とも出土遺物は僅かであった。

116号ピット

遺　　構　（第11図）

［位　　置］（Ｅ－４）グリッド

［検出状況］ 115・117Pに切られる。

［構　　造］ **平面形**：円形。**断面形**：尖底。**規模**：36㎝×36㎝／深さ79㎝。**主軸方位**：Ｎ－83°－Ｗ。

［覆　　土］ ２層に分層される。

［遺　　物］ 条痕文系土器が１点出土した。小片のため、不掲載。

［時　　期］ 出土遺物から、縄文時代早期末葉～前期初頭と想定される。

122号ピット

遺　　構　（第11図）

［位　　置］（Ｅ－４）グリッド

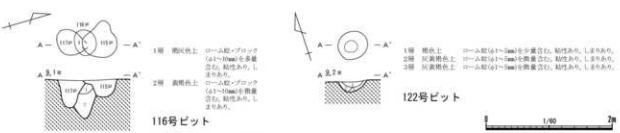
［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：円形。**断面形**：長胴丸底。**規模**：長軸46㎝／短軸42㎝／深さ18㎝。**主軸方位**：Ｎ－71°－Ｅ。

［覆　　土］ ３層に分層される。

［遺　　物］ 条痕文系土器２点が出土した。小片のため、不掲載。

［時　　期］ 出土遺物と覆土の観察から、縄文時代早期末葉～前期初頭と想定される。



第11図　ピット（１／60）

第２節　古墳時代後期・平安時代の遺構・遺物

（1）概要

古墳時代の遺構は、後期の住居跡１軒（94H）が２区南東隅から検出された。住居の時期は７世紀中葉に比定され、出土遺物は少なかったが、土器・石製品（紡錘車）などが出土した。

平安時代の遺構は、１区から住居跡１軒（93H）、２区から土坑２基（606・615D）が検出された。住居の時期は９世紀中葉と想定される。出土遺物は、攪乱や中近世の遺構に切られ覆土が殆ど遺存しな

かったが、僅かに須恵器坏片と土師器甕片が、いずれも床面付近から出土した。２基の土坑からは、いずれも平安時代の土器が僅かに出土している。

（２）住居跡

93号住居跡

遺　構　（第12図）

［位　置］（Ｋ－１・２、Ｌ－１・２）グリッド

［検出状況］　１区南西部で検出。577・581・585D、13・241・244Pに切られる。

［構　造］　**平面形**：やや歪んだ略方形。**規模**：長軸現況390㎝／短軸現況334㎝／深さ12㎝。**壁**：70°で立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ－1°－Ｅ。**壁溝**：P1、13・241・244P、577・581・585Dに壊されており、調査区は範囲内で北側と南壁の一部に確認された。上幅現況34㎝／下幅現況18㎝／深さ現況43㎝。**床面**：硬化面は住居中央部分で不定形な範囲で確認された。**カマド**：調査区内では、検出されなかった。**炉**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：ピットが４基確認された。P1、P2は平面が楕円形、P3は円形で、P1が住居北壁を共有し、以下P2、P3と南側に一列に連続して確認された。深さは、P1が42㎝、P2が17㎝、P3が26㎝である。P4は住居の中央部分に位置し、深さは32㎝である。

［覆　土］　６層に分層される。

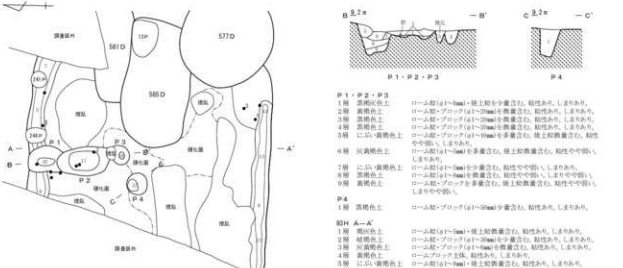
［遺　物］　土師器133点、須恵器９点が出土した。その内、５点を図示した。

［時　期］　平安時代（９世紀中葉）。

遺　物　（第13図、図版12－１－１～５、第４表）

［土　器］（第13図１～５、図版12－１－１～５、第４表）

１～３は須恵器坏、４、５は土師器甕である。



第12図　93号住居跡（１／60）

第13図　93号住居跡出土遺物（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	出土位置
第13図1 図版12-1-1	須恵器 坏	口縁部～底部 60％	高［3.4］ 底 7.9	体部はやや内湾し、内底の爪先技法が顕著	底部回転糸切り後未調整／東金子産／HⅥ期 （９ｃ１～Ⅱ四半期）	内：にぶい黄橙色／外：明灰黄色／底：にぶい黄橙色／チャート・白色粒子	覆土上層
第13図2 図版12-1-2	須恵器 坏	口縁部～底部 10％	口［12.4］ 高 2.8 底［6.4］	口縁から体部はゆるやかに外反する／口辺部は短く外反	底部回転糸切り後未調整／東金子産／HⅥ期 （９ｃ１～Ⅱ四半期）	灰黄色／長石・チャート・白色砂粒	P2覆土中層
第13図3 図版12-1-3	須恵器 坏	体部～底部 10％	厚 0.7	底面欠損／ロクロ成形	器表はなめらか／東金子産／HⅥ期 （９ｃ１～Ⅱ四半期）	浅黄色／チャート・白色粒子・黒色粒子	覆土上層
第13図4 図版12-1-4	土師器 甕	口縁部 破片	口［20.0］ 高［2.2］	武蔵型甕／長甕／口縁部は外反し、口辺部はわずかに立ち上がる	内外面横ナデ	内：褐色／外：明赤褐色／石英・長石・角閃石	覆土
第13図5 図版12-1-5	土師器 甕	口縁部～頸部 破片	口［19.0］ 高［3.2］	武蔵型甕／長甕／口縁部はコの字型を呈する	内外面横ナデ	赤褐色／石英・長石・チャート	覆土中層

第４表　93号住居跡出土土器一覧

94号住居跡

遺　構　（第14・15図）

［位　置］（Ｌ－15・16、Ｍ－15・16）グリッド

［検出状況］　２区南東部で検出。

［構　造］　**平面形**：方形。**規模**：長軸現況500㎝／短軸現況500㎝／深さ66㎝。**壁**：80°で立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ－67°－Ｗ。**壁溝**：カマド部以外全周する。上幅15～32㎝／下幅６～14㎝／深さ13㎝。**床面**：西壁から273～377㎝の範囲は地山である。掘り方は、南東部にかけて深くなっている。そのため住居南東端の貼床の厚さは44㎝前後である。**カマド**：西壁中央に長軸98㎝／短軸95㎝／深さ128㎝のカマドを検出。**貯蔵穴**：カマドの東脇に確認。長軸80㎝／短軸62㎝／深さ36㎝。**柱穴**：ピットが２基確認された。深さは、P1が43㎝、P2が31㎝である。

［覆　土］　13層に分層される。

［遺　物］　土器651点、紡錘車１点が出土した。

［時　期］　古墳時代後期（７世紀中葉）。

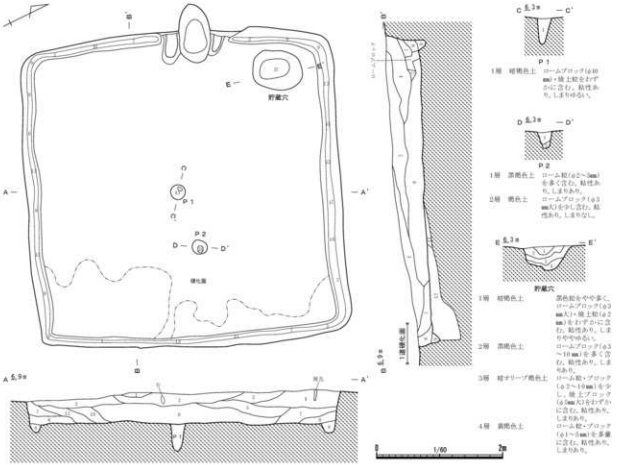
遺　物　（第16図、図版11－２－１～８、第５表）

［土　器］（第16図１～７、図版11－２－１～７、第５表）

１～３は土師器坏、４～７は土師器甕、平面分布は主に住居西側と貯蔵穴付近からの出土で、垂直分布は床面付近と西側から中央へ傾斜して分布する傾向が伺える。

［石 製 品］（第16図８、図版11－２－８、第５表）

８は滑石製紡錘車で、西コーナー付近で床から５㎝ほど浮いて出土した。

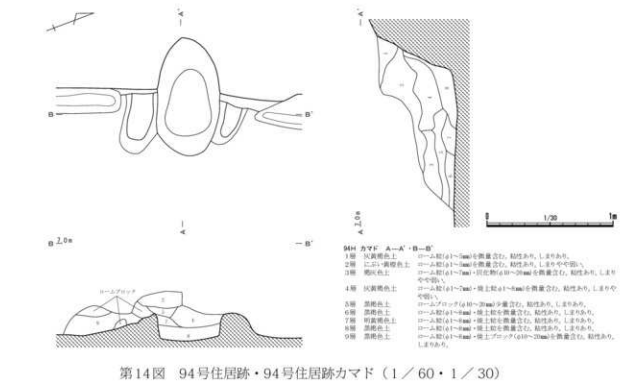


1層　明黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　明黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　黒色土　ローム粒(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
5層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
6層　にぶい黄橙色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)・貝化物(φ1～20mm)・焼土粒を少量含む。粘性あり、しまりあり。
7層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
8層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
9層　にぶい黄橙色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
10層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。焼土粒微量含む。粘性あり、しまりあり。
11層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
12層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
13層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

1層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ10mm)・焼土粒をわずかに含む。粘性あり、しまりゆるい。

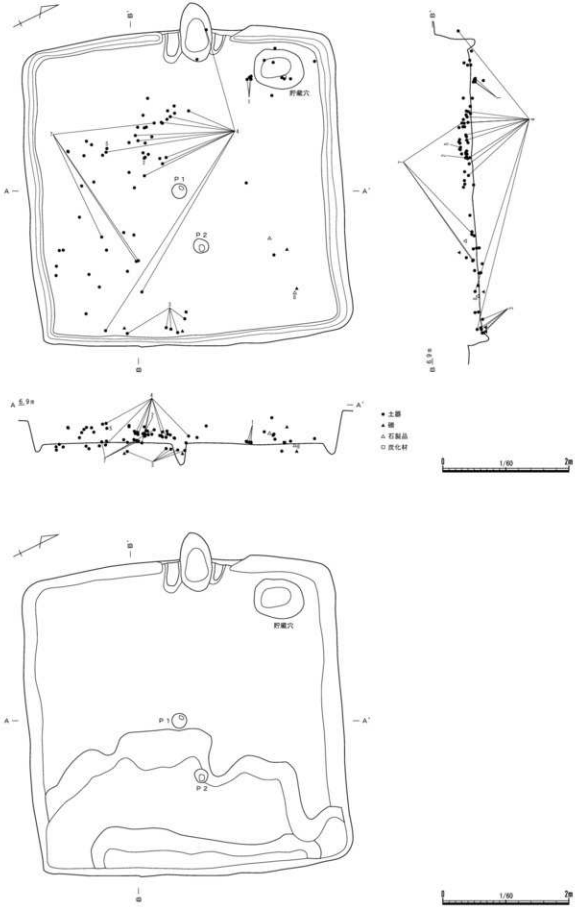
1層　黒褐色土　ローム粒(φ2～3mm)を多く含む。粘性あり、しまりあり。
2層　褐色土　ローム粒・ブロック(φ3mm大)を少し含む。粘性あり、しまりなし。

1層　暗褐色土　黒色粒をやや多く、ローム粒・ブロック(φ3mm)・焼土粒(φ2mm)をわずかに含む。粘性あり、しまりややゆるい。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ3～10mm)を多く含む。粘性あり、しまりあり。
3層　暗オリーブ褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～10mm)を少し、焼土ブロック(φ4mm大)をわずかに含む。粘性あり、しまりあり。
4層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～5mm)を多量に含む。粘性あり、しまりあり。

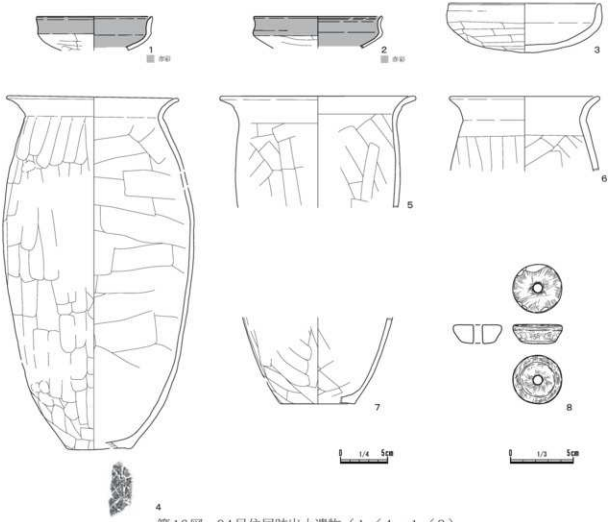


94H　カマド　A―A'・B―B'
1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
3層　褐灰色土　ローム粒(φ1～7mm)・貝化物(φ10～20mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
4層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～7mm)・焼土粒(φ1～4mm)を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
5層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ10～30mm)少量含む。粘性あり、しまりあり。
6層　黒褐色土　ローム粒(φ1～6mm)・焼土粒を微量含む。粘性あり、しまりあり。
7層　明黄褐色土　ローム粒(φ1～6mm)・焼土粒を微量含む。粘性あり、しまりあり。
8層　黒褐色土　ローム粒(φ1～6mm)・焼土粒を微量含む。粘性あり、しまりあり。
9層　黒褐色土　ローム粒(φ1～6mm)・焼土ブロック(φ10～20mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

第14図　94号住居跡・94号住居跡カマド（1／60・1／30）



第15図　94号住居跡遺物出土状況・掘り方（1／60）



第16図　94号住居跡出土遺物（１／４・１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	出土位置
第16図1 図版11-2-1	土師器 坏	口縁部～底部 破片	口［12.1］ 高［3.6］	いわゆる比企型坏／口唇部内面に沈線が巡る／口縁部と底部の境に稜をもつ／内面及び外面口縁部は赤彩／人間系土師器	内面：横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下横・斜位のヘラ削り後ヘラナデ	赤褐色／チャート・砂粒	貯蔵穴 覆土下層
第16図2 図版11-2-2	土師器 坏	口縁部～底部 破片	口（13.6） 高［3.4］	いわゆる比企型坏／口唇部内面に沈線がまわる／口縁部と底部の境に明瞭な稜をもつ	内面及び外面口縁部は赤彩／内面：横ナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下ヘラ削り後ヘラナデ	赤褐色／底：にぶい橙色／石英・チャート・赤色粒子・黒色粒子	覆土中層
第16図3 図版11-2-3	土師器 坏	60％	口（15.8） 高　5.2 厚　0.9	口縁部内面はほぼ直立し、外面はやや内傾する／口縁と底部の境に稜を有す／大型	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、以下横・斜位のヘラ削り	橙色／石英・チャート・長石・砂粒	覆土
第16図4 図版11-2-4	土師器 甕	70％	口　18.0 高　34.4 底［6.8］	長甕／口縁は強く外縁する／最大径は胴部中位にもつ	内面：口縁部は横ナデ、以下横・斜位のヘラナデ／外面：：口縁部は横ナデ、胴部上位は縦位のヘラ削り、下部は縦位ヘラ削り後横・縦位のヘラ削り／胴部はゆがむ／底面に木葉痕	にぶい橙色／石英・長石・チャート・砂粒	カマド覆土中層
第16図5 図版11-2-5	土師器 甕	口縁部～胴部 中位破片	口（20.0） 高［11.8］	長甕／口縁部は強く外反／最大径を口縁部にもつ	内面：口縁部は横ナデ、以下斜位のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下斜位のヘラナデ	内：褐色／外：橙色／石英・長石・角閃石・雲母	覆土中層
第16図6 図版11-2-6	土師器 甕	口縁部～胴部 中位破片	口（15.6） 高［8.0］	長甕／口縁部は外反する／小型	内面：口縁部は横ナデ、以下ヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、体部は縦位のヘラ削り後、縦位ヘラナデ。体部上方のみ横位ヘラナデ	にぶい橙色／石英・雲母・砂粒	覆土
第16図7 図版11-2-7	土師器 甕	胴部～底部 破片	高［9.2］ 底　8.0	長甕／胴部はやや内湾しながら立ち上がる	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ削り／底面：保げる	内：にぶい橙色／外：橙色／石英・砂粒	覆土

挿図番号 図版番号	種別 器種	石材	長さ （cm）	幅 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	特徴	出土位置
第16図8 図版11-2-8	石製品 紡錘車	滑石	3.9	2.7	1.5	41.7	逆台形／上面は平坦で下面がややふくらみを持つ／全面滑らかで上・下面は放射状、側面は縦・横位の細やかな擦痕がみられる	覆土下層

第５表　94号住居跡出土土器・石製品一覧

（３）土坑

606号土坑

遺　　構　（第17図）

［位　　置］（Ｅ－５）グリッド

［検出状況］ 79ＦＰを切り、607D、79・118・119・124・129・141・142・240Pに切られる。

［構　　造］ **平面形**：不整楕円形。**断面形**：西壁は30°前後で緩やかにカーブを描いたあと、70°で直線的に立ち上がる。東壁は30°で緩やかに立ち上がる途中で、607Dに切られる。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸152㎝／短軸74㎝／深さ24㎝。**主軸方位**：Ｎ－7°－Ｗ。

［覆　　土］ ４層に分層される。

［遺　　物］ 一括遺物で、土器２点が出土した。いずれも小片のため不掲載。

［時　　期］ 出土遺物と覆土の観察から、平安時代と思われる。

615号土坑

遺　　構　（第17図）

［位　　置］（Ｈ－10）グリッド

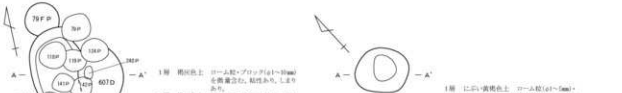
［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：楕円形。**断面形**：西壁は14°で立ち上がり、東壁は10°～ 40°で緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸90㎝／短軸72㎝／深さ9㎝。**主軸方位**：Ｎ－64°－Ｗ。

［覆　　土］ ２層に分層される。

［遺　　物］ 一括遺物で、平安時代の土師器甕片１点が出土した。小片のため掲載。

［時　　期］ 出土遺物と覆土の観察から、平安時代と思われる。



第17図　土坑（１／60）

第３節　中世以降の遺構・遺物

（１）概要

この期の遺構は、土坑59基（577 ～ 579・581 ～ 596・600 ～ 602・604・605・607 ～ 609・611・613・614・616 ～ 625・627 ～ 633・635 ～ 644D）、井戸跡１基（22W）、溝跡２本（29・

30M）、ピット242本（１～115・117～121・123～244P）、道路状遺構（１道）が検出された。検出された土坑の内、619・625Dが地下式坑で625Dでは中世のかわらけが伴った。また、22Wからは鍛冶関連遺物と中世の摺鉢片・板碑片が出土し、29Mも中世の遺物が出土している。ピットは概して１・２区とも西側に偏在して検出された。

各遺構の年代設定は、出土した陶磁器・土器などの年代観を優先し、それ以外は中世以降とした。

（２）土坑

この期に該当し検出された土坑総数は59基であった。以下、基本的に平面形、細部の形態的な特徴を城山遺跡第42地点（尾形・深井・青木　2005）の分類に準拠し、中野遺跡第95地点（徳留・尾形・青木　2017）と同遺跡第109地点（尾形・徳留・大久保・市川・梶ヶ山・植月　2021）の成果も加味しながら説明する。基本構造については下記を参照されたい。

A群　方形の土坑　1基

1類　袋状の構造を呈する。　0基

2類　袋状の構造でなく、単純構造を呈する。　1基（578D）

B群　長方形の土坑　32基

1類　溝状土坑　18基（588・595・608・609・616～618・630a～630c・631～633・640～644D）

2類　幅狭の長方形土坑　8基（579・581・585・587・604・622～624D）

3類　幅広の長方形土坑　6基（586・590・592・594・601・621D）

4類　火床部を有する土坑　0基

C群　円形・楕円形の土坑　20基（577・589・591・593・600・602・605・607・611・613・614・620・627～629・635～639D）

D群　不整形の土坑　3基（583・584・596D）

E群　地下室・地下坑・地下式坑　2基

1類　1竪坑1主体部タイプ　2基（619・625D）

2類　特殊タイプ　0基

F群　T字形の土坑　0基

G群　その他　1基（582D）

A群　方形の土坑（第18図、第6表）

1類は検出されなかった。2類は1基（578D）が該当する。

2類　袋状の構造でなく、単純構造を呈する（第18図、第6表）

578Dの1基が該当する。

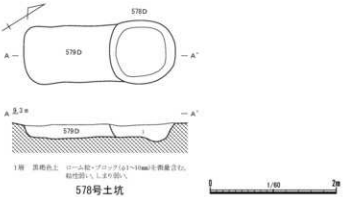
578号土坑

遺　構（第18図、第6表）

［位　置］（E－4）グリッド

［検出状況］　579Dを切る。

［構　造］　**平面形**：隅丸方形。**断面形**：65°前後に立ち上がる。底面は平坦で、西壁立ち上がり部分



第18図　A群２類土坑（１／60）

がやや窪む。**規模**：長軸106㎝／短軸100㎝／深さ26㎝。**主軸方位**：N－32°－E。

［覆　　土］ 単層である。

［遺　　物］ なし。

［時　　期］ 覆土の観察から、中世以降と思われる。

B群　長方形の土坑（第19～22図、第６表）

32基が該当する。今回の調査では、４類は検出されなかった。

１類　溝状土坑（第19・20図、第６表）

18基（588・595・608・609・616～618・630a～630c・631～633・640～644D）が該当する。

588号土坑

遺　　構（第19図、第６表）

［位　　置］（J－２・K－２）グリッド

［検出状況］ 32・33・213Pを切り、209・211・214・219・222・223・224・225Pに切られる。

［構　　造］ **平面形**：隅丸長方形。**断面形**：南壁は立ち上がりが確認できず、北壁は22°で立ち上がる途中で、209Pに切られる。底面は平坦。**規模**：長軸318㎝／短軸72㎝／深さ30㎝。**主軸方位**：N－3°－E。

［覆　　土］ ２層に分層される。

［遺　　物］ チャート製尖頭器の１点、陶磁器５点が出土した。チャート製尖頭器は、遺構外出土遺物（第50図１）に掲載した。

［時　　期］ 出土遺物と覆土の観察から、近世以降と思われる。

595号土坑

遺　　構（第19図、第６表）

［位　　置］（K－12・13）グリッド

［検出状況］ 644Dに切られる。

［構　　造］ **平面形**：隅丸長方形。**断面形**：72°～76°で立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸242㎝／短軸74㎝／深さ38㎝。**主軸方位**：N－20°－E。

［覆　　土］ 単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

608号土坑

遺　　構　（第19図、第６表）

［位　　置］　（Ｄ－７・８、Ｅ－７・８）グリッド

［検出状況］　29Ｍを切り、155Ｐに切られる。

［構　　造］　**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：77°で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸500㎝／短軸74㎝／深さ41㎝。**主軸方位**：Ｎ－19°－Ｅ。

［覆　　土］　単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

609号土坑

遺　　構　（第19図、第６表）

［位　　置］　（Ｅ－９・10、Ｆ－９）グリッド

［検出状況］　29Ｍを切る。

［構　　造］　**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：ほぼ垂直で立ち上がる。底面は平坦で、東にやや傾斜する。**規模**：長軸518㎝／短軸93㎝／深さ63㎝。**主軸方位**：Ｎ－22°－Ｅ。

［覆　　土］　５層に分層される。

［遺　　物］　地点上げ遺物で、鉄製刀子１点、一括遺物で陶磁器２点、土器５点、礫２点が出土した。その内、一括遺物の陶磁器２点を掲載する。

［時　　期］　出土遺物には中世段階の瀬戸・美濃産擂鉢片と近世段階の肥前系磁器があった。ここでは遺物の出土状況が明らかでないため、覆土の観察から中世以降とする。

遺　　物　（第30図１～３、図版12－２－１～３、第７表）

［陶 磁 器］　（第30図１・２、図版12－２－１・２、第７表）

１は磁器、２は陶器である。１は肥前系の染付で広東碗である。２は中世後期の瀬戸・美濃産鉄釉擂鉢である。

［鉄 製 品］　（第30図３、図版12－２－３、第７表）

３は刃部より柄が長い刀子で、ほぼ完形品である。

616号土坑

遺　　構　（第19図、第６表）

［位　　置］　（Ｇ－９・Ｈ－９・10）グリッド

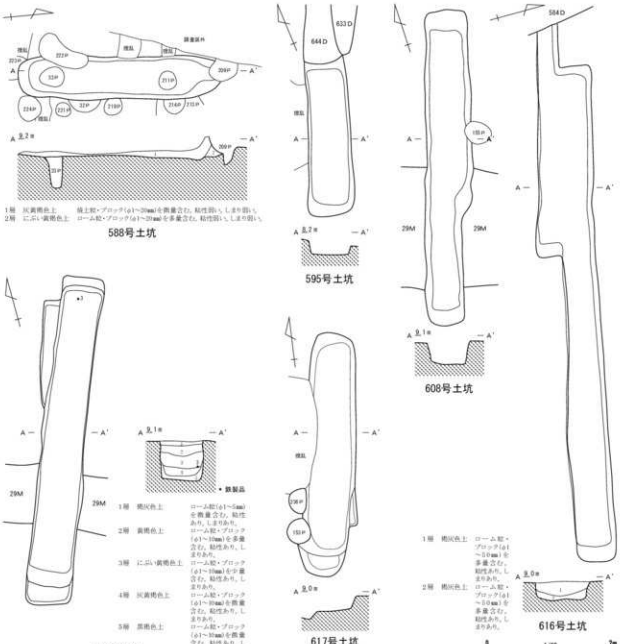
［検出状況］　584Ｄに切られる。

［構　　造］　**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：北壁はほぼ垂直に立ち上がり、南壁は垂直に立ち上がったあと、67°で立ち上がる。底面は中央がやや盛り上がる。**規模**：長軸850㎝／短軸96㎝／深さ53㎝。**主軸方位**：Ｎ－75°－Ｗ。

［覆　　土］　２層に分層される。
［遺　　物］　土器６点、磁器１点が出土した。
［時　　期］　出土遺物と覆土の観察から、近世以降と思われる。

617号土坑

遺　　構　（第19図、第６表）
［位　　置］（Ｆ－９・10、Ｇ－９・10）グリッド
［検出状況］　153・236P、攪乱に切られる。
［構　　造］　**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：東壁は65°で立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸388㎝／短軸90㎝／深さ35㎝。**主軸方位**：Ｎ－9°－Ｅ。



第19図　Ｂ群１類土坑１（１／60）

［覆　　土］ 単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。

［遺　　物］ なし。

［時　　期］ 覆土の観察から、中世以降と思われる。

618号土坑

遺　　構 （第20図、第６表）

［位　　置］ （Ｇ－９）グリッド

［検出状況］ 619Dを切る。

［構　　造］ **平面形**：隅丸長方形。**断面形**：70°前後で立ち上がる。底面は平坦で西にやや傾斜する。**規模**：長軸304㎝／短軸104㎝／深さ40㎝。**主軸方位**：Ｎ－20°－Ｅ。

［覆　　土］ 単層である。

［遺　　物］ 土器10点、磁器２点が出土した。

［時　　期］ 出土遺物と覆土の観察から、近世以降と思われる。

630a号土坑

遺　　構 （第20図、第６表）

［位　　置］ （Ｈ－12、Ｉ－11・12）グリッド

［検出状況］ 632D・630bDと重複。

［構　　造］ **平面形**：隅丸長方形。**断面形**：51°で立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸375㎝／短軸65㎝／深さ57㎝。**主軸方位**：Ｎ－20°－Ｅ。

［覆　　土］ 単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。

［遺　　物］ なし。

［時　　期］ 覆土の観察から、中世以降と思われる。

630b号土坑

遺　　構 （第20図、第６表）

［位　　置］ （Ｈ－12、Ｉ－11・12、Ｊ－11）グリッド

［検出状況］ 630aD・630cD・640Dと重複。

［構　　造］ **平面形**：不整形。**断面形**：60°で立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸735㎝／短軸100㎝／深さ63㎝。**主軸方位**：Ｎ－20°－Ｅ。

［覆　　土］ 単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。

［遺　　物］ なし。

［時　　期］ 覆土の観察から、中世以降と思われる。

630c号土坑

遺　　構 （第20図、第６表）

［位　　置］ （Ｉ－12）グリッド

［検出状況］ 630bDと重複。641Dを切る。631Dに切られる。

［構　　造］　**平面形**：不整形。**断面形**：立ち上がりは確認できなかった。底面は平坦である。**規模**：長軸300㎝／短軸55㎝／深さ10㎝。**主軸方位**：Ｎ－20°－Ｅ。
［覆　　土］　単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。
［遺　　物］　なし。
［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

631号土坑

遺　　構　（第20図、第６表）
［位　　置］　（Ｉ－12）グリッド
［検出状況］　630cDを切る。
［構　　造］　**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：70°前後で立ち上がる。底面は中央がやや窪む。**規模**：長軸318㎝／短軸58㎝／深さ55㎝。**主軸方位**：Ｎ－20°－Ｅ。
［覆　　土］　単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。
［遺　　物］　なし。
［時　　期］　覆土の観察から、近世以降と思われる。

632号土坑

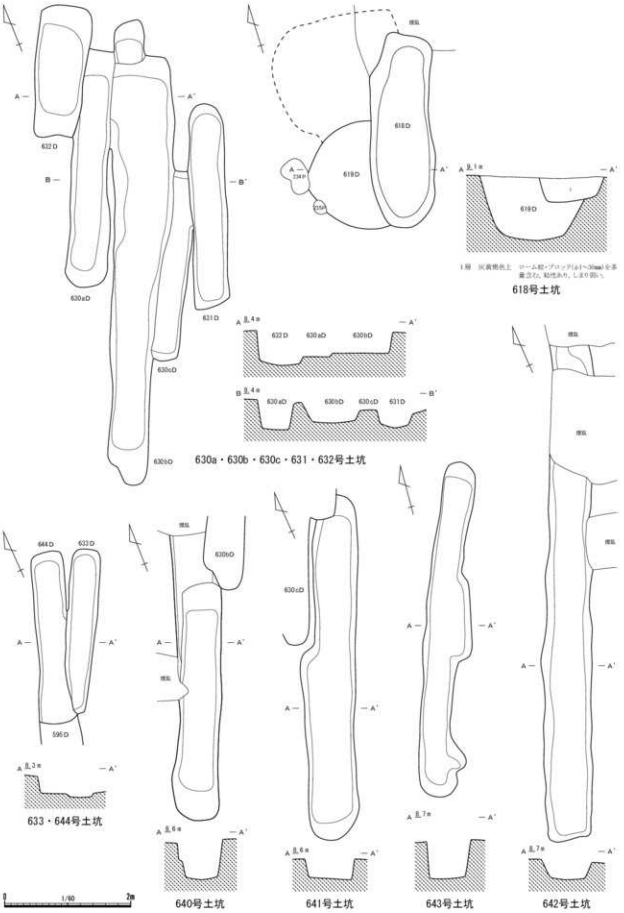
遺　　構　（第20図、第６表）
［位　　置］　（Ｈ－11・12、Ｉ－11・12）グリッド
［検出状況］　630aDと重複。
［構　　造］　**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：ほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸207㎝／短軸85㎝／深さ64㎝。**主軸方位**：Ｎ－28°－Ｅ。
［覆　　土］　単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。
［遺　　物］　なし。
［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

633号土坑

遺　　構　（第20図、第６表）
［位　　置］　（Ｊ－13、Ｋ－13）グリッド
［検出状況］　644Dと重複。
［構　　造］　**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：55°で立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸258㎝／短軸49㎝／深さ25㎝。**主軸方位**：Ｎ－30°－Ｅ。
［覆　　土］　単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。
［遺　　物］　なし。
［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

640号土坑

遺　　構　（第20図、第６表）



第20図　B群１類土坑２（１／60）

［位　　置］（Ｊ－11）グリッド

［検出状況］ 630bDと重複。

［構　　造］ **平面形**：不整隅丸長方形。**断面形**：西壁は途中段を持ちながら80°前後で立ち上がり、東壁は81°で直線的に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、中央がやや窪む。**規模**：長軸現況455㎝／短軸75㎝／深さ43㎝。**主軸方位**：Ｎ－24°－Ｅ。

［覆　　土］ 単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。

［遺　　物］ なし。

［時　　期］ 出土遺物と覆土の観察から、中世以降と思われる。

641号土坑

遺　　構（第20図、第６表）

［位　　置］（Ｉ－11・12、Ｊ－11・12）グリッド

［検出状況］ 630cDに切られる。

［構　　造］ **平面形**：隅丸長方形。**断面形**：西壁は76°で直線的に立ち上がり、東壁は80°で直線的に立ち上がる。底面は平坦で、東にやや傾斜する。**規模**：長軸544㎝／短軸90㎝／深さ74㎝。**主軸方位**：Ｎ－23°－Ｅ。

［覆　　土］ 単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。

［遺　　物］ なし。

［時　　期］ 覆土の観察から、中世以降と思われる。

642号土坑

遺　　構（第20図、第６表）

［位　　置］（Ｊ－11・12、Ｋ－11）グリッド

［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：隅丸長方形。**断面形**：62°～64°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。**規模**：長軸780㎝／短軸80㎝／深さ43㎝。**主軸方位**：Ｎ－23°－Ｅ。

［覆　　土］ 単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。

［遺　　物］ なし。

［時　　期］ 覆土の観察から、中世以降と思われる。

643号土坑

遺　　構（第20図、第６表）

［位　　置］（Ｉ－12、Ｊ－12）グリッド

［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：不整隅丸長方形。**断面形**：80°～83°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。**規模**：長軸534㎝／短軸76㎝／深さ83㎝。**主軸方位**：Ｎ－20°－Ｅ。

［覆　　土］ 単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。

［遺　　物］ なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

644号土坑

遺　　構　（第20図、第６表）

［位　　置］（Ｊ－12・13、Ｋ－12・13）グリッド

［検出状況］　633Dと重複。595Dを切る。

［構　　造］　**平面形**：不整隅丸長方形。**断面形**：79°で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸272㎝／短軸60㎝／深さ35㎝。**主軸方位**：Ｎ－20°－Ｅ。

［覆　　土］　単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

２類　幅狭の長方形土坑（第21図、第６表）

８基（579・581・585・587・604・622 ～ 624D）が該当する。

579号土坑

遺　　構　（第21図、第６表）

［位　　置］（Ｅ－４、Ｆ－４）グリッド

［検出状況］　578Dに切られる。

［構　　造］　**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：40°前後で直線的に立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸現況136㎝／短軸90㎝／深さ50㎝。**主軸方位**：Ｎ－32°－Ｅ。

［覆　　土］　２層に分層される。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

581号土坑

遺　　構　（第21図、第６表）

［位　　置］（Ｋ－２・３）グリッド

［検出状況］　93Hを切り、585D・13Pに切られる。

［構　　造］　**平面形**：長楕円形。**断面形**：47°で緩やかに立ち上がる途中で、585Dに切られる。**規模**：長軸312㎝／短軸76㎝／深さ42㎝。**主軸方位**：Ｎ－77°－Ｗ。

［覆　　土］　４層に分層される。

［遺　　物］　なし。

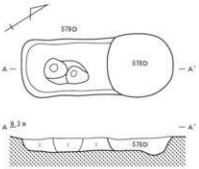
［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

585号土坑

遺　　構　（第21図、第６表）

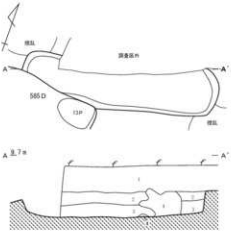
［位　　置］（Ｋ－２）グリッド

［検出状況］　93H・581Dを切り、577D・13Pに切られる。



1層　褐灰色土　ローム粒(φ1～4mm)を微量含む。粘性はいしまり弱い。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性弱い。しまり弱い。

579号土坑

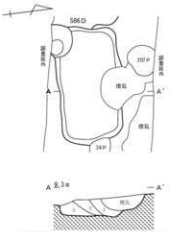


1層　にぶい橙褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　にぶい橙褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　にぶい橙褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)多量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　黄褐色土　ローム主体。黒褐色ブロック(φ1～20mm)少量含む。粘性あり。しまりあり。

581号土坑

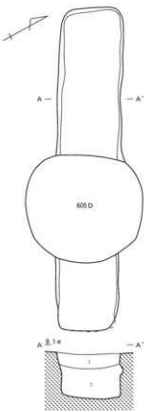
1層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

585号土坑



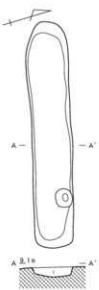
1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～40mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

587号土坑



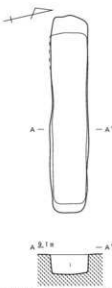
1層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

604号土坑



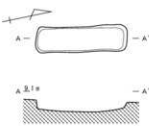
1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)少量含む。粘性あり。しまりあり。

622号土坑



1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)少量含む。粘性あり。しまりあり。

623号土坑



624号土坑

0　1/60　2m

第21図　Ｂ群２類土坑（１／60）

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**断面形**：南壁は70°で直線的に立ち上がり、北壁は47°～67°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸198㎝／短軸105㎝／深さ26㎝。**主軸方位**：Ｎ－84°－Ｗ。

［覆　　土］　３層に分層される。

［遺　　物］　中近世のかわらけ３点（うち１点は被熱により、口唇部に還元、発泡痕あり）が出土した。中近世の遺物については、いずれも小片のため、不掲載。

［時　　期］　出土遺物と覆土の観察から、中世以降と思われる。

587号土坑

遺　　構　（第21図、第６表）

［位　　置］（Ｊ－３）グリッド

［検出状況］　34Pに切られる。

［構　　造］　**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：北壁は30°～70°で緩やかに弧を描いて立ち上がり、南壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦。**規模**：長軸190㎝／短軸110㎝／深さ30㎝。**主軸方位**：Ｎ－87°－Ｅ。

［覆　　土］　３層に分層される。

［遺　　物］　かわらけ２点、中世縁釉小皿１点、不明銅製品１点が出土した。中世縁釉小皿については小片のため写真掲載（図版12－２－１）とした。

［時　　期］　出土遺物と覆土の観察から、中世（14世紀後葉～15世紀中葉頃）と思われる。

遺　　物　（図版12－２－１）

［陶　　器］（図版12－２－１）

１は瀬戸・美濃産の縁釉小皿である。底部内面はハケ塗は見られず露胎で、古瀬戸編年（藤澤1991）後期Ⅱ～Ⅲの特徴を持つ。

604号土坑

遺　　構　（第21図、第６表）

［位　　置］（Ｅ－８・９）グリッド

［検出状況］　605Dに切られる。

［構　　造］　**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：ほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦。**規模**：長軸505㎝／短軸102㎝／深さ75㎝。**主軸方位**：Ｎ－60°－Ｗ。

［覆　　土］　２層に分層される。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

622号土坑

遺　　構　（第21図、第６表）

［位　　置］（Ｇ－７・８）グリッド

［検出状況］　単独。

［構　　造］　**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：北壁は65°で立ち上がり、南壁はほぼ垂直に立ち上がる。

底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸358㎝／短軸72㎝／深さ17㎝。**主軸方位**：N－75°－W。

［覆　　土］ 単層である。

［遺　　物］ 土器５点、陶磁器２点、瓦１点が出土した。

［時　　期］ 出土遺物と覆土の観察から、近世以降と思われる。

623号土坑

遺　　構（第21図、第６表）

［位　　置］（G－９・10）グリッド

［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：隅丸長方形。**断面形**：ほぼ垂直で立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸312㎝／短軸62㎝／深さ35㎝。**主軸方位**：N－77°－W。

［覆　　土］ 単層である。

［遺　　物］ 陶磁器１点が出土した。

［時　　期］ 出土遺物と覆土の観察から、近世以降と思われる。

624号土坑

遺　　構（第21図、第６表）

［位　　置］（F－10、G－10）グリッド

［検出状況］ 単独。

［構　　造］ **平面形**：隅丸長方形。**断面形**：南壁はほぼ垂直に立ち上がり、北壁は58°で立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸142㎝／短軸42㎝／深さ20㎝。**主軸方位**：N－10°－E。

［覆　　土］ 単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。

［遺　　物］ なし。

［時　　期］ 覆土の観察から、中世以降と思われる。

３類　幅広の長方形土坑（第22図、第６表）

６基（586・590・592・594・601・621D）が該当する。

586号土坑

遺　　構（第22図、第６表）

［位　　置］（J－３）グリッド

［検出状況］ 28Pを切り、587Dに切られる。

［構　　造］ **平面形**：楕円形。**断面形**：ほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸現況105㎝／短軸現況90㎝／深さ28㎝。**主軸方位**：N－12°－E。

［覆　　土］ ６層に分層される。

［遺　　物］ なし。

［時　　期］ 覆土の観察から、中世以降と思われる。

590号土坑

遺　構　（第22図、第６表）

［位　置］（Ｉ－２・Ｊ－２）グリッド

［検出状況］46Pを切る。

［構　造］**平面形**：隅丸方形。**断面形**：北壁は70°で直線的に立ち上がり、南壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦。**規模**：長軸115㎝／短軸92㎝／深さ27㎝。**主軸方位**：Ｎ－87°－Ｅ。

［覆　土］３層に分層される。

［遺　物］一括遺物で青磁碗小片１点、鉄製品１点が出土した。青磁片については小片のため、写真掲載（図版12－２－１）とした。

［時　期］出土遺物と覆土の観察から、中世（13世紀中葉～14世紀初頭）と思われる。

遺　物　（図版12－２－１）

［磁　器］（図版12－２－１）

１は龍泉窯系の青磁蓮弁文碗である。小片のため揺らぐ要素を持つが、大宰府編年Ⅲ－２c段階（太宰府市教育委員会　2000）と推定される。

592号土坑

遺　構　（第22図、第６表）

［位　置］（Ｄ－７）グリッド

［検出状況］56Pに切られる。

［構　造］**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：北壁は13°～60°で緩やかに立ち上がり、南壁は14°～70°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸162㎝／短軸100㎝／深さ28㎝。**主軸方位**：Ｎ－34°－Ｅ。

［覆　土］２層に分層され、中央で56Pに切られる。

［遺　物］一括遺物で、土器11点、陶磁器４点、礫３点、瓦３点、レンガ１点、鉄細片１点が出土した。

［時　期］出土遺物と覆土の観察から、近代と思われる。

594号土坑

遺　構　（第22図、第６表）

［位　置］（Ｄ－３・Ｅ－３）グリッド

［検出状況］単独。

［構　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：南壁は立ち上がりが確認できず、北壁は33°で直線的に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、中央が窪む。**規模**：長軸152㎝／短軸100㎝／深さ13㎝。**主軸方位**：Ｎ－17°－Ｅ。

［覆　土］３層に分層される。

［遺　物］なし。

［時　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

601号土坑

遺　構　（第22図、第６表）

［位　置］（Ｆ－５・６）グリッド

［検出状況］　147・148Pに切られる。

［構　造］　**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：北壁は内湾気味にほぼ垂直で立ち上がり、南壁は55°前後で立ち上がる途中に、147Pに切られる。底面は平坦で、南壁の立ち上がり際が窪む。**規模**：長軸194㎝／短軸110㎝／深さ59㎝。**主軸方位**：Ｎ－68°－Ｗ。

［覆　土］　４層に分層される。

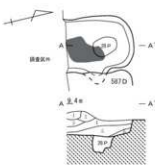
［遺　物］　かわらけ１点が出土した。

［時　期］　出土遺物と覆土の観察から、中世以降と思われる。

遺　物　（第30図１、図版12－２－１、第７表）

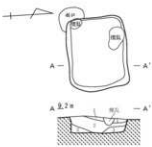
［土　器］（第30図１、図版12－２－１、第７表）

１は中世後期のかわらけである。



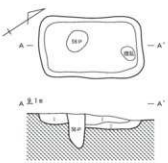
1層　灰色土　褐土粒・ブロック(φ1～50mm)が大部分を占める。。粘性あり、しまりあり。
2層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量、焼土粒(φ1～5mm)微量含む。粘性あり、しまりあり。
5層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
6層　灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

586号土坑



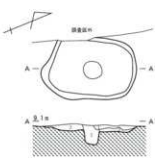
1層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性弱い、しまり弱い。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性弱い、しまり弱い。
3層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い、しまり弱い。

590号土坑



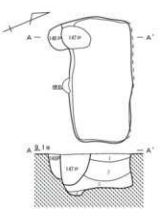
1層　褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。

592号土坑



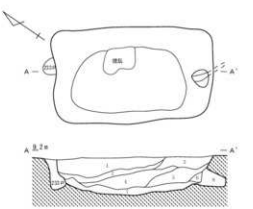
1層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。

594号土坑



1層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

601号土坑



1層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
5層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
6層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
7層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
8層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

621号土坑

0　1/60　2m

第22図　Ｂ群３類土坑（１／60）

621号土坑

遺　構（第22図、第６表）

［位　置］（Ｆ－８・Ｇ－８）グリッド

［検出状況］233Pに切られる。

［構　造］**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：西壁は23°で立ち上がる途中で、233Pに切られる。東壁は立ち上がり部分がオーバーハングしている。オーバーハング後は61°で立ち上がる。底面は東がやや盛り上がる。**規模**：長軸260㎝／短軸154㎝／深さ53㎝。**主軸方位**：Ｎ－68°－Ｗ。

［覆　土］８層に分層される。

［遺　物］なし。

［時　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

Ｃ群　円形・楕円形の土坑（第23～25図、第６表）

20基（577・589・591・593・600・602・605・607・611・613・614・620・627 ～ 629・635～639D）が該当する。

577号土坑

遺　構（第23図、第６表）

［位　置］（Ｋ－２・Ｌ－２）グリッド

［検出状況］93Hを切る。

［構　造］**平面形**：円形。**断面形**：南壁は70°で直線的に立ち上がり、北壁は20°～60°で弧を描きながら緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸159㎝／短軸155㎝／深さ39㎝。**主軸方位**：Ｎ－15°－Ｅ。

［覆　土］単層である。

［遺　物］なし。

［時　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

589号土坑

遺　構（第23図、第６表）

［位　置］（Ｋ－２）グリッド

［検出状況］41Pを切る。

［構　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：南壁は50°～70°で直線的に立ち上がり、北壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸底。**規模**：長軸87㎝／短軸55㎝／深さ85㎝。**主軸方位**：Ｎ－36°－Ｗ。

［覆　土］２層に分層される。

［遺　物］なし。

［時　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

591号土坑

遺　構（第23図、第６表）

［位　置］（Ｉ－２）グリッド

［検出状況］　単独。

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**断面形**：65°で立ち上がる。底面は平坦。**規模**：長軸110㎝／短軸現況55㎝／深さ17㎝。**主軸方位**：Ｎ－6°－Ｅ。

［覆　　土］　単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

593号土坑

遺　　構　（第23図、第６表）

［位　　置］　（Ｄ－７）グリッド

［検出状況］　単独。

［構　　造］　**平面形**：不整円形。**断面形**：北壁は26°～66°で緩やかに立ち上がり、南壁は39°～54°で山なりに立ち上がる。底面は丸みを帯びる。**規模**：長軸70㎝／短軸70㎝／深さ44㎝。**主軸方位**：Ｎ－10°－Ｅ。

［覆　　土］　２層に分層される。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

600号土坑

遺　　構　（第23図、第６表）

［位　　置］　（Ｅ－４）グリッド

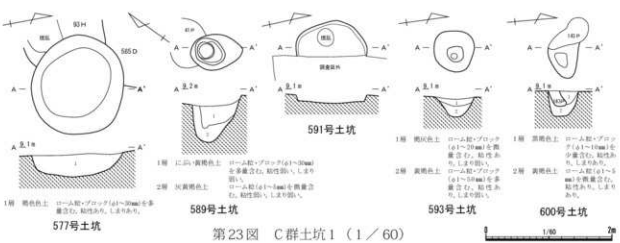
［検出状況］　78ＦＰを切り、143Ｐに切られる。

［構　　造］　**平面形**：不整楕円形。**断面形**：南壁は69°～87°でほぼ垂直に立ち上がり、東壁は17°～80°で緩やかに弧を描いて立ち上がる。底面はやや丸底。**規模**：長軸55㎝／短軸現況50㎝／深さ85㎝。**主軸方位**：Ｎ－57°－Ｗ。

［覆　　土］　単層である。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。



第23図　Ｃ群土坑１（１／60）

602号土坑

遺　　構　（第24図、第６表）

［位　　置］（Ｆ－８）グリッド

［検出状況］　単独。

［構　　造］　**平面形**：円形。**断面形**：南壁は47°～76°でやや直線的に立ち上がり、北壁は50°～88°で緩やかにカーブした後、62°で直線的に立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸58㎝／短軸現況54㎝／深さ44㎝。**主軸方位**：Ｎ－48°－Ｅ。

［覆　　土］　３層に分層される。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

605号土坑

遺　　構　（第24図、第６表）

［位　　置］（Ｅ－８・９）グリッド

［検出状況］　604Dを切る。

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**断面形**：南壁は80°で立ち上がり、北壁は72°で立ち上がる。底面は平坦。**規模**：長軸192㎝／短軸178㎝／深さ71㎝。**主軸方位**：Ｎ－30°－Ｅ。

［覆　　土］　９層に分層される。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察と遺構の切り合い関係から、中世以降と思われる。

607号土坑

遺　　構　（第24図、第６表）

［位　　置］（Ｅ－５）グリッド

［検出状況］　606Dを切り、119・124・142・240Pに切られる。

［構　　造］　**平面形**：円形。**断面形**：西壁は42°で緩やかに立ち上がり、東壁は5°～30°で緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦で、西に傾斜する。規模：長軸現況140㎝／短軸75㎝／深さ12㎝。**主軸方位**：Ｎ－11°－Ｅ。

［覆　　土］　単層である。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

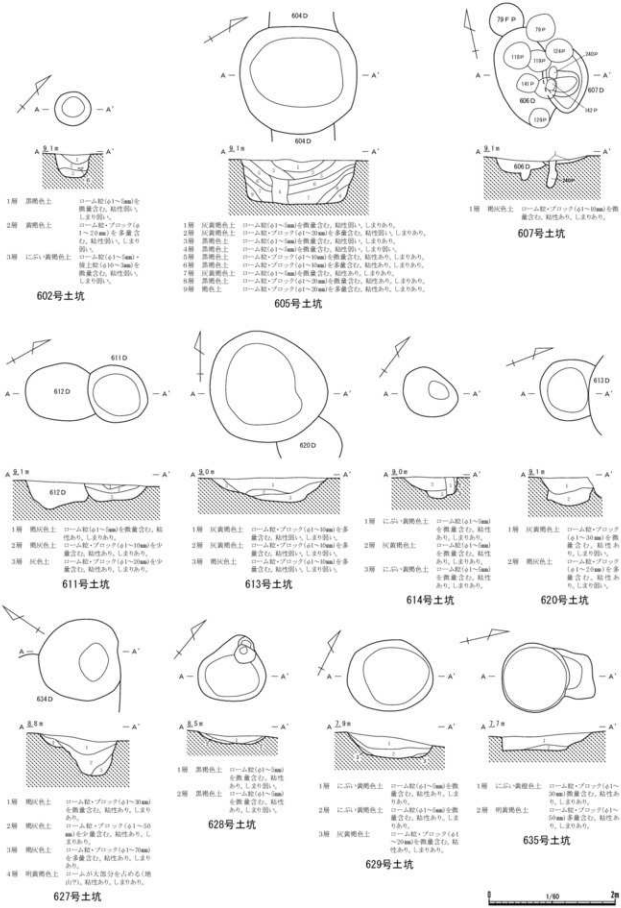
611号土坑

遺　　構　（第24図、第６表）

［位　　置］（Ｆ－10・Ｇ－10）グリッド

［検出状況］　612Dを切る。

［構　　造］　**平面形**：円形。**断面形**：南壁は22°～69°で弧を描いて立ち上がる。北壁は25°～50°で直線的に立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸106㎝／短軸92㎝／深さ32㎝。**主軸方位**：Ｎ－



1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)・焼土粒(φ10～3mm)を微量含む。粘性弱い。しまり弱い。

602号土坑

1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い。しまりあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性弱い。しまりあり。
3層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い。しまりあり。
4層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
5層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
6層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
7層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
8層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
9層　褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

605号土坑

1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

607号土坑

1層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い。しまりあり。

611号土坑

1層　黒灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黒灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。

613号土坑

1層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。

614号土坑

1層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

620号土坑

1層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり。しまり弱い。

627号土坑

1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒(φ1～50mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～70mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　明黄褐色土　ローム小ブロ混合土。ローム粒(地山)。粘性あり。しまりあり。

628号土坑

1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。

629号土坑

1層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

635号土坑

1層　にぶい黄橙色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　明黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)多量含む。粘性あり。しまりあり。

第24図　C群土坑2（1／60）

65°－Ｅ。

［覆　　土］　３層に分層される。

［遺　　物］　一括遺物で、磁器１点が出土した。小片のため不掲載。

［時　　期］　覆土の観察から、近世以降と思われる。

613号土坑

遺　　構　（第24図、第６表）

［位　　置］　（Ｇ－10・11）グリッド

［検出状況］　620Dを切る。

［構　　造］　**平面形**：円形。**断面形**：西壁は20°～36°で緩やかな段を持って立ち上がり、東壁は12°～68°で弧状に、40°前後で直線的に立ち上がる。底面は東にやや傾斜し、ほぼ平坦である。**規模**：長軸188㎝／短軸174㎝／深さ49㎝。**主軸方位**：Ｎ－30°－Ｗ。

［覆　　土］　３層に分層される。

［遺　　物］　一括遺物で、近世瓦１点が出土した。いずれも小片のため、不掲載。

［時　　期］　出土遺物と覆土の観察から、近世以降と思われる。

614号土坑

遺　　構　（第24図、第６表）

［位　　置］　（Ｇ－10）グリッド

［検出状況］　単独。

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**断面形**：南壁は63°で立ち上がったあと、20°～40°で緩やかに立ち上がり、北壁は10°～50°で段を持ちながら立ち上がった後、ほぼ垂直で立ち上がる。底面はやや丸みを帯びる。**規模**：長軸92㎝／短軸74㎝／深さ37㎝。**主軸方位**：Ｎ－67°－Ｅ。

［覆　　土］　３層に分層される。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

620号土坑

遺　　構　（第24図、第６表）

［位　　置］　（Ｇ－10）グリッド

［検出状況］　613Dに切られる。

［構　　造］　**平面形**：円形。**断面形**：南壁は100°で立ち上がったあと、53°で直線的に立ち上がり、北壁は78°で立ち上がる。底面は丸みを帯びる。**規模**：長軸102㎝／短軸80㎝／深さ52㎝。**主軸方位**：Ｎ－60°－Ｗ。

［覆　　土］　２層に分層される。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

627号土坑

遺　構（第24図、第６表）

［位　置］（Ｇ－11・12）グリッド

［検出状況］634Dを切る。

［構　造］**平面形**：不整円形。**断面形**：西壁は22°～62°で段を持ちながら立ち上がり、東壁は54°～68°で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸135㎝／短軸130㎝／深さ80㎝。**主軸方位**：Ｎ－54°－Ｅ。

［覆　土］４層に分層される。

［遺　物］なし。

［時　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

628号土坑

遺　構（第24図、第６表）

［位　置］（Ｇ－12）グリッド

［検出状況］単独。

［構　造］**平面形**：不整楕円形。**断面形**：南壁は15°～44°で緩やかに立ち上がり、北壁は20°～36°で直線的に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、中央がやや盛り上がる。**規模**：長軸110㎝／短軸100㎝／深さ28㎝。**主軸方位**：Ｎ－22°－Ｗ。

［覆　土］２層に分層される。

［遺　物］なし。

［時　期］覆土の観察から、中世以降と思われる。

629号土坑

遺　構（第24図、第６表）

［位　置］（Ｆ－12・13、Ｇ－12・13）グリッド

［検出状況］単独。

［構　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：南壁は50°前後で直線的に立ち上がり、北壁は14°～56°で弧を描くように立ち上がる。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸130㎝／短軸115㎝／深さ17㎝。**主軸方位**：Ｎ－64°－Ｅ。

［覆　土］３層に分層される。

［遺　物］一括遺物で、土器１点、磁器１点が出土した。いずれも小片のため、不掲載。

［時　期］出土遺物と覆土の観察から、近世以降と思われる。

635号土坑

遺　構（第24図、第６表）

［位　置］（Ｋ－14）グリッド

［検出状況］単独。

［構　造］**平面形**：不整形。**断面形**：北壁はやや段を持ちながら37°～51°で緩やかに立ち上がる。

底面は平坦である。**規模**：長軸142㎝／短軸110㎝／深さ33㎝。**主軸方位**：N－12°－E。

［覆　　土］　２層に分層される。

［遺　　物］　陶磁器１点が出土した。小片のため、不掲載。

［時　　期］　出土遺物と覆土の観察から、中世以降と思われる。

636号土坑

遺　　構　（第25図、第６表）

［位　　置］　（F－６・７）グリッド

［検出状況］　単独。

［構　　造］　**平面形**：円形。**断面形**：35°前後で直線的に立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸64㎝／短軸62㎝／深さ11㎝。**主軸方位**：N－14°－E。

［覆　　土］　単層である。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

637号土坑

遺　　構　（第25図、第６表）

［位　　置］　（F－７）グリッド

［検出状況］　169Pに切られる。

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**断面形**：南壁は53°で直線的に立ち上がる。北壁は169Pに切られている。底面はほぼ平坦である。**規模**：長軸105㎝／短軸70㎝／深さ21㎝。**主軸方位**：N－21°－E。

［覆　　土］　単層である。

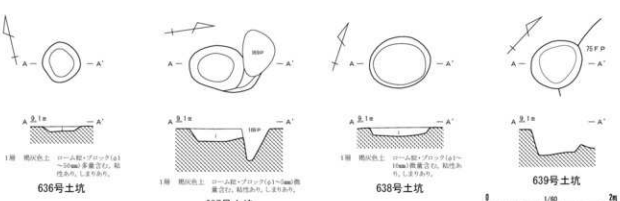
［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

638号土坑

遺　　構　（第25図、第６表）

［位　　置］　（F－７）グリッド



第25図　Ｃ群土坑３（１／60）

［検出状況］　単独。

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**断面形**：60°前後で立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸100㎝／短軸82㎝／深さ14㎝。**主軸方位**：Ｎ－52°－Ｅ。

［覆　　土］　単層である。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

639号土坑

遺　　構　（第25図、第６表）

［位　　置］　（Ｆ－６）グリッド

［検出状況］　75ＦＰを切る。

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**断面形**：北壁は71°で直線的に立ち上がり、東壁は49°で立ち上がる。底面は平坦で、やや西側に傾斜する。**規模**：長軸84㎝／短軸74㎝／深さ37㎝。**主軸方位**：Ｎ－20°－Ｅ。

［覆　　土］　単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

Ｄ群　不整形の土坑（第26図、第６表）

３基（583・584・596D）が該当する。

583号土坑

遺　　構　（第26図、第６表）

［位　　置］　（Ｅ－３、Ｆ－３）グリッド

［検出状況］　102Pに切られる。

［構　　造］　**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：北壁は35°～60°で緩やかに立ち上がり、遺構南部は調査区外である。底面は平坦で、中央部分はやや窪む。**規模**：長軸現況190㎝／短軸128㎝／深さ36㎝。**主軸方位**：Ｎ－20°－Ｅ。

［覆　　土］　４層に分層される。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

584号土坑

遺　　構　（第26図、第６表）

［位　　置］　（Ｇ－８・９、Ｈ－９）グリッド

［検出状況］　616Dを切る。

［構　　造］　**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：東壁は、ほぼ垂直から段を持ちながら立ち上がり、西壁は垂直から68°で直線的に立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸150㎝／短軸80㎝／深さ79㎝。**主軸方位**：Ｎ－1°－Ｅ。

［覆　　土］　８層に分層される。

［遺　　物］　鉄製品１点が出土した。鉄製品は小片のため、不掲載。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。

596号土坑

遺　　構　（第26図、第６表）

［位　　置］　（Ｅ－３・４）グリッド

［検出状況］　102・103・187Pを切る。

［構　　造］　**平面形**：楕円形。**断面形**：41°で立ち上がったあと、垂直に立ち上がる。垂直に立ち上がったあと、14°～41°で緩やかに立ち上がる。底面は丸みを帯びる。**規模**：長軸104㎝／短軸50㎝／深さ45㎝。**主軸方位**：Ｎ－30°－Ｗ。

［覆　　土］　４層に分層される。

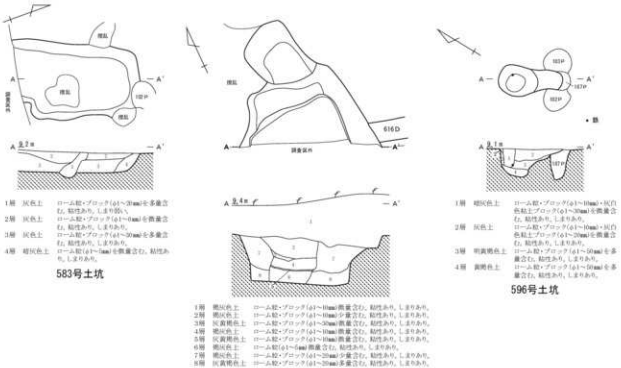
［遺　　物］　地点上げ遺物で角釘１点、一括遺物で土器４点が出土した。その内、角釘１点を掲載する。

［時　　期］　覆土の観察と出土遺物から、中世以降と思われる。

遺　　物　（第30図１、図版12－２－１、第７表）

［鉄 製 品］　（第30図１、図版12－２－１、第７表）

１はいわゆる角釘で先端を僅かに欠損する。



第26図　Ｄ群土坑（１／60）

Ｅ群　地下室・地下坑・地下式坑（第27図、第６表）

１類は２基（619・625D）が検出された。２類は検出されなかった。

１類　１竪坑１主体部タイプ（第27図、第６表）

２基（619・625D）が検出された。

619号土坑

遺　　構　（第27図、第６表）

［位　　置］（Ｆ－９、Ｇ－９）グリッド

［検出状況］ 618D、234・235Pに切られる。

［構　　造］ 地下式坑の形態をもつ。

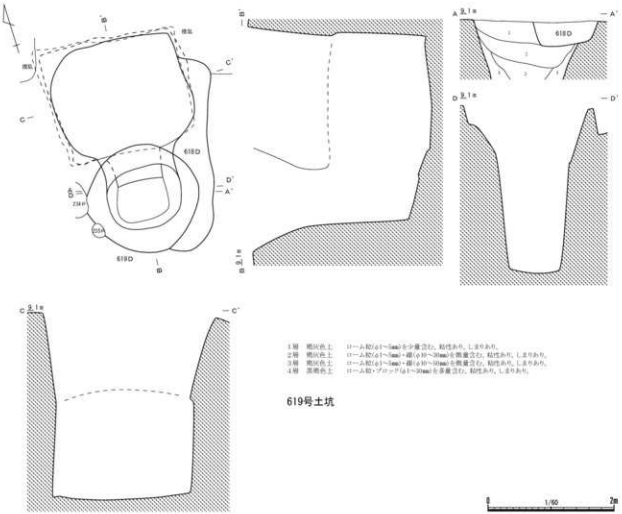
［入口竪坑部］ **平面形**：円形。**断面形**：東壁は60°前後で立ち上がり、西壁は72°で立ち上がる。底面は平坦である。主体部へは13°～20°で下がる。**規模**：長軸180㎝／短軸現況172㎝／深さ261㎝。**主軸方位**：Ｎ－5°－Ｅ。

［主 体 部］ **平面形**：隅丸長方形。**断面形**：垂直に立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸210㎝／短軸180㎝／深さ298㎝。**長軸方位**：Ｎ－87°－Ｗ。

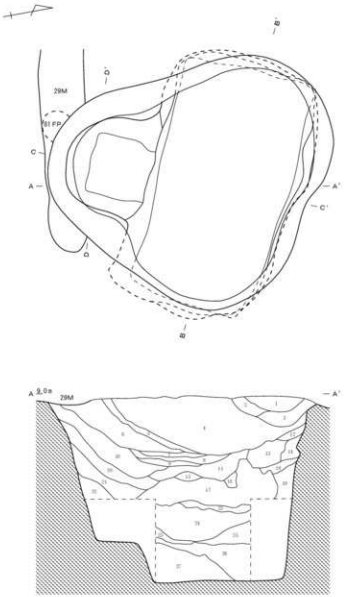
［覆　　土］ ４層に分層される。

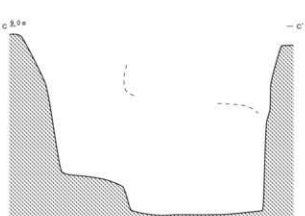
［遺　　物］ なし。

［時　　期］ 構造と覆土の観察から、中世以降と思われる。



第27図　Ｅ群１類土坑１（１／60）





625号土坑

1層	灰黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層	灰黄褐色土	ローム起(φ1～8mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層	黒褐色土	ローム起・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層	明黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～50mm)を多量含む。粘性あり。しまり弱い。
5層	に示・黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
6層	明黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
7層	黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～50mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
8層	に示・黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～50mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
9層	明黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
10層	黒褐色土	ローム起・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
11層	に示・黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～50mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
12層	に示・黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～50mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
13層	褐色土	ローム起・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり。しまり弱い。
14層	黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
15層	黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
16層	黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
17層	黒褐色土	ローム起・ブロック(φ1～50mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
18層	明黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～50mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
19層	明黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
20層	褐色土	ローム起・ブロック(φ1～50mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
21層	明黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～50mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
22層	に示・黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
23層	灰黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～50mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
24層	明黄褐色土	ローム土強(石英斑晶含む)粘性あり。しまりあり。
25層	灰黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～50mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
26層	に示・黄褐色土	ローム起・ブロック(φ1～50mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
27層	褐灰色土	ローム起・ブロック(φ1～50mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。

0　1/60　2m

第28図　E群１類土坑２（１／60）

625号土坑

遺　構　（第28図、第６表）

［位　　置］（Ｅ－10・11、Ｆ－10・11）グリッド

［検出状況］　29M、81ＦＰを切る。

［構　　造］　地下式坑の形態をもつ。

［入口竪坑部］　**平面形**：楕円形。**断面形**：78°～81°で立ち上がったあと、上層82㎝で逆ハの字に58°～62°に開いて立ち上がる。底面は平坦。**規模**：長軸264㎝／短軸160㎝／深さ235㎝。**長軸方位**：Ｎ－65°－Ｗ。

［主 体 部］　**平面形**：隅丸長方形。**断面形**：ほぼ垂直に立ち上がる。底面は東にやや傾斜する。**規模**：長軸413㎝／短軸246㎝／深さ302㎝。**長軸方位**：Ｎ－63°－Ｗ。

［覆　　土］　27層に分層される。

［遺　　物］　一括遺物で、土器３点、中世のかわらけ１点が出土した。その内、中世のかわらけを掲載した。

［時　　期］　出土遺物から、中世（15世紀）と思われる。

遺　物　（第30図１、図版12－２－１、第７表）

［土　　器］　（第30図１、図版12－２－１、第７表）

１は中世のかわらけである。

Ｇ群　その他（第29図、第６表）

１基（582D）が検出された。

582号土坑

遺　構　（第29図、第６表）

［位　　置］（Ｌ－２）グリッド

［検出状況］　単独。

［構　　造］　**平面形**：長楕円形。**断面形**：北壁はなだらかに33°で立ち上がる。底面は平坦である。**規模**：長軸現況137㎝／短軸77㎝／深さ86㎝。**主軸方位**：Ｎ－9°－Ｗ。

［覆　　土］　単層。褐灰色土、粘性なし、しまりなし。

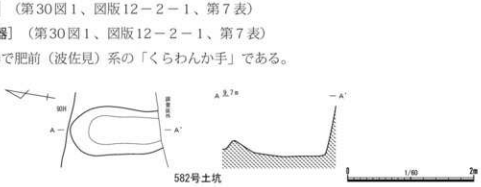
［遺　　物］　一括遺物から土器９点、陶器６点、磁器１点が出土。その内、磁器１点を掲載。

［時　　期］　出土遺物と覆土の観察から、近世（1700～1780年代）と思われる。

遺　物　（第30図１、図版12－２－１、第７表）

［陶器・土器］（第30図１、図版12－２－１、第７表）

１は磁器で肥前（波佐見）系の「くらわんか手」である。



第29図　Ｇ群土坑（１／60）

遺構名	位置グリッド	分類	平面形	規模（m）			長軸方位	覆土及び特徴等	主な遺物	時期
				長軸	短軸	深さ				
577D	K2・L2	C群	円形	1.59	1.55	0.39	N-15°-W	単層／93Hを切る	遺物なし	中世以降
578D	E4	A群２類	隅丸方形	1.06	1.00	0.26	—	単層／579Dを切る	遺物なし	中世以降
579D	E4・F4	B群２類	隅丸長方形	(1.36)	0.90	0.50	N-32°-E	２層／578Dに切られる	遺物なし	中世以降
581D	K2・K3	B群２類	長楕円形	3.12	0.76	0.42	N-77°-W	４層／93Hを切る／585D・13Pに切られる	遺物なし	中世以降
582D	L2	G群	長楕円形	(1.37)	0.77	0.24	N-9°-W	単層	磁器	近世（17世～19世紀）
583D	E3・F3	D群	隅丸長方形	(1.90)	1.28	0.36	N-20°-E	４層／102Pに切られる	遺物なし	中世以降
584D	G8・G9・H9	D群	隅丸長方形	1.50	(0.80)	0.79	—	８層／616Dを切る	鉄製品	中世以降
585D	K2	B群２類	楕円形	1.98	1.05	0.26	N-84°-W	３層／93Hを切る／581Dを切る／577D・13Pに切られる	かわらけ	中世以降
586D	J3	B群３類	楕円形	(1.05)	(0.90)	0.28	N-12°-E	６層／28Pを切る	遺物なし	中世以降
587D	J3	B群２類	隅丸長方形	1.90	1.10	0.30	N-87°-E	３層／34Pに切られる	かわらけ、陶器、陶製品	中世（11世紀後葉～13世紀中頃）
588D	J2・K2	B群１類	隅丸長方形	3.18	0.72	0.30	N-3°-E	２層／32P・33P・213Pを切る／209P・211P・214P・219P・222P・223P・224P・225Pに切られる	チャート製尖頭器、陶磁器	近世以降
589D	K2	C群	楕円形	0.87	0.55	0.85	N-36°-W	２層／41Pを切る	遺物なし	中世以降
590D	I2・J2	B群３類	隅丸方形	1.15	0.92	0.27	N-87°-E	３層／46Pを切る	陶磁器、鉄製品	中世以降
591D	I2	C群	楕円形	1.10	(0.55)	0.17	N-6°-E	単層	遺物なし	中世以降
592D	D7	B群３類	隅丸長方形	1.62	1.00	0.28	N-34°-E	２層／56Pに切られる	土器、陶磁器、礫、瓦	近代
593D	D7	C群	不整円形	0.70	0.70	0.44	N-10°-E	２層	遺物なし	中世以降
594D	D3・E3	B群３類	楕円形	1.52	1.00	0.13	N-17°-E	３層	遺物なし	中世以降
595D	K12・K13	B群１類	隅丸長方形	2.42	0.74	0.38	N-20°-E	単層／644Dに切られる	遺物なし	中世以降
596D	E3・E4	D群	楕円形	1.04	0.50	0.45	N-30°-W	４層／102・103・187Pを切る	角釘、土器	中世以降
600D	E4	C群	不整楕円形	0.55	(0.50)	0.85	N-57°-W	単層／78Pを切る／143Pに切られる	遺物なし	中世以降
601D	F5・F6	B群３類	隅丸長方形	1.94	1.10	0.59	N-68°-W	４層／147P・148Pに切られる	かわらけ	中世以降
602D	F8	C群	円形	0.58	0.54	0.44	N-48°-E	３層	土器、陶磁器	中世以降
604D	E8・E9	B群２類	隅丸長方形	5.05	1.02	0.75	N-60°-W	２層／605Dに切られる	遺物なし	中世以降
605D	E8・E9	C群	楕円形	1.92	1.78	0.71	N-30°-E	９層／604Dを切る	遺物なし	中世以降
607D	E5	C群	円形	(1.40)	(0.75)	0.12	N-11°-E	単層／606Dを切る／124P・142P・240Pに切られる	遺物なし	中世以降
608D	D7・D8・E7・E8	B群１類	隅丸長方形	5.00	0.74	0.41	N-19°-E	単層／29Mを切る／155Pに切られる	遺物なし	中世以降
609D	E9・E10・F9	B群１類	隅丸長方形	5.18	0.93	0.63	N-22°-E	５層／29Mを切る	刀子、陶磁器、土器、礫	中世以降
611D	F10・G10	C群	円形	1.06	0.92	0.32	N-65°-E	３層／612Dを切る	磁器	近世以降
613D	G10	C群	円形	1.88	1.74	0.49	N-30°-W	３層／620Dを切る	瓦	近世（18世紀）以降
614D	G10	C群	楕円形	0.92	0.74	0.37	N-67°-E	３層	遺物なし	中世以降
616D	G9・H9・H10	B群１類	隅丸長方形	8.50	0.96	0.53	N-75°-W	２層／584Dに切られる	土器、磁器	近世（18世紀）以降
617D	F9・F10・G9・G10	B群１類	隅丸長方形	3.88	0.90	0.35	N-9°-E	単層／153P・236Pに切られる	遺物なし	中世以降
618D	G9	B群１類	隅丸長方形	3.04	1.04	0.40	N-20°-E	単層／619Dを切る	土器、磁器	近世以降
619D 人口整坑部	G9	E群１類	円形	1.80	(1.72)	2.61	N-0°-E	５層／618D・234P・235Pに切られる	遺物なし	中世以降
619D 土体部	F9・G9	E群１類	隅丸長方形	2.10	1.80	2.98	N-87°-W	618D・234P・235Pに切られる	土器	中世以降
620D	G10	C群	円形	1.02	(0.80)	0.52	N-60°-W	２層／613Dに切られる	遺物なし	中世以降
621D	F8・G8	B群３類	隅丸長方形	2.60	1.54	0.53	N-68°-W	８層／233Pに切られる	遺物なし	中世以降
622D	G7・G8	B群２類	隅丸長方形	3.58	0.72	0.17	N-75°-W	単層	土器、陶磁器、瓦	近世（18世紀）以降
623D	G9・G10	B群２類	隅丸長方形	3.12	0.62	0.35	N-77°-W	単層	陶磁器	近世以降
624D	F10・G10	B群２類	隅丸長方形	1.42	0.42	0.20	N-10°-E	単層	遺物なし	中世以降
625D 人口整坑部	E10・E11・F10・F11	E群１類	楕円形	2.64	1.60	2.35	N-65°-W（N-26°-E）	27層／81FPを切る／29Mに切られる	土器、かわらけ	中世
625D 土体部	E10・E11・F10・F11	E群１類	隅丸長方形	4.13	2.46	3.02	N-63°-W（N-26°-E）	27層／81FPを切る／29Mに切られる	土器	中世
627D	G11・G12	C群	不整円形	1.35	1.30	0.80	N-54°-E	４層／634Dを切る	遺物なし	中世以降
628D	G12	C群	不整楕円形	1.10	1.00	0.28	N-22°-W	２層	遺物なし	中世以降
629D	F12・F13・G12・G13	C群	楕円形	1.30	1.15	0.17	N-64°-E	３層	土器、磁器	近世以降
630aD	H12・I11・I12	B群１類	隅丸長方形	3.75	0.65	0.57	N-20°-E	単層／630bD・632Dと重複	遺物なし	中世以降
630bD	H12・I11・I12・J11	B群１類	不整形	7.35	1.00	0.63	N-20°-E	単層／630a・cD・640Dと重複	遺物なし	中世以降

第６表　中世以降の土坑一覧（１）

遺構名	位置グリッド	分類	平面形	規模（m）			長軸方位	覆土及び特徴等	主な遺物	時期
				長軸	短軸	深さ				
630cD	I12	B群１類	不整形	3.00	0.55	0.30	N-20°-E	単層／641Dを切る／631Dに切られる／630bDと重複	遺物なし	中世以降
631D	I12	B群１類	隅丸長方形	3.18	0.58	0.55	N-20°-E	単層／630cDを切る	遺物なし	近世以降
632D	H11・H12・I11・I12	B群１類	隅丸長方形	2.07	0.85	0.64	N-28°-E	単層／630aDと重複	遺物なし	中世以降
633D	J13・K13	B群１類	隅丸長方形	2.58	0.49	0.25	N-30°-E	単層／644Dと重複	遺物なし	中世以降
635D	K14	C群	不整形	1.42	1.10	0.33	N-12°-E	2層	陶磁器	近世以降
636D	F6・F7	C群	円形	0.64	0.62	0.11	N-14°-E	単層	遺物なし	近世以降
637D	F7	C群	楕円形	1.05	0.70	0.21	N-21°-E	単層／169Pに切られる	遺物なし	中世以降
638D	F7	C群	楕円形	1.00	0.82	0.14	N-52°-E	単層	遺物なし	中世以降
639D	F6	C群	楕円形	0.84	0.74	0.37	N-20°-E	単層／759Pを切る	遺物なし	中世以降
640D	J11	B群１類	不整隅丸長方形	(4.55)	0.75	0.43	N-24°-E	単層／630bDと重複	遺物なし	中世以降
641D	I11・I12・J11・J12	B群１類	隅丸長方形	5.44	0.90	0.74	N-23°-E	単層／630cDに切られる	遺物なし	中世以降
642D	J11・J12・K11	B群１類	隅丸長方形	7.80	0.80	0.43	N-23°-E	単層	遺物なし	中世以降
643D	I12・J12	B群１類	不整隅丸長方形	5.34	0.76	0.83	N-20°-E	単層	遺物なし	中世以降
644D	J12・J13・K12・K13	B群１類	不整隅丸長方形	2.72	0.60	0.35	N-20°-E	単層／633Dと重複／595Dを切る	遺物なし	中世以降

第６表　中世以降の土坑一覧（２）

第30図　土坑出土遺物１（１／４・１／３）

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	製作の特徴等	推定産地	時期	出土位置
第30図１ 図版12-2-1	582D	磁器 仏飯器	口縁部～底部 70％	口（8.0） 高［5.0］ 底（4.4）	ロクロ成形／染付渦陽文／くらわんか手／色調は灰白色	肥前 （波佐見）系	近世 （1700～1780年代）	覆土
第30図１ 図版12-2-1	601D	土器 かわらけ	口縁部～底部 30％	口（10.0） 高［3.5］ 底［5.8］	外面は10mmの厚めの底部から立ち上がり、体下部は外反し、中位以降は内湾して開く／内面は立ち上がりが不明瞭で体部はゆるやかに内湾してする／口縁直下に浅く沈線がまわる／色調は内外面橙色、底面暗灰色／胎土はきめ細かく夾雑物少ない、砂粒・赤褐鉄色粒子	—	中世 （15～16cか）	覆土中層
第30図１ 図版12-2-1	609D	磁器 広東碗	口縁部～底部 35％	口（10.0） 高　6.1 底（6.0）	ロクロ成形／染付草花文／縁内・見込圏線	肥前系	近世 （1780～1830年代）	覆土
第30図２ 図版12-2-2	609D	陶器 擂鉢	口縁部 破片	口（30.0） 高［4.2］	内外面鉄釉／８本１組のスリ目／口縁内小突起が形成される／口縁部は鉄釉が剥げる／意図的か／色調は内：暗赤灰色、外：灰赤色／胎土は灰白色できめ細かい／焼４否～新	瀬戸・美濃産	中世 （15c）	覆土

第７表　土坑出土陶磁器・土器・鉄製品一覧（１）

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	製作の特徴等	推定産地	時期	出土位置
第30図1 図版12-2-1	625D	土器 かわらけ	口縁部～底部 75％	口（11.0） 高　3.0 底（5.4）	内底中央を厚さ４mmとしぼんで押さえ、体部内外面ともロクロの凸凹を残しながら、ほぼ直線的に立ち上がる／内面立ち上がりに指頭痕を残す／ロクロ右回転か／色調は橙色／胎土はきめ細かい土・極微白粒子・角閃石・砂粒	—	中世 （15～16c か）	覆土

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	材質	長さ （cm）	幅 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	特徴	出土位置
第30図1 図版12-2-1	596D	鉄製品 釘	鉄	7.9	1.1	0.5	10.3	下方がやや幅狭の直線状／断面は正方形に近い／上方の一面に綿服れ	覆土
第30図3 図版12-2-3	609D	鉄製品 刀子	鉄	13.5	2.3	0.5	20.7	全体が錆に覆われる／刃部と柄の長さが同じで、刃は背に向かって斜めにつけられている／刃部が若干薄い他は、全体的にほぼ同じ厚み	覆土中層

第７表　土坑出土陶磁器・土器・鉄製品一覧（２）

（３）井戸跡

22号井戸跡

遺　構　（第31図）

［位　置］（Ｉ－11）グリッド

［検出状況］　攪乱に切られる。

［構　造］　**平面形**：楕円形。**断面形**：垂直に立ち上がった後、逆ハの字に65°～73°に開いて立ち上がる。危険を伴うため、底面の検出は断念した。**規模**：長軸160㎝／短軸136㎝／深さ210㎝。**主軸方位**：Ｎ－18°－Ｅ。

［覆　土］　３層に分層される。

［遺　物］　一括遺物で、鋳造関連遺物７点、陶器１点、板碑片１点、緑泥石片岩片（破砕板碑片か）10点、礫２点が出土した。

［時　期］　出土遺物と覆土の観察から、中世（15～16世紀）と思われる。

遺　物　（第32図、図版12－３・13－１、第８表）

［陶　器］（第32図１、図版12－３－１、第８表）

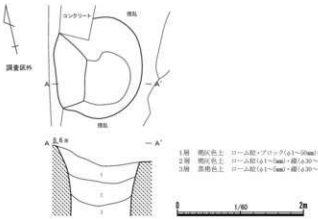
１は陶質で産地不明の擂鉢片。

［鋳造関連遺物］（第32図２～８、図版12－３－２～５・13－１－６～８、第８表）

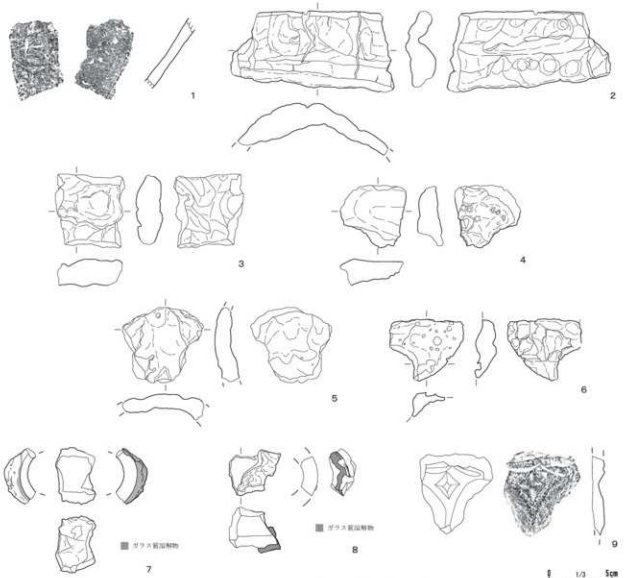
２～６は炉壁片、７・８は羽口片である。

［板　碑］（第32図９、図版13－１－９、第８表）

９は点紋緑泥石片岩製の板碑片である。



第31図　22号井戸跡（１／60）



第32図　22号井戸跡出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	製作の特徴等	推定産地	時期	出土位置
第32図1 図版12-3-1	陶器 擂鉢	体部 破片	厚 0.8	内面11本一単位の擂目／外面指頭痕多数／胴張状の非常に焼き締まった焼成で胎土もざっくりと粗い土である。器壁の薄さやスリ目の細工から非常識であり、焼成の良好な在地系擂鉢か／色調は橙色／胎土は長石・石英・白色粒子	在地系か	中世以降	覆土

挿図番号 図版番号	種別 器種	長さ （cm）	幅 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	特徴	出土位置
第32図2 図版12-3-2	炉壁	[6.2]	[12.8]	2.2	107.5	上段部と見られる／幅約2.5mmと3.5cm厚土層を2段に重ねた形状／上下端は輪積み部で分離したと見られる／外面保ける／内面には気泡がはじけた跡・鐵が見られる／溶解物が全面に付着／全体は弧状に湾曲する	覆土
第32図3 図版12-3-3	炉壁	[5.7]	[5.3]	2.1	50.4	上段部と見られる／上下端は輪積み痕で分離したと見られる／外面一部うすく保ける／内面に鐵の見られる溶解物が全面に付着	覆土
第32図4 図版12-3-4	炉壁	[5.0]	[5.0]	1.9	24.5	上下端は輪積み痕で分離したと見られる／外面保ける／内面に気泡がはじけた跡、鐵が見られる。溶解物が全面に付着	覆土
第32図5 図版12-3-5	炉壁 羽口まわり	[6.0]	[6.5]	1.5	39.4	全体的に内湾する／外面被熱により赤化／内面は鐵。ガラス質溶解物が全面に付着	覆土
第32図6 図版13-1-6	炉壁 羽口まわり	[4.9]	[5.8]	1.5	26.6	左側縁下部は強く湾曲する／内面は被熱し、赤化。器壁の剥落が目立つ／外面は発泡した溶解物に覆われる	覆土
第32図7 図版13-1-7	羽口	[4.5]	[3.1]	1.8	18.1	羽口本体の厚さ0.5～1.0cm／内面は被熱し赤化／外面はガラス質溶解物に覆われる／内径3.6cm	覆土
第32図8 図版13-1-8	羽口	[4.0]	[3.8]	1.9	18.6	羽口本体の厚さ1.2cm／内面は被熱し赤化／外面はガラス質溶解物・厚さ1～2mm板状白色物質に覆われる／内径3.0cm	表土

第８表　22号井戸跡出土陶器・鋳造関連遺物・板碑一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第32図9 図版13-1-9	板碑	点紋緑泥石片岩	[6.3]	[6.0]	1.0	48.0	裏面は整理剥離面／表面に蓮座の彫り込みの一部が残る／蓮座の中央花弁右翼から右第1花弁の一部と上方に梵字下方を示す２単位の反線が遺存する	覆土

第８表　22号井戸跡出土陶器・鋳造関連遺物・板碑一覧（２）

（４）溝跡

29号溝跡

遺　構　（第34図）

［位　置］（Ｃ－３・４・５、Ｄ－４・５・６・７、Ｅ－６・７・８・９、Ｆ－８・９・10）グリッド

［検出状況］　２区北西部で検出。67・81ＦＰ、580・625Dを切り、608・609D、47・48・49・50・52・57・59・60・111・120・121・151・152・231・232Pに切られる。

［構　造］**平面形**：直線的。**断面形**：丸底面で20～45°でゆるやかに立ち上がる部分、丸底面と平坦底面が混在し、80°前後で立ち上がる部分など、安定しない。**規模**：長軸検出長37ｍ／短軸検出長3.4ｍ／深さ３～50㎝。**主軸方位**：Ｎ－66°－Ｗ。

［覆　土］　10層に分層される。

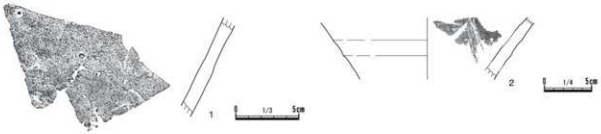
［遺　物］　土器30点、陶器５点、瓦１点が出土した。

［時　期］　出土遺物と覆土の観察から、中世（15世紀）と思われる。

遺　物　（第33図、図版13－２－１・２、第９表）

［陶　器］（第33図１・２、図版13－２－１・２、第９表）

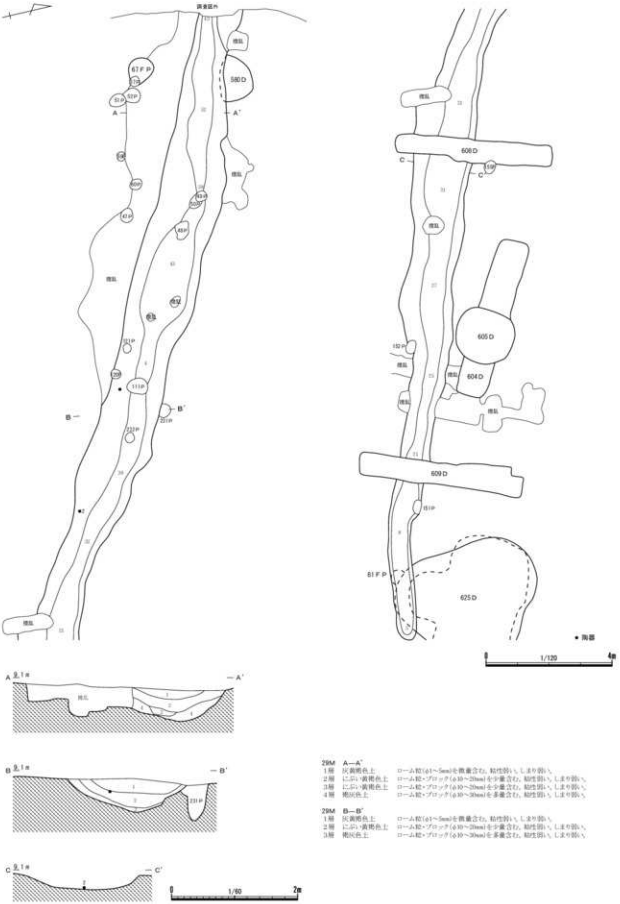
１は常滑大甕の胴下部の破片。２は瀬戸・美濃産の擂鉢体部立ち上がり部の破片である。



第33図　29号溝跡出土遺物（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量(cm)	製作の特徴等	推定産地	時期	出土位置
第33図1 図版13-2-1	陶器 甕	体部 破片	厚 1.0	体部は外傾する／内面：ナデ／外面：わずかにタタキ目が残る／自然降灰／色調は内面：褐色，外面：灰褐色／胎土は長石・砂粒／古瀬戸後期Ⅱ～Ⅲ段階	常滑産	中世 (15c)	覆土
第33図2 図版13-2-2	陶器 擂鉢	体部 破片	厚 1.1	体部は外反する／内面：８本一単位の擂目が１単位確認される／内外面鉄釉／色調は内面：にぶい赤褐色，外面：にぶい赤褐色／胎土は長石・砂粒・褐色粒子	瀬戸・美濃産	中世 (15c)	覆土

第９表　29号溝跡出土陶器一覧



第34図　29号溝跡（1／60）

30号溝跡

遺　構　（第35図）

［位　　置］（Ｋ－２・３、Ｌ－２・３）グリッド

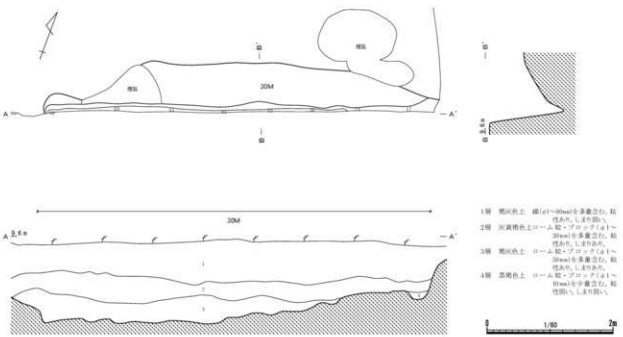
［検出状況］　１区南部で検出。南側は南壁の調査区外へ延びる。

［構　　造］　**平面形**：直線的。**断面形**：底面は歪で北側は70°に立ち上がり、南側は調査区外のため不明。**規模**：長軸検出長628㎝／短軸検出長80㎝／深さ75㎝。**主軸方位**：Ｎ－73°－Ｅ。

［覆　　土］　４層に分層される。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　覆土の観察から、中世以降と思われる。



第35図　30号溝跡（１／60）

（５）道路状遺構

１号道路状遺構

遺　構　（第36図）

［位　　置］（Ｌ－16・17、Ｍ－16）グリッド

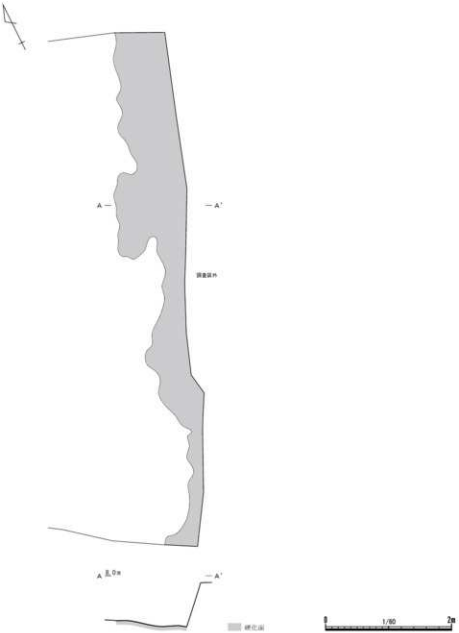
［検出状況］　94Ｈ南東付近で、住居跡確認面にて検出。

［構　　造］　**平面形**：確認範囲ではほぼ直線。**断面形**：調査範囲内で6°で南西方向に緩やかに傾斜する。**規模**：長軸815㎝／短軸10～110㎝／深さ12㎝。**主軸方位**：Ｎ－20°－Ｅ。

［覆　　土］　単層（硬化面のみ）。

［遺　　物］　なし。

［時　　期］　確認面と遺構の切り合い関係から、中世以降と思われる。



第36図　１号道路状遺構（１／60）

（6）ピット（第37～48図、第10・11表）

該当するピットは242本である。全体の分布は、２区の29号溝跡の南側で概ね西側に偏りを見せる。１区では、分布が（Ｊ－３）グリッド西端を限り（Ｉ－２・３～Ｊ－２）グリッドにかけて群集する。重複するピットが多く見られ、短期間で掘り直されたものか、同時多発的に掘られたものであろうか。２区では、特徴的なものとして（Ｅ－３・Ｆ－４～Ｆ－７）グリッドにかけて東西方向を軸に南に10°振れた102Pから169Pにかけて直線的に並ぶ状況が確認できる。また、これにほぼ直交する166・173・184・185Pの並びも認められる。規模や各ピットの深さが揃わないが土層断面に柱痕状の立ち上りが認められるものもあり柵列的な遺構が復元できる可能性もあるかもしれない。以下では、遺物の出土した63・72・86・136Pについて記述する。その他については第10・11表にまとめた。

63号ピット

遺　構　（第40図、第10表）

［位　　置］（Ｄ－６）グリッド

［検出状況］単独。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：70°～ 78°で立ち上がる。底面は丸底である。**規模**：長軸33㎝／短軸25㎝／深さ59㎝。**主軸方位**：Ｎ－47°－Ｅ。

［覆　　土］単層である。

［遺　　物］一括遺物で、陶器１点、磁器２点が出土した。

［時　　期］出土遺物から、近世（1680 ～ 1740年代）と想定される。

遺　物　（第49図１、図版13－３－１、第11表）

［磁　　器］（第49図１、図版13－３－１、第11表）

１は肥前系染付の磁器碗である。外面に雪輪草花文、高台内に圏線がある。

72号ピット

遺　構　（第40図、第10表）

［位　　置］（Ｅ－５）グリッド

［検出状況］単独。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：西壁は49°で立ち上がった後、段を持ちながら71°で立ち上がる。東壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は丸底である。**規模**：長軸44㎝／短軸32㎝／深さ62㎝。**主軸方位**：Ｎ－62°－Ｗ。

［覆　　土］３層に分層される。

［遺　　物］一括遺物で土器１点、鉄製品１点が出土した。

［時　　期］出土遺物から、中世以降と想定される。

遺　物　（第49図１、図版13－３－１、第11表）

［鉄 製 品］（第49図１、図版13－３－１、第11表）

１は刀子である。遺存部の一か所に括れがあり基部を形成し、反対は僅かずつ幅を減じて細くなる。断面形状は棟と刃部が形成されている。

86号ピット

遺　構　（第41図、第10表）

［位　　置］（Ｅ－４）グリッド

［検出状況］単独。

［構　　造］**平面形**：円形。**断面形**：39°～ 66°で立ち上がった後、垂直に立ち上がる。底面は丸底である。**規模**：長軸60㎝／短軸42㎝／深さ73㎝。**主軸方位**：Ｎ－2°－Ｗ。

［覆　　土］２層に分層される。

［遺　　物］地点上げ遺物で銭貨１点が出土した。

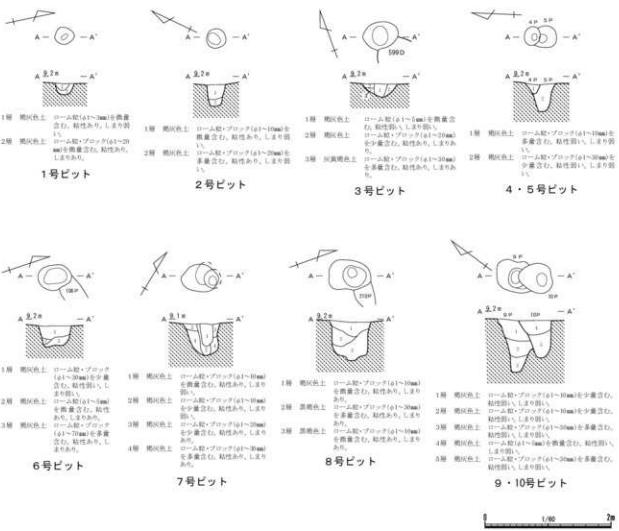
［時　　期］出土遺物から、近世（1636年～）と想定される。

遺　物　（第49図１、図版13－３－１、第11表）

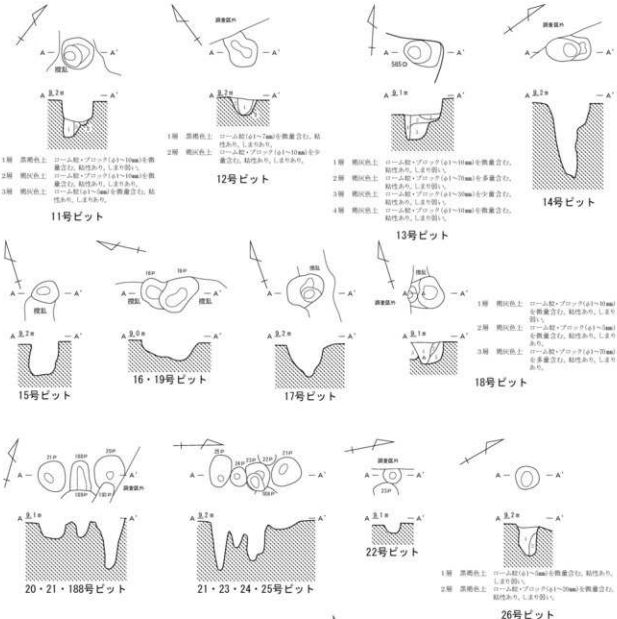
［銭　　貨］（第49図１、図版13－３－１、第11表）
１は寛永通宝の一文銭で、特徴から古寛永と思われる。

136号ピット

遺　　構（第44図、第10表）
［位　　置］（Ｆ－４・５）グリッド
［検出状況］137Pを切る。
［構　　造］**平面形**：楕円形。**断面形**：76°～78°で立ち上がる。底面は丸底気味で、東壁の立ち上がり際が盛り上がる。**規模**：長軸70㎝／短軸50㎝／深さ48㎝。**主軸方位**：Ｎ－28°－Ｅ。
［覆　　土］４層に分層される。
［遺　　物］地点上げ遺物で砥石１点、一括遺物で土器１点が出土した。
［時　　期］出土遺物から、中世以降と想定される。
遺　　物（第49図１、図版13－３－１、第11表）
［石 製 品］（第49図１、図版13－３－１、第11表）
１は凝灰岩製の砥石である。両端を欠損する。



第37図　中世以降のピット１（１／60）



1層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　褐灰色土　ローム粒(φ1~5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

11号ピット

1層　黒褐色土　ローム粒(φ1~7mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。

12号ピット

1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1~70mm)を多量含む。粘性あり。しまり弱い。
3層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1~30mm)を少量含む。粘性あり。しまり弱い。
4層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。

13号ピット

14号ピット

15号ピット

16・19号ピット

17号ピット

1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1~5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1~70mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

18号ピット

20・21・188号ピット

21・23・24・25号ピット

22号ピット

1層　黒褐色土　ローム粒(φ1~5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。

26号ピット

1層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を多量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を多量含む。粘性あり。しまり弱い。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1~5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
4層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を多量含む。粘性あり。しまり弱い。
5層　黒褐色土　ローム粒(φ1~5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。

27号ピット

1層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1~25mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

28号ピット

1層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を多量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1~5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　黒褐色土　ローム粒(φ1~5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
5層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
6層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
7層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

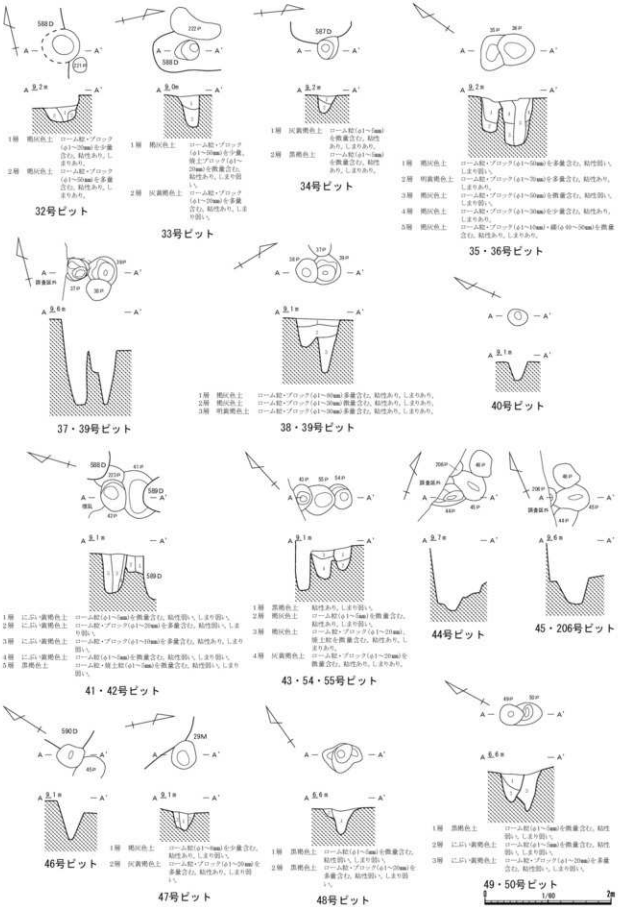
29・30号ピット

1層　褐灰色土　ローム粒(φ1~10mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を多量含む。粘性あり。しまり弱い。
3層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。

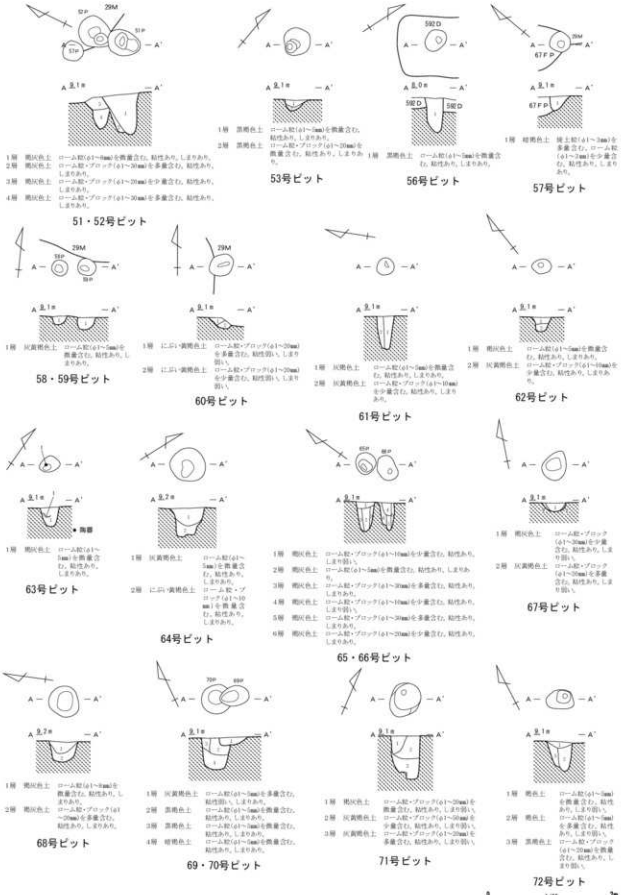
31号ピット

1/60　2m

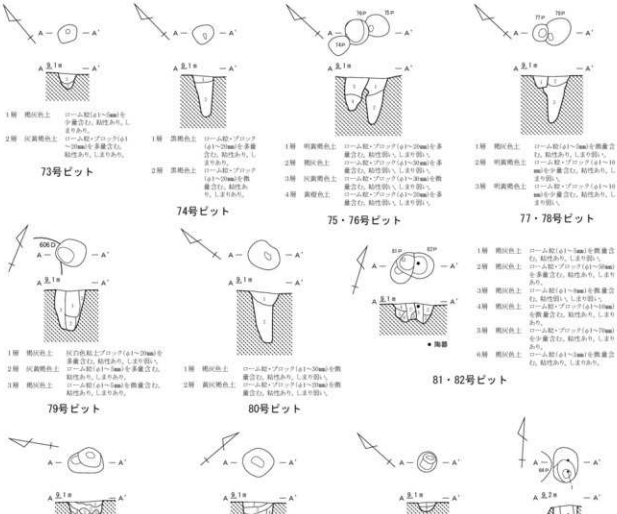
第38図　中世以降のピット２（1／60）



第39図　中世以降のピット３（１／60）



第40図　中世以降のピット４（１／60）



1層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～5mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。

73号ピット

1層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

74号ピット

1層　明黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性弱い、しまり弱い。
2層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性弱い、しまり弱い。
3層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を微量含む。粘性弱い、しまり弱い。
4層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性弱い、しまり弱い。

75・76号ピット

1層　暗灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまり弱い。
2層　明黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまり弱い。
3層　明黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまり弱い。

77・78号ピット

1層　暗灰色土　区白色粒土ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり、しまり弱い。
2層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　暗灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

79号ピット

1層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を微量含む。粘性あり、しまり弱い。
2層　黄灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

80号ピット

1層　暗灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまり弱い。
2層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　暗灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
5層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～70mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
6層　暗灰色土　ローム粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

81・82号ピット

1層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
5層　暗灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
6層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

83号ピット

1層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　に示い黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。
5層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

84号ピット

1層　暗灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　に示い黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。

85号ピット

1層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量、鉄平礫(φ10mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり、しまりあり。

86号ピット

1層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性弱い、しまり弱い。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性弱い、しまり弱い。

87・88号ピット

1層　暗灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い、しまり弱い。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い、しまり弱い。
3層　に示い黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性弱い、しまり弱い。
4層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性弱い、しまり弱い。
5層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性弱い、しまり弱い。

89・90号ピット

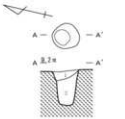
1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い、しまり弱い。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い、しまり弱い。
3層　黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い、しまり弱い。
4層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い、しまり弱い。
5層　に示い黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い、しまり弱い。

91・92号ピット

1層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。
2層　に示い黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
3層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり、しまりあり。
4層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり、しまりあり。

93・94号ピット

第41図　中世以降のピット５（１／60）

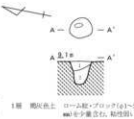


1層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性無い。しまり弱い。
2層　茶褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性無い。しまり弱い。

95号ピット

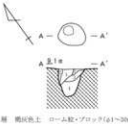
1層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　明黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　明黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
5層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

96号ピット



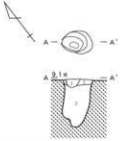
1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2層　茶褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。

97号ピット



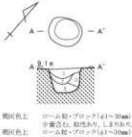
1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。

98号ピット



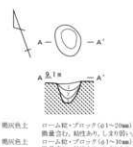
1層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　茶褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い。しまり弱い。

99号ピット



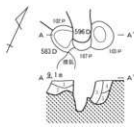
1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

100号ピット



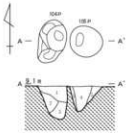
1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　黄灰褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

101号ピット



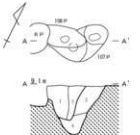
1層　黄灰褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　茶褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
5層　茶褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

102・103号ピット



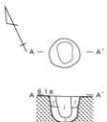
1層　褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い。しまりあり。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性弱い。しまりあり。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い。しまりあり。
4層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
5層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。

104・105号ピット



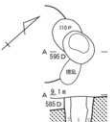
1層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～50mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。

106・107号ピット



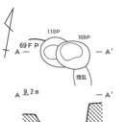
1層　褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

108号ピット

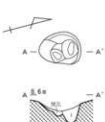


1層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2層　褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。

109号ピット



109・110号ピット

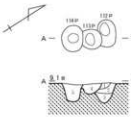


1層　茶褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。

111号ピット

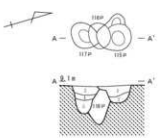
0　1/60　2m

第42図　中世以降のピット６（１／60）



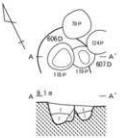
1層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性強い。しまりあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性強い。しまりあり。
3層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性強い。しまりあり。
4層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性強い。しまりあり。
5層　褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い。しまりあり。

112・113・114号ピット



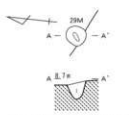
1層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
3層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
5層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

115・117号ピット



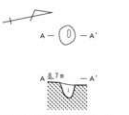
1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性弱い。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を微量含む。粘性弱い。しまりあり。
3層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性弱い。しまりあり。
4層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性弱い。しまりあり。
5層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性弱い。しまりあり。

118・119号ピット



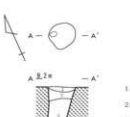
1層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。

120号ピット



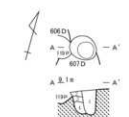
1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

121号ピット



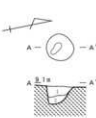
1層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

123号ピット



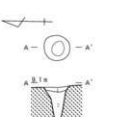
1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性あり。しまり弱い。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
4層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性あり。しまり弱い。

124号ピット



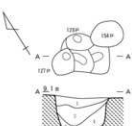
1層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。

125号ピット



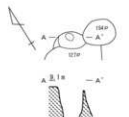
1層　黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。

126号ピット

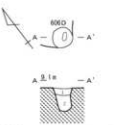


1層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　明黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり。しまり弱い。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
4層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。

127号ピット

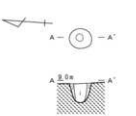


128号ピット



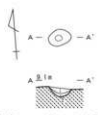
1層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性弱い。しまりあり。

129号ピット



1層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

130号ピット

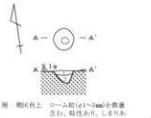


1層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

131号ピット

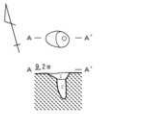
1/60　2m

第43図　中世以降のピット７（１／60）



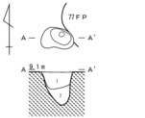
1層　褐灰色土　ローム粒(φ1～3mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

132号ピット



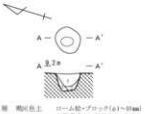
1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性弱い。しまりあり。

133号ピット



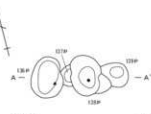
1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性弱い。しまりあり。

134号ピット



1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

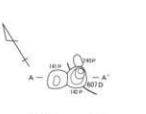
135号ピット



1層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり。しまり弱い。
3層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
5層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
6層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり。しまり弱い。
7層　灰黄褐色土　灰白軽石上ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
8層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
9層　褐灰色土　灰白軽石上ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
10層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
11層　にぶい黄褐色土　灰白軽石上ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
12層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
13層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
14層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
15層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

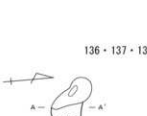
136・137・138・139号ピット

140号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

141・142号ピット

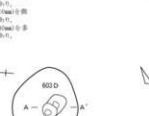


1層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

143号ピット

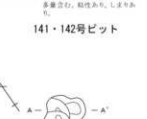
1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性弱い。しまり弱い。

144号ピット



1層　灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性弱い。しまりあり。
2層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い。しまり弱い。

145号ピット



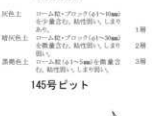
1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

146号ピット

1層　暗灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。
2層　暗灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)・焼土・ブロック・礫(φ10～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　灰色土　ローム粒・焼土粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　暗褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。

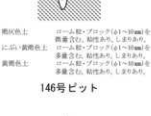
147・148号ピット

149・150号ピット



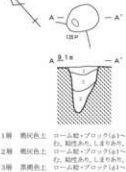
1層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)少量含む。粘性弱い。しまり弱い。

151号ピット



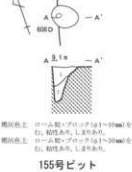
152号ピット　153号ピット

第44図　中世以降のピット８（1／60）



1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。

154号ピット

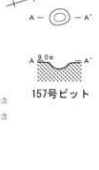


1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

155号ピット

1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

156号ピット



157号ピット

1層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

158号ピット

1層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。

159号ピット

1層　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。

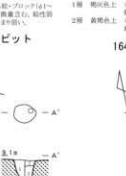
160号ピット

1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　灰黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

161号ピット

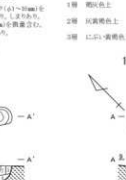
1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。

162号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)微量含む。粘性弱い。しまり弱い。

163号ピット

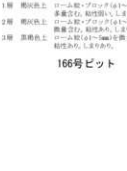


1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

164号ピット

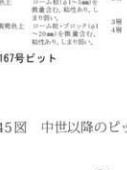
1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性あり。しまり弱い。
2層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。

165号ピット



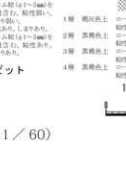
1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
3層　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

166号ピット



1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を多量含む。粘性弱い。しまり弱い。
2層　灰黄褐色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
3層　にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。

167号ピット



1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性弱い。しまりあり。
2層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性弱い。しまり弱い。
3層　褐灰色土　粘性あり。しまりあり。
4層　褐灰色土　ローム粒(φ1～5mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。

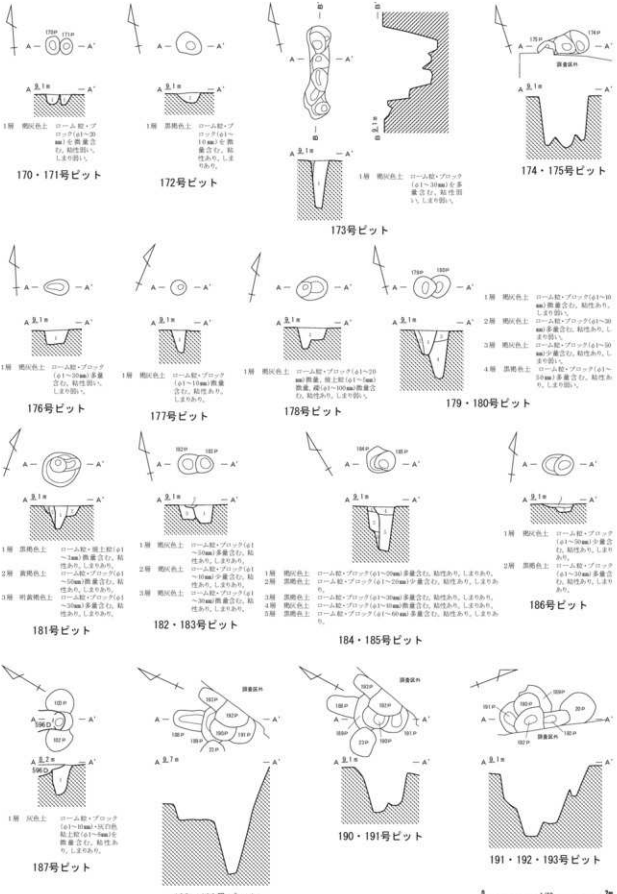
168号ピット

1層　褐灰色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
2層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～10mm)を微量含む。粘性あり。しまり弱い。
3層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)を微量含む。粘性あり。しまりあり。
4層　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～30mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

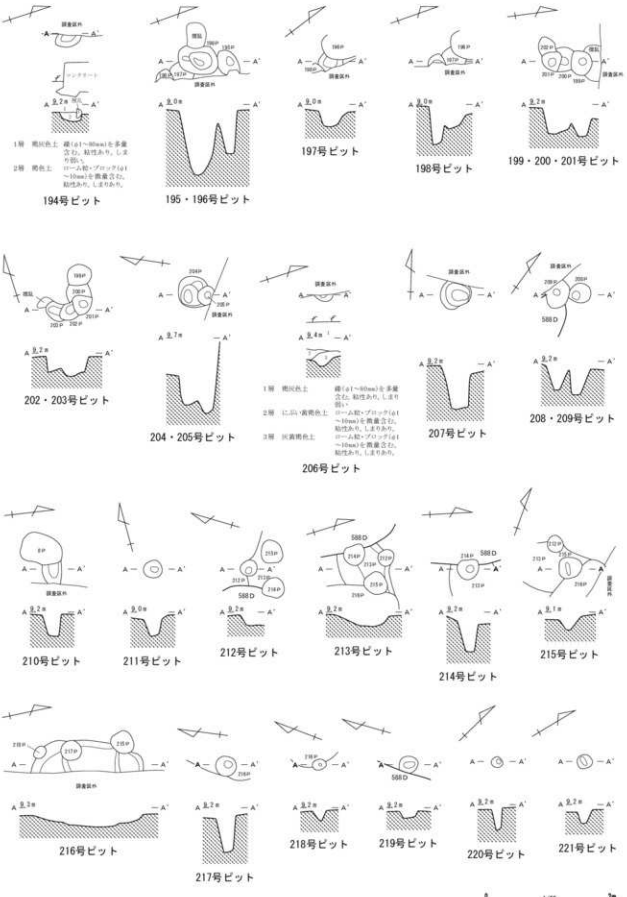
169号ピット

0　1/60　2m

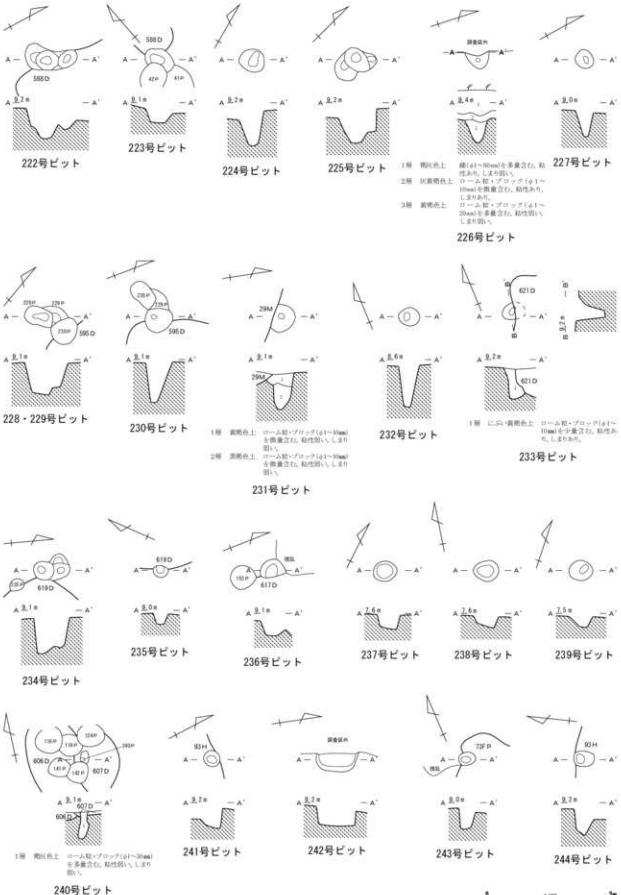
第45図　中世以降のピット９（１／60）



第46図　中世以降のピット10（1／60）



第47図　中世以降のピット11（1／60）



第48図　中世以降のピット12（1／60）

遺構名	位置グリッド	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
1P	E4	円形	0.30	0.26	0.25	2層	遺物なし	中世以降
2P	E4・F4	円形	0.32	0.30	0.39	2層	遺物なし	中世以降
3P	E4・F4	楕円形	0.56	0.44	0.23	3層／599Dを切る	陶器	中世以降
4P	E4	楕円形	0.30	0.22	0.11	単層／5Pを切る	遺物なし	中世以降
5P	E4	楕円形	0.33	(0.26)	0.54	単層／4Pに切られる	遺物なし	中世以降
6P	E4	楕円形	0.54	0.41	0.32	3層／106Pを切る	鉄釘	中世以降
7P	F5	楕円形	0.56	0.42	0.65	4層	遺物なし	中世以降
8P	J2	楕円形	1.68	0.46	0.58	3層／210Pを切る	遺物なし	中世以降
9P	J3	隅丸長方形	0.50	(0.42)	0.83	3層／10Pに切られる	遺物なし	中世以降
10P	J3	楕円形	0.60	0.46	0.63	2層／9Pを切る	遺物なし	中世以降
11P	K3	円形	0.58	0.51	0.59	3層	磁器	中世以降
12P	J4	不整楕円形	(0.62)	0.50	0.34	2層	遺物なし	中世以降
13P	K2	楕円形	0.62	0.42	0.68	4層／93H・581D・585Dを切る	遺物なし	中世以降
14P	H2・H3	楕円形	0.70	(0.40)	1.12	—	遺物なし	中世以降
15P	H3	楕円形	0.44	0.36	0.52	—	遺物なし	中世以降
16P	H2・H3	楕円形	(0.40)	0.33	0.41	—／19Pに切られる	遺物なし	中世以降
17P	H3	楕円形	0.64	0.46	0.51	—	かわらけ	中世以降
18P	I2	不整楕円形	(0.54)	0.50	0.69	3層	遺物なし	中世以降
19P	H2・H3	楕円形	0.70	0.44	0.44	—／16Pを切る	遺物なし	中世以降
20P	I3	円形	(0.58)	0.50	0.70	—／193Pに切られる	遺物なし	中世以降
21P	I2	円形	0.50	0.42	0.29	—	遺物なし	中世以降
22P	I2	円形	0.30	(0.26)	0.37	—	遺物なし	中世以降
23P	I2	円形	0.44	0.44	0.63	—／189Pを切る	遺物なし	中世以降
24P	I2	円形	0.30	0.24	0.38	—	遺物なし	中世以降
25P	I2	楕円形	0.50	0.32	0.90	—	遺物なし	中世以降
26P	K2	円形	0.36	0.40	0.51	2層	遺物なし	中世以降
27P	I2	楕円形	0.52	0.40	0.93	5層	遺物なし	中世以降
28P	J3	楕円形	0.41	0.30	0.30	単層／586Dに切られる	遺物なし	中世以降
29P	J2	円形	0.50	0.38	0.47	4層	遺物なし	中世以降
30P	J2	楕円形	0.56	0.42	0.65	3層	遺物なし	中世以降
31P	J4	楕円形	0.44	0.35	0.36	3層	遺物なし	中世以降
32P	J2	円形	(0.51)	(0.18)	0.51	2層／588Dに切られる	遺物なし	中世以降
33P	J2・K2	楕円形	0.46	0.39	0.55	2層／588Dに切られる	遺物なし	中世以降
34P	J3	楕円形	0.44	0.32	0.29	2層／587Dを切る	遺物なし	中世以降
35P	J4	楕円形	0.55	(0.36)	0.55	2層／36Pに切られる	遺物なし	中世以降
36P	J4	楕円形	0.60	0.48	0.83	3層／35Pを切る	遺物なし	中世以降
37P	I2	円形	(0.38)	0.38	0.88	—／39Pと重複	遺物なし	中世以降
38P	I2	円形	0.40	0.34	0.49	2層／39Pを切る	遺物なし	中世以降
39P	I2	円形	0.48	0.45	0.85	単層／38Pに切られる／37Pと重複	遺物なし	中世以降
40P	I2	楕円形	0.32	0.24	0.29	—	遺物なし	中世以降
41P	K2	不整楕円形	0.78	0.51	0.54	2層／589D・42P・223Pに切られる	遺物なし	中世以降
42P	K2	楕円形	0.50	0.42	0.82	3層／41P・223Pを切る	遺物なし	中世以降
43P	J2	楕円形	0.38	(0.26)	0.64	—／55Pを切る	遺物なし	中世以降
44P	J2	楕円形	(0.50)	0.36	0.47	—／45Pと重複	遺物なし	中世以降
45P	J2	楕円形	(0.52)	0.42	0.46	—／206Pに切られる／44Pと重複	遺物なし	中世以降
46P	I2・J2	円形	0.44	(0.22)	0.58	—／590Dに切られる	遺物なし	中世以降
47P	D5	円形	0.46	0.40	0.43	2層／29Mを切る	遺物なし	中世以降
48P	D5	不整楕円形	0.68	0.50	0.48	2層／29Mを切る	遺物なし	中世以降
49P	C5	円形	0.38	0.36	0.50	2層／29M・50Pを切る	土器	中世以降
50P	D5・C5	楕円形	(0.36)	0.32	0.63	単層／29Mを切る／49Pに切られる	鐘	中世以降
51P	D4	楕円形	0.52	0.40	0.73	2層／52Pを切る	かわらけ	中世以降
52P	D4	円形	0.54	0.46	0.53	2層／29Mを切り、51Pに切られる	遺物なし	中世以降
53P	D7	円形	0.46	0.45	0.23	2層	遺物なし	中世以降
54P	J2	円形	0.44	0.32	0.43	2層／55Pに切られる	遺物なし	中世以降
55P	J2	円形	0.50	(0.36)	0.48	2層／54Pを切り、43Pに切られる	遺物なし	中世以降
56P	D7	円形	0.40	0.28	0.54	単層／592Dを切る	遺物なし	中世以降

第10表　中世以降のピット一覧（1）

遺構名	位置グリッド	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
57P	D4	円形	0.32	0.42	0.20	単層／67Pを切る	遺物なし	中世以降
58P	D4	円形	0.28	0.23	0.15	単層	遺物なし	中世以降
59P	D4	円形	0.28	0.26	0.17	単層／29Mを切る	かわらけ	中世以降
60P	D4	円形	0.44	0.32	0.17	2層／29Mを切る	遺物なし	中世以降
61P	D6	円形	0.30	0.25	0.76	2層	遺物なし	中世以降
62P	D6	楕円形	0.32	0.22	0.33	2層	遺物なし	中世以降
63P	D6	楕円形	0.33	0.25	0.59	単層	陶器、磁器 肥前系 （1680 ～ 1740年代）	近世以降 （1680 ～ 1740年代）
64P	E4	円形	0.70	0.52	0.58	2層	陶器、瓦	近世以降
65P	D5	円形	0.38	0.34	0.50	3層	遺物なし	中世以降
66P	E5	楕円形	0.42	0.30	0.47	3層	遺物なし	中世以降
67P	D5・E5	円形	0.50	0.40	0.15	2層	鉄	中世以降
68P	E5	円形	0.54	0.48	0.43	2層	遺物なし	中世以降
69P	E5・E6	楕円形	0.48	0.32	0.19	単層／70Pを切る	遺物なし	中世以降
70P	E5	円形	0.50	(0.40)	0.50	3層／69Pに切られる	遺物なし	中世以降
71P	E5	円形	0.60	0.50	0.74	3層	遺物なし	中世以降
72P	E5	楕円形	0.44	0.32	0.62	3層	刀子	近世以降
73P	E5	円形	0.36	0.29	0.34	2層	遺物なし	中世以降
74P	E5	円形	0.34	0.32	0.67	2層／76Pと重複	遺物なし	中世以降
75P	E5	円形	0.40	0.36	0.75	2層／76Pに切られる	遺物なし	中世以降
76P	E5	円形	0.40	0.35	0.55	2層／75Pを切る／74Pと重複	遺物なし	中世以降
77P	E5	円形	0.27	0.24	0.19	単層／78Pを切る	遺物なし	中世以降
78P	E5	円形	0.48	0.38	0.74	2層／77Pに切られる	遺物なし	中世以降
79P	E5	円形	0.52	0.45	0.65	3層／60Dを切る	遺物なし	中世以降
80P	D5・E5	楕円形	0.54	0.40	0.94	2層	遺物なし	中世以降
81P	E5	楕円形	0.52	0.34	0.73	4層／82Pを切る	遺物なし	中世以降
82P	E5	楕円形	0.42	(0.30)	0.32	3層／81Pに切られる	陶器	近世以降
83P	E4	楕円形	0.53	0.40	0.66	6層	遺物なし	中世以降
84P	E6	円形	0.50	0.44	0.54	5層	遺物なし	中世以降
85P	E5・E6	円形	0.34	0.30	0.24	2層	遺物なし	中世以降
86P	E4	円形	0.60	0.42	0.73	2層	寛永通宝	近世以降
87P	D4	楕円形	0.38	(0.22)	0.56	単層／88Pに切られる	遺物なし	中世以降
88P	D4	楕円形	0.40	0.32	0.56	2層／87Pを切る	遺物なし	中世以降
89P	E3	楕円形	0.26	0.24	0.50	単層	遺物なし	中世以降
90P	E3	円形	0.53	0.42	0.68	4層	遺物なし	中世以降
91P	E5・E6	円形	0.40	0.36	0.31	3層／92Pを切る	遺物なし	中世以降
92P	E5・E6	円形	0.30	(0.28)	0.11	2層／91Pに切られる	遺物なし	中世以降
93P	E6	円形	0.42	0.38	0.43	2層／94Pを切る	遺物なし	中世以降
94P	E6	円形	0.38	0.28	0.32	2層／93Pに切られる	遺物なし	中世以降
95P	D4・D5	円形	0.42	0.38	0.53	2層	遺物なし	中世以降
96P	E6	円形	0.44	0.36	0.22	5層/80FPを切る	遺物なし	中世以降
97P	E5	円形	0.36	0.30	0.58	2層	遺物なし	中世以降
98P	E5・F5	楕円形	0.44	0.33	0.54	4層	遺物なし	中世以降
99P	F5	楕円形	0.52	0.32	0.77	3層	遺物なし	中世以降
100P	F5	円形	0.53	0.42	0.40	4層	遺物なし	中世以降
101P	F5	円形	0.50	0.38	0.34	3層	遺物なし	中世以降
102P	E3	円形	0.40	0.36	0.20	2層／58Dを切る／59Dに切られる	遺物なし	中世以降
103P	E4	円形	0.42	(0.34)	0.40	3層／59Dに切られる	遺物なし	中世以降
104P	F4	不整楕円形	0.72	0.42	0.78	3層	遺物なし	中世以降
105P	F4	円形	0.52	0.46	0.46	2層	遺物なし	中世以降
106P	E4	不整楕円形	(0.60)	0.31	0.80	2層／107Pを切る／6Pに切られる	遺物なし	中世以降
107P	E4	円形	0.81	0.46	0.77	2層／106Pに切られる。	遺物なし	中世以降
108P	F5	円形	0.50	0.44	0.45	3層	遺物なし	中世以降
109P	D4・E4	円形	0.54	0.54	0.71	2層／69FP・110Pを切る	遺物なし	中世以降
110P	D4・E4	円形	0.48	(0.26)	0.45	―／69FPを切る／109Pに切られる	遺物なし	中世以降
111P	D6	楕円形	0.65	0.50	0.43	単層／29Mを切る	遺物なし	中世以降

第10表　中世以降のピット一覧（2）

遺構名	位置グリッド	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
112P	E5	楕円形	0.44	0.30	0.32	3層／113Pに切られる	遺物なし	中世以降
113P	E5	円形	0.36	(0.30)	0.18	単層／112Pを切る／114Pに切られる	遺物なし	中世以降
114P	E5	円形	0.40	0.34	0.61	単層／113Pを切る	遺物なし	中世以降
115P	E4・E5	不整楕円形	0.58	0.50	0.28	2層／116P・117Pを切る	遺物なし	中世以降
117P	E4	円形	(0.40)	0.36	0.49	3層／116Pを切り，115Pに切られる	遺物なし	中世以降
118P	E5	円形	0.48	0.46	0.33	3層／606D・119Pを切る。	青磁碗（15c）	中世以降
119P	E5	円形	0.36	(0.32)	0.25	2層／606D・607Dを切る／118P・124Pに切られる	かわらけ	中世以降
120P	D5・D6	円形	0.30	0.30	0.28	単層／29Mを切る	遺物なし	中世以降
121P	D5	円形	0.32	0.26	0.25	単層／29Mを切る	遺物なし	中世以降
123P	E4	円形	0.44	0.40	0.84	3層	遺物なし	中世以降
124P	E5	円形	0.48	0.38	0.38	4層／606D・607D・119Pを切る	遺物なし	中世以降
125P	E4	円形	0.42	0.42	0.34	2層	遺物なし	中世以降
126P	E4	円形	0.42	0.40	0.35	2層	遺物なし	中世以降
127P	E5	不整形	0.44	0.40	0.87	4層／128Pを切る	遺物なし	中世以降
128P	E5	不整円形	0.74	0.58	0.52	単層／127P・154Pに切られる	遺物なし	中世以降
129P	E5	円形	0.36	0.30	0.34	2層／606Dを切る	遺物なし	中世以降
130P	E3	円形	0.44	0.32	0.46	2層	遺物なし	中世以降
131P	E4	楕円形	0.32	0.26	0.15	2層	遺物なし	中世以降
132P	E4	円形	0.35	0.34	0.22	2層	遺物なし	中世以降
133P	E4	楕円形	0.40	0.30	0.50	2層	遺物なし	中世以降
134P	E4	不整楕円形	0.50	0.32	0.81	2層／77PPを切る	遺物なし	中世以降
135P	E3・E4	円形	0.40	0.36	0.31	3層	瀬戸美濃天目	中世以降
136P	F4・F5	楕円形	0.70	0.50	0.48	4層／137Pを切る	礫石，土器	中世以降
137P	F5	円形	0.34	(0.16)	0.20	2層／136P・138Pに切られる	遺物なし	中世以降
138P	F5	不整楕円形	0.64	0.54	0.65	7層／137P・139Pを切る	遺物なし	中世以降
139P	F5	不整円形	0.48	0.36	0.21	2層／138Pに切られる	遺物なし	中世以降
140P	F5	円形	0.36	0.28	0.26	―	遺物なし	中世以降
141P	E5	円形	0.32	0.30	0.42	単層／606D・142Pを切る	遺物なし	中世以降
142P	E5	円形	0.34	0.30	0.39	単層／606D・607D・246Pを切る／141Pに切られる	遺物なし	中世以降
143P	E4	不整楕円形	0.74	0.40	0.85	3層／606D・77PP・78PPを切る／抜き取り痕を有する	遺物なし	中世以降
144P	D7・E7	円形	0.36	0.32	0.17	単層	遺物なし	中世以降
145P	D6	楕円形	0.42	0.23	0.74	3層／603Dを切る	遺物なし	中世以降
146P	F10	不整楕円形	0.74	0.60	0.79	3層	遺物なし	中世以降
147P	F5	楕円形	0.36	0.30	0.19	2層／601D・148Pを切る	遺物なし	中世以降
148P	F5	楕円形	0.40	(0.23)	0.31	2層／601D・147Pに切られる	遺物なし	中世以降
149P	F4	円形	0.56	0.48	0.91	―／150Pと重複	遺物なし	中世以降
150P	F4	円形	(0.52)	(0.38)	0.71	―／149Pと重複	遺物なし	中世以降
151P	F9・F10	楕円形	0.50	0.24	0.67	単層／29Mを切る	遺物なし	中世以降
152P	F8・F9	楕円形	0.50	0.31	0.48	―／29Mを切る	遺物なし	中世以降
153P	G9	円形	0.40	0.40	0.47	―／617Dを切る	遺物なし	中世以降
154P	E5	楕円形	0.54	0.40	0.78	3層／128Pを切る	遺物なし	中世以降
155P	E7・E8	円形	0.44	0.35	0.56	2層／608Dを切る	遺物なし	中世以降
156P	G11	楕円形	0.50	0.40	0.43	2層	礫	中世以降
157P	G9・G10	円形	0.32	0.30	0.12	―	礫	中世以降
158P	G9	円形	0.34	0.30	0.55	3層	礫	中世以降
159P	G10	円形	0.28	0.28	0.55	2層	遺物なし	中世以降
160P	G10	円形	0.34	0.32	0.18	2層	遺物なし	中世以降
161P	G11・H11	円形	0.38	0.32	0.35	3層	遺物なし	中世以降
162P	F11	円形	0.50	0.44	0.47	単層	遺物なし	中世以降
163P	E6	円形	0.36	0.34	0.33	単層	遺物なし	中世以降
164P	F11	不整楕円形	1.30	0.45	0.29	2層	遺物なし	中世以降
165P	E6	楕円形	0.48	0.40	0.37	3層	遺物なし	中世以降
166P	F7	円形	0.50	0.48	1.23	3層	遺物なし	中世以降
167P	E6	円形	0.36	0.30	0.82	3層	遺物なし	中世以降
168P	F6	楕円形	0.52	0.28	0.33	4層	遺物なし	中世以降
169P	F7	楕円形	0.72	0.52	1.04	4層／637Dを切る	遺物なし	中世以降

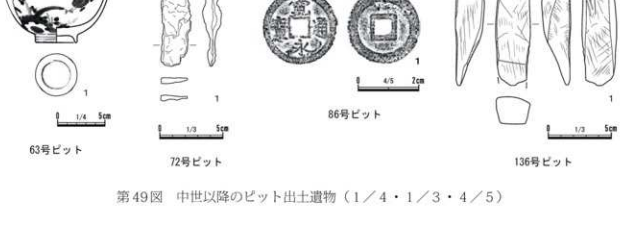
第10表　中世以降のピット一覧（3）

遺構名	位置グリッド	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
170P	F6	円形	0.32	0.22	0.21	単層／171Pと重複	遺物なし	中世以降
171P	F6	円形	0.26	0.22	0.16	単層／170Pと重複	遺物なし	中世以降
172P	F6	楕円形	0.42	0.38	0.24	単層	遺物なし	中世以降
173P	F7	不整楕円形	1.54	0.40	0.85	2層	遺物なし	中世以降
174P	G7	楕円形	(0.56)	0.40	0.82	―／175Pに切られる	遺物なし	中世以降
175P	F7・G7	円形	0.30	(0.25)	0.12	―／174Pを切る	遺物なし	中世以降
176P	F6	楕円形	0.42	0.34	0.25	単層	遺物なし	中世以降
177P	F6	円形	0.26	0.26	0.37	単層	遺物なし	中世以降
178P	F6	楕円形	0.52	0.36	0.34	単層	遺物なし	中世以降
179P	F7	円形	0.40	(0.26)	0.12	2層／80Pを切る	遺物なし	中世以降
180P	F7	円形	0.38	0.30	0.76	2層／79Pに切られる	遺物なし	中世以降
181P	F7	円形	0.64	0.58	0.39	3層	遺物なし	中世以降
182P	F6	円形	0.32	(0.30)	0.22	単層／183Pに切られる	遺物なし	中世以降
183P	F6	円形	0.30	0.28	0.31	2層／182Pを切る	遺物なし	中世以降
184P	F7	円形	0.50	(0.26)	0.42	3層／183Pに切られる	遺物なし	中世以降
185P	F7	不整円形	0.36	0.30	0.71	2層／184Pを切る	遺物なし	中世以降
186P	F8	楕円形	0.50	0.30	0.13	2層	遺物なし	中世以降
187P	E3・E4	円形	(0.30)	0.26	0.50	単層／596Dに切られる	遺物なし	中世以降
188P	I2・I3	長楕円形	(0.48)	0.34	0.26	―／189Pに切られる	遺物なし	中世以降
189P	I2・I3	楕円形	0.53	(0.16)	0.22	単層／188Pを切る／223P・190P・192P・193Pに切られる	遺物なし	中世以降
190P	I3	円形	0.42	(0.22)	0.66	―／189P・191Pを切る／192Pに切られる	遺物なし	中世以降
191P	I3	円形	0.52	(0.28)	0.50	―／190P・192Pに切られる	遺物なし	中世以降
192P	I3	不整円形	0.50	(0.36)	0.99	―／189P・190P・191P・193Pを切る	遺物なし	中世以降
193P	I3	長楕円形	(0.42)	0.24	0.85	―／20P・189Pを切る／192Pに切られる	遺物なし	中世以降
194P	I2	楕円形	0.40	(0.20)	0.13	―	遺物なし	中世以降
195P	I3	楕円形	(0.45)	0.32	0.79	―／196Pに切られる	遺物なし	中世以降
196P	I2・I3	楕円形	0.62	0.44	1.07	―／195P・197Pを切る	遺物なし	中世以降
197P	I2・I3	円形	0.41	(0.20)	0.29	―／196P・198Pに切られる	遺物なし	中世以降
198P	I3	円形	0.26	(0.21)	0.55	―／197Pを切る	遺物なし	中世以降
199P	I3・J3	円形	0.40	0.36	0.49	―／200Pを切る	遺物なし	中世以降
200P	J3	円形	0.38	(0.21)	0.36	―／199P・201P・202Pに切られる	遺物なし	中世以降
201P	J3	円形	0.34	0.34	0.41	―／200P・202Pを切る	遺物なし	中世以降
202P	J2・J3	楕円形	(0.30)	(0.25)	0.28	―／200P・203Pを切る／201Pに切られる	遺物なし	中世以降
203P	J2・J3	楕円形	(0.30)	0.22	0.22	―／202Pに切られる	遺物なし	中世以降
204P	J2・J3	円形	0.51	0.50	0.50	―／205Pに切られる	遺物なし	中世以降
205P	J2	円形	0.28	(0.20)	0.66	―／204Pを切る	遺物なし	中世以降
206P	J2	円形	0.30	(0.12)	0.10	―／45Pを切る	遺物なし	中世以降
207P	J3	円形	0.50	(0.46)	0.69	―	遺物なし	中世以降
208P	J2	円形	(0.35)	0.31	0.43	―／209Pに切られる	遺物なし	中世以降
209P	J2	不整楕円形	(0.48)	0.38	0.41	―／588D・208Pを切る	遺物なし	中世以降
210P	J2	楕円形	(0.30)	0.26	0.36	―／8Pに切られる	遺物なし	中世以降
211P	J2	円形	0.31	0.30	0.28	―／588Dを切る	遺物なし	中世以降
212P	J2	円形	0.25	0.24	0.17	―／213Pを切る	遺物なし	中世以降
213P	J2	不整楕円形	(1.05)	(0.80)	0.18	―／588D・212P・214P・215P・216Pに切られる	遺物なし	中世以降
214P	J2	円形	0.33	0.30	0.45	―／588D・213Pを切る	遺物なし	中世以降
215P	J2	円形	0.38	0.32	0.19	―／213P・216Pを切る	遺物なし	中世以降
216P	J2	長楕円形	1.74	(0.58)	0.18	―／213Pを切る／215P・217P・218Pに切られる	遺物なし	中世以降
217P	J2	円形	0.30	0.30	0.67	―／216Pを切る	遺物なし	中世以降
218P	J2	楕円形	0.22	0.15	0.17	―／216Pを切る	遺物なし	中世以降
219P	J2	円形	0.30	(0.30)	0.13	―／588Dを切る	遺物なし	中世以降
220P	J2	円形	0.20	0.18	0.33	―	遺物なし	中世以降
221P	J2	円形	0.28	0.22	0.19	―	遺物なし	中世以降
222P	J2	長楕円形	0.82	0.48	0.52	―／588Dを切る	遺物なし	中世以降
223P	K2	楕円形	0.48	(0.28)	0.17	―／588D・41Pを切る／42Pに切られる	遺物なし	中世以降
224P	K2	円形	0.42	0.40	0.59	―／588Dを切る	遺物なし	中世以降
225P	K2	不整楕円形	0.65	0.48	0.15	―／588Dを切る	遺物なし	中世以降

第10表　中世以降のピット一覧（4）

遺構名	位置グリッド	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
226P	K2	楕円形	0.33	(0.20)	0.02	―	遺物なし	中世以降
227P	C4	円形	0.40	0.32	0.43	―	遺物なし	中世以降
228P	E3	楕円形	0.42	0.31	0.50	―／299Pを切る	遺物なし	中世以降
229P	E3	楕円形	0.46	0.35	0.37	―／228P・230Pに切られる	遺物なし	中世以降
230P	E3	円形	0.44	0.38	0.63	―／69FP・229Pを切る	遺物なし	中世以降
231P	D6	円形	0.44	0.40	0.58	2層／29Hを切る	遺物なし	中世以降
232P	D6	円形	0.34	0.28	0.68	―／29Hを切る	遺物なし	中世以降
233P	F8	円形	(0.40)	0.30	0.45	単層／62Dを切る	遺物なし	中世以降
234P	G8・G9	円形	0.46	0.34	0.60	―／619Dを切る	遺物なし	中世以降
235P	G9	円形	0.18	0.16	0.18	―／619Dを切る	遺物なし	中世以降
236P	F9・G9	円形	0.42	0.30	0.23	―／617Dを切る	遺物なし	中世以降
237P	K14	円形	0.40	0.32	0.24	―	遺物なし	中世以降
238P	K14・L14	円形	0.42	0.32	0.24	―	遺物なし	中世以降
239P	L14	円形	0.40	0.36	0.20	―	遺物なし	中世以降
240P	E5	楕円形	(0.20)	0.12	0.44	単層／606D・607Dを切る／142Pに切られる	遺物なし	中世以降
241P	K2	円形	0.28	0.24	0.29	―／93Hを切る	遺物なし	中世以降
242P	C3	楕円形	0.70	(0.32)	0.37	―	遺物なし	中世以降
243P	F8	楕円形	0.28	0.20	0.32	―／73FPを切る	遺物なし	中世以降
244P	K2	楕円形	0.32	0.25	0.42	―／93Hを切る	遺物なし	中世以降

第10表　中世以降のピット一覧（５）



第49図　中世以降のピット出土遺物（1／4・1／3・4／5）

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	製作の特徴等	推定産地	時期	出土位置
第49図1 図版13-3-1	63P	磁器 碗	口縁部～底部 80%	口 11.2 高 6.5 底 4.14	ロクロ成形／染付雪輪草花文／高台内無釉／色調は灰白色	肥前系	1680～1740年代	覆土

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第49図1 図版13-3-1	72P	鉄製品 刀子	鉄	(7.7)	2.3	1.5	27.2	刃上方欠損／基部に一か所孔が見られる／断面は二等辺三角形／中央部が特に膨脹	覆土

挿図番号 図版番号	出土遺構	銭貨名	初鋳年	外径 (cm)	方孔一片 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第49図1 図版13-3-1	86P	寛永通宝	1636年	2.4	0.6	0.1	3.0	完形／一文銭／古寛永/1636～17c中葉	覆土下層

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第49図1 図版13-3-1	136P	石製品 硯石	凝灰岩	9.8	2.7	2.2	67.9	中央付近が山なりで、両端に向かい薄くなる形状／４面に細かな擦痕が残り、２面に明瞭な線条痕がみられる／全面保けるが／両端欠損	覆土下層

第11表　ピット出土磁器・鉄製品・銭貨・石製品一覧

第４節　遺構外出土遺物

ここでは、確認調査時及び表土除去中他時期の遺構からの混入品である遺物、撹乱や表土から出土した遺物を前節までの各時代出土遺物と区別し遺構外出土遺物として報告する。

（1）旧石器時代・縄文時代

［石　　器］（第50図１～５、図版13－４－１～２・14－３～５、第12表）

１はチャート製の尖頭器、２は黒曜石製の縦長剥片であり、これらは後期旧石器時代の所産である。

３は後期旧石器時代終末～縄文時代草創期の尖頭器である。石材は凝灰岩である。

４・５は縄文時代の石器である。４は頁岩製の打製石斧、５はホルンフェルス製の打製石斧である。

［土　　器］（第50～52図６～51、図版14・15・16－６～51、第13表）

６～20は早期の土器である。６は早期前半の撚糸文系土器、７～20は早期後半～末葉の条痕文系土器で、７は野島式、８～10は茅山下層式と思われる。21～48は前期の土器である。21・22は関山Ⅱ式、24は羽状縄文系の土器で黒浜式と思われ、25～27は黒浜式である。28～44は諸磯式で、28～33はａ式、39～41はｂ式、42は竹管文系の土器、43・44はｃ式である。45・46は浮島系、47は東関東系、48は前期末の土器と思われる。49～51は中期の土器で、49は五領ヶ台式、50は加曽利ＥⅡ～Ⅲ式、51は加曽利ＥⅢ～Ⅳ式である。

（2）古墳時代後期

［土　　器］（第52図52、図版16－52、第14表）

52は古墳時代後期の土師器甕である。

（3）平安時代

［須恵器・土器］（第52図53～55、図版16－53～55、第15表）

53は須恵器坏、54は高台の付く須恵器埦である。55は土師器の三足鍋脚部と思われる。

（4）中世

［陶磁器・かわらけ］（第52図56～60、図版16－56～60、第16表）

56～58は磁器、59は陶器、60はかわらけで、56・57は碗、58・59は皿、60は小皿である。

（5）近世以降

［陶磁器・土器］（第52図61～65、図版16－61～65、第16表）

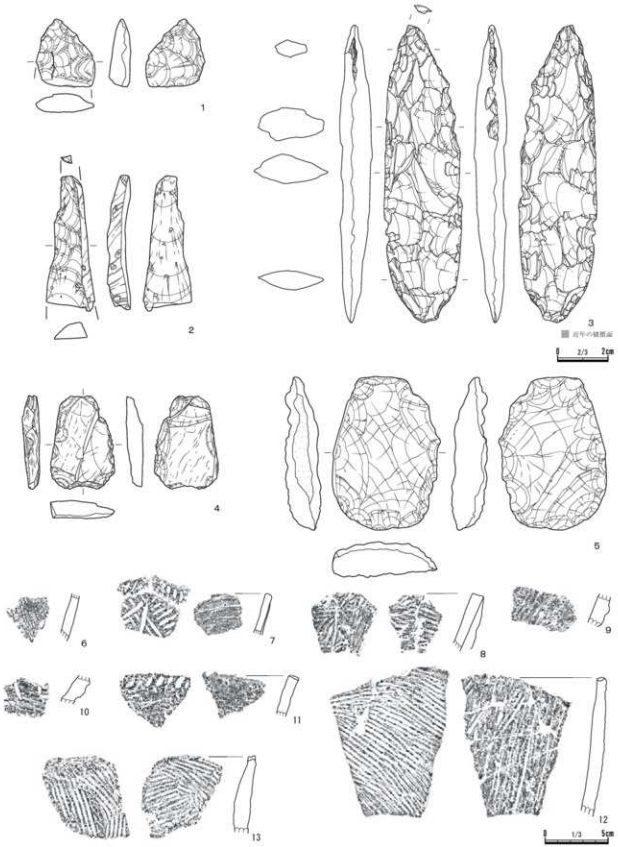
61・64は陶器、62・63は磁器、65は土器である。61は小天目、62は皿、63は湯呑、64は徳利、65は火消し壺の蓋である。

［石 製 品］（第52図66、図版16－66、第17表）

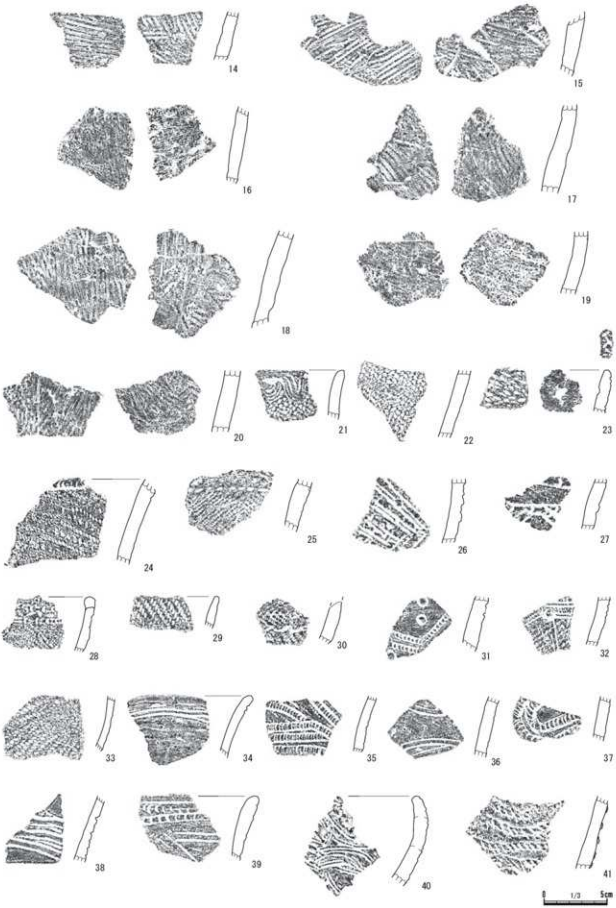
66は結晶片岩製の不明石製品。右側縁以外は欠損で、表裏面は剥離面のままとし、右側縁の表裏と下端部に粗い調整剥離。用途不明ながら、近世以降石造物の再加工品であろうか。

［銭　　貨］（第52図67、図版16－67、第18表）

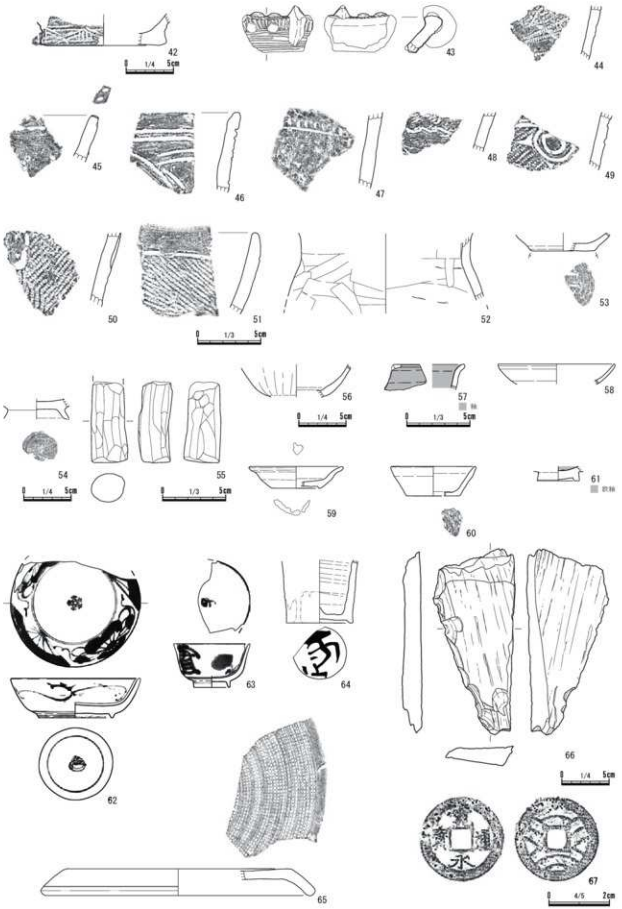
67は新寛永である。背の文様から十一波四文銭の寛永通宝となる。明和6（1769）年初鋳である。



第50図　遺構外出土遺物１（２／３・１／３）



第51図　遺構外出土遺物２（１／３）



第52図　遺構外出土遺物３（１／４・１／３・４／５）

押図番号 図版番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置
第50図1 図版13-4-1	尖頭器	チャート	2.7	2.3	0.7	5.5	下部欠損／表裏面とも左側縁に粗く、右側縁に細かい調整剥離／所状から尖頭器の未製品と考えられる	58Ⅲ
第50図2 図版13-4-2	縦長剥片	黒曜石	5.4	1.9	0.7	6.1	下部欠損／打面は平坦打面／背面に縦・横位方向の剥離面／横位方向の剥離面は石核調整剥離と考えられる／背面右側はズリ面	63Ⅲ
第50図3 図版14-3	尖頭器	凝灰岩	11.8	3.1	1.3	41.7	先端を折損／側部両側縁がほぼ平行／基部は逆三角形／最大幅は側部に位置する／断面はレンズ状／両面に平坦剥離が施される／側部には微段状剥離が多い／裏面右側縁先端部に潰れ状の剥離／右側面上半部に面的な剥離面／右側面上半部の剥離面と裏面右側縁の抉り状の剥離面は他の調整剥離面と風化度合が異なる／旧石器時代終末～縄文時代草創期	23P
第50図4 図版14-4	打製石斧	頁岩	7.4	5.1	1.4	67.6	表裏面共に節理面を残す／側縁は両面から調整剥離が施される／刃は片刃／左側縁に紙面もみられる	22Ⅲ
第50図5 図版14-5	打製石斧	ホルンフェルス	12.2	8.2	2.4	323.5	左側縁に節理面を残す横長の石材を仕様／短冊型／表面は右側縁から刃部、裏面は全周縁に調整剥離／全体に風化著しい	9-Ⅲ

第12表　遺構外出土旧石器時代・縄文時代石器一覧

押図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量(cm)	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	時期 型式等	出土位置
第50図6 図版14-6	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 0.8	器形は直線的に外傾する	内面：ナデ／外面：横位燃糸文L施文	明黄褐色／石英・長石・白色粒子	縄文早期前半 燃糸文系	(P-11)G
第50図7 図版14-7	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	高 [3.5] 厚 0.5	波状口縁／口縁は直線的に外傾する	内面：横ナデ／口唇端部に斜位の押圧／外面：貫方向の集合沈線を施し、山形とその頂部から の垂縁を施文する	内：にぶい褐色／外：灰褐色／石英・角閃石・長石・砂粒・纖維	縄文早期後半 野島式か	109P
第50図8 図版14-8	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	高 [4.6] 厚 0.9	波状口縁の頂部から幅1.5cmほどの隆帯を貼付	内外面ナデ	内：黒褐色／外：黄褐色／石英・纖維	縄文早期後半 茅山下層か	表土
第50図9 図版14-9	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.2	器形は直線的に外傾する	内外面条痕文／外面に幅1cmほどの隆帯が貼付される	赤褐色／石英・白色粒子・骨針・纖維	縄文早期後半 茅山下層か	表土
第50図10 図版14-10	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.1	外面に横位の隆帯を貼る	外面に横位の条痕文／上半に斜位の条縄	内：にぶい橙色／外：褐灰色／石英・チャート・纖維	縄文早期後半 茅山下層か	表土
第50図11 図版14-11	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	高 [3.3] 厚 0.8	器形は僅かに外反する	口唇に斜位の刻み／口縁下に斜位の浅い条縄か	にぶい褐色／石英・白色砂粒・纖維	縄文早期後半 条痕文系	629Ⅲ
第50図12 図版14-12	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	高 [11.0] 厚 1.1	口縁は直立し、胴部はわずかに内湾する／口唇端面に上から円形の工具で押圧し、小波状を呈する	内面に縦位、外面に斜位の条痕文	にぶい黄橙色／石英・チャート・長石・角閃石・纖維	縄文早期後半 条痕文系	確認調査 5Tr
第50図13 図版14-13	縄文土器 深鉢	胴部 破片	高 [6.1] 厚 1.2	器形は僅かに外反する	口唇端面、内外面に条痕文	にぶい褐色／白色粒子・小礫・纖維	縄文早期後半 条痕文系	618Ⅲ
第50図14 図版14-14	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.0	器形は直線的に外傾する	内外面斜位の条痕文	内：明褐色／外：褐色／石英・纖維	縄文早期後半 条痕文系	表土
第50図15 図版14-15	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.1	器形は僅かに内湾する	内外面斜位の条痕文	内：にぶい黄褐色／外：黒褐色／石英・長石・纖維	縄文早期後半 条痕文系	表土
第51図16 図版14-16	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.0	器形は僅かに外傾する	内外面に浅い条痕文	明褐色／チャート・白色粒子・纖維	縄文早期後半 条痕文系	表土
第51図17 図版14-17	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.5	器形は僅かに内湾しつつ外傾する	内外面斜位の条痕文	内：にぶい橙色／外：にぶい褐色／石英・長石・纖維	縄文早期後半 条痕文系	表土
第51図18 図版15-18	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.3	器形は外傾する	内外面縦・斜位の条痕文	内：褐色／外：橙色／石英・長石・白色粒子・黒色粒子	縄文早期後半 条痕文系	表土
第51図19 図版15-19	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.0	器形はやや内湾する	胎土中に纖維を含む／表面上方に横位沈線／全体に斜位の浅い擦痕	内：にぶい橙色／外：橙色／石英・チャート・小礫・纖維	縄文早期後半 条痕文系	表土
第51図20 図版15-20	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.2	器形は直線的に外傾する	内外面縦・斜位の条痕文	内：灰褐色／外：にぶい橙色／石英・長石・白色粒子・纖維	縄文早期後半 条痕文系	表土
第51図21 図版15-21	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	高 [4.9] 厚 0.8	器形は外反する	内面：ナデ／外面：強文R L施文か／口縁部にループ文施文	内：にぶい黄褐／外：橙／石英・白色砂粒・纖維	縄文前期前半 関山II式	9-Ⅲ
第51図22 図版15-22	縄文土器 深鉢	胴部 破片	高 [5.1]	器形は直線的に外傾する	内面：ナデ／外面：横位の直前段多条縄文	橙色／石英・チャート・白色粒子・纖維	縄文前期前半 関山II式	9-Ⅲ
第51図23 図版15-23	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	高 [3.4] 厚 0.9	器形は直線的に外傾する	口唇上面に平坦状の刻み／外面に斜位・横位の刺突を密に施文	にぶい褐色／長石・白色粒子・纖維	縄文前期前半 関山II式か	表土
第51図24 図版15-24	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	高 [6.8] 厚 1.2	器形は僅かに外反する	上部には横位の平行沈線間に連続爪形文／段多条の縄の結条体を横位施文	にぶい黄橙色／石英多量、長石・チャート・褐色粒子	縄文前期前半 黒浜式か	確認調査 8Tr
第51図25 図版15-25	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.2	器形は直線的に外傾する	幅狭の凡形文を横位に施文し、下部に R L縄文の菱形羽状縄文を描出	内：灰黄褐色／外：にぶい黄褐色／石英・白色粒子・纖維	縄文前期 黒浜式	616Ⅲ

第13表　遺構外出土縄文土器一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	時期 型式等	出土位置
第51図26 図版15-26	縄文土器 深鉢	胴部 破片	高［5.2］	器形は僅かに内湾する	内面：ナデ／外面：斜位の条縄を矢羽状に横位施文	にぶい黄橙色／石英・チャート・白色粒子・繊維	縄文前期前半 黒浜式	9④
第51図27 図版15-27	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.1	器形は外傾する	内面：ナデ／外面：横位・2段の爪形文の下段から山形に結ぶ爪形文を施文	内：灰黄褐色／外：黒褐色／石英・白色砂粒・繊維	縄文前期前半 黒浜式	29M
第51図28 図版15-28	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	高［4.5］	口縁端面に小突起をもつ波状口縁（4個1単位か）	口縁端面に小突起をもつ波状口縁（4個1単位か）の下に平行沈線2段を三角形に結ぶ、1段を斜位に施文	内：明赤褐色／外：にぶい赤褐色／石英・長石・白色粒子・繊維	縄文前期後半 諸磯ａ式	9④
第51図29 図版15-29	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	高［2.5］ 厚 0.7	器形は直線的に外傾する	横位ＲＬ縄文施文	にぶい褐色／砂粒・黒色粒子	縄文前期後半 諸磯ａ式	表土
第51図30 図版15-30	縄文土器 深鉢	胴部 破片	高［3.3］	器形は僅かに内湾する	ＲＬ縄文の上字状結節文	にぶい赤褐色／石英・長石・雲母	縄文前期後半 諸磯ａ式	583D
第51図31 図版15-31	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.2	器形は直線的に外傾する	半截竹管によるＶ字状の平行沈線間に爪形文を充填し、無文部に爪形の刺突文を縦位に施文	灰褐色／石英・長石／白色粒子／褐色粒子	縄文前期後半 諸磯ａ式	578・579D
第51図32 図版15-32	縄文土器 深鉢	胴部 破片	高［3.9］	器形は僅かに内湾する	内面：ナデ／外面：地文横位ＬＲ縄文→半截竹管状工具による米字文／交縄交点に円形刺突文施文	橙色／チャート・白色粒子・黒色粒子	縄文前期後半 諸磯ａ式	9④
第51図33 図版15-33	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 0.6	器形は内湾する	横位ＲＬ縄文施文	にぶい褐色／砂粒・黒色粒子	縄文前期後半 諸磯ａ式	表土
第51図34 図版15-34	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	高［4.9］	器形は外反する	口縁部上位に横位の平行沈線を施文	にぶい黄褐色／石英・角閃石・チャート・小礫	縄文前期後半 諸磯ａ～ｂ式	(E-11)G
第51図35 図版15-35	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 0.8	体部はやや外反する	内面：ナデ／外面：斜位、横位の細かな爪形文を施文	にぶい橙色／石英・長石・白色砂粒	縄文前期後半 諸磯ａ～ｂ式	9④
第51図36 図版15-36	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 0.9	器形は直線的に外傾する	平行沈線を対弧状に施文	にぶい橙色／石英・長石・チャート	縄文前期後半 諸磯ａ～ｂ式	表土
第51図37 図版15-37	縄文土器 深鉢	胴部 破片	高［3.58］	器形は直線的に外傾する	並列する弧状の平行沈線間に爪形文を充填する	にぶい褐色／石英・長石・砂粒	縄文前期後半 諸磯ａ～ｂ式	594D
第51図38 図版15-38	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 0.8	器形は直線的に外傾する	横位平行沈線を多段に施文	内：にぶい橙色／外：褐色／石英・長石	縄文前期後半 諸磯ａ～ｂ式	表土
第51図39 図版15-39	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	高［5.1］ 厚 1.1	器形は僅かに外反する	上位に平行沈線間に爪形文を施文／下位には平行沈線による米字文を施す	内：にぶい赤褐色／外：にぶい褐色／石英・砂粒	縄文前期後半 諸磯ｂ式前半	表土
第51図40 図版15-40	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	高［7.1］ 厚 1.1	口縁部は内湾する	平行沈線を対弧状に粗く施文	内：明赤褐色／外：にぶい黄褐色／石英・長石・赤色粒子	縄文前期後半 諸磯ｂ式	9④
第51図41 図版15-41	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	器形は直線的に外傾する	横位・弧状の浮線文に斜位の刻み を施す	にぶい橙色／長石・チャート・小礫	縄文前期後半 諸磯ｂ式	表土
第51図42 図版15-42	縄文土器 深鉢	胴部～底部 破片	高［3.3］ 厚 1.3	体部から底部にかけ強く外反する	内面：ナデ／外面：押圧隆帯による長方形区画内にさらに押圧隆帯を交差させる	橙色／石英・角閃石・長石・白色粒子	縄文前期後半 竹管文系	9④
第51図43 図版15-43	縄文土器 深鉢	口縁部	高［3.8］ 厚 0.9	口縁部は強く外傾する／口縁端部は内側に張り出す	端面と口縁上部に斜位の集合沈線を施し、ボタン状軌付文を貼付／以下は横位の集合沈線／口唇上面から口縁外面にかけ以状の貼付文を付す	にぶい褐色／長石・チャート・砂粒	縄文前期後半 諸磯ｃ式	9④
第52図44 図版15-44	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 0.7	器形は直線的に外傾する	横位ＬＲ縄文に同方向の条を付加している	にぶい黄褐色／チャート・白色粒子	縄文前期後半 諸磯ｃ式	表土
第52図45 図版15-45	縄文土器 深鉢	胴部 破片	高［3.7］ 厚 0.9	器形は直線的に外傾する	口縁端面に刻み／外面に連続刺突を口縁部と平行する横位と、その下部に縦位に施文	内：明褐色／外：にぶい赤褐色／チャート・長石・砂粒	縄文前期後半 浮島系	表土
第52図46 図版15-46	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	高［6.3］ 厚 1.0	器形は外傾する	幅広の半截竹管状工具による横位平行沈線の下位に斜位の平行沈線を施文	橙色／石英・チャート・長石・砂粒	縄文前期末 浮島系	578・579D
第52図47 図版15-47	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.1	器形は僅かに外傾する	横位の平行沈線間に爪形文を施文	にぶい黄橙色／石英・チャート・長石	縄文前期後半 東関東系	確認調査 7Tr
第52図48 図版16-48	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 0.8	器形は直線的に外傾する	無節Ｌの端末結節文（Ｚ字状）を横位施文	明赤褐色／石英・砂粒	縄文前期末	578・579D
第52図49 図版16-49	縄文土器 深鉢	胴部	厚 0.9	器形は直線的に外傾する	地文横位ＲＬ縄文に平行沈線を横位、円環状に施文／円の外側に印刷文を配する	内：暗褐／外：黒褐／石英・雲母・チャート・白色砂粒	縄文中期初頭 五領ケ台式	9④
第52図50 図版16-50	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.0	器形は直線的に外傾する	地文横位ＲＬ縄文にＵ字状沈線を施文し中を擦り消す	内：明赤褐色／外：にぶい赤褐色／チャート・小礫・白色粒子・橙色粒子	縄文中期後半 加曽利Ｅⅱ～Ⅲ式	表土
第52図51 図版16-51	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	高［6.6］ 厚 1.0	器形はやや内湾する	口縁部上方は無文帯／横位沈線を境に無節Ｌ縄文を縦位施文	内：橙色／外：にぶい黄橙色／チャート・長石・黒色粒子	縄文中期 加曽利Ｅⅱ～Ⅳ式	表土

第13表　遺構外出土縄文土器一覧（２）

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	時期	出土位置
第52図52 図版16-52	土師器 甕	頸部～胴部 10％	高［8．5］	□頸部欠損，頸部はほぼ直立，胴部はやや張り出す	頸部内外面は横ナデ／内面：ヘラナデ／外面：斜・横位のヘラケズリ	内：にぶい褐色／石英・チャート・白色粒子	古墳時代後期	22W

第14表　遺構外出土古墳時代後期土器一覧

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	時期	出土位置
第52図53 図版16-53	須恵器 坏	体部～底部 破片	高［1．9］ 底（6．6）	底部回転糸切り後ヘラ調整／内底径5．4cm	底部外面にヘラ記号か／東金子産	内：黄灰色／外：褐灰／白色粒子・砂粒	平安 （9ｃ末葉～10ｃ）	62Ｗ
第52図54 図版16-54	須恵器 高台付椀か	体部～底部 破片	高［2．2］ 底（6．8）	□縁～体部欠損／底部回転糸切り後高台貼付／高台は「ハの字形に開く	小型／底部外面に２本線のヘラ記号／東金子産	黄橙色／チャート・石英・白色粒子	平安 （9ｃ末葉～10ｃ）	60Ｗ

挿図番号 図版番号	種別 器種	長さ （cm）	幅 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	器形・形態	時期	出土位置
第52図55 図版16-55	土師器 三足鍋脚部	6．3	3．0	2．1	49．4	上部欠損／円筒状で下方に向かって若干太くなりつつ外反する／下端は平坦／外周は縦位のヘラケズリ／色調は明赤褐色／胎土は石英・長石・砂粒できめ細かい	平安 （9ｃ末葉～10ｃ）	表土

第15表　遺構外出土平安時代須恵器・土器一覧

挿図番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量（cm）	製作の特徴等	推定産地	時期	出土位置
第52図56 図版16-56	青磁 碗	体部～底部 破片	厚 0．8	外面：鎬連弁文／内面：無文か／色調はにぶい黄色／胎土は黒色微粒子・きめ細かい精良	龍泉窯系青磁Ⅱ-b か第2c	中世 （13ｃ前半～14ｃ初頭）	表土
第52図57 図版16-57	磁器 碗	口縁～体部 破片	高［2．6］ 厚 0．4	□縁が外反する／内外面にオリーブ灰色の釉がかかる／色調はオリーブ灰色／胎土は青灰色の精密で精良	上田Ｄ群	中世 （14ｃ後半～15ｃ初頭）	確認調査 11Tr
第52図58 図版16-58	磁器 白磁皿	口縁～体部	口［12．2］ 高［2．1］	やや青みがかかった透明釉が内外面にかかり，口縁外に厚く，釉だれする／色調は明緑灰色／胎土は精密で精良，混ざりない	森田Ｄ群 小野Ｂ群	中世 （15ｃ前半）	確認調査 10Tr
第52図59 図版16-59	陶器 皿	口縁～底部 60％	口 5．0 高 2．3 底 2．6	内外面鉄釉／左部碁笥底削り込み高台／体部下方は直線的に開き，上方は外反する／内面に三支トチン痕１，高台内に輪トチンの一部／色調は灰色／大窯２期	瀬戸・美濃産	中世 （16ｃ前半）	588Ｄ
第52図60 図版16-60	土器 かわらけ	口縁～底部 20％	口（8．8） 高［3．1］ 底 0．5	体部はほぼ直線的に立ち上がり，口辺は僅かに尖る／底部回転糸切り／色調はにぶい橙色／胎土は石英・チャート・褐色粒子でやや粗い	—	中世 （15ｃ）	確認調査 7Tr
第52図61 図版16-61	陶器 天目茶碗	底部 85％	高［1．5］ 底 4．4	ロクロ成形／鉄釉	瀬戸・美濃系	近世以降	表土
第52図62 図版16-62	磁器 皿	口縁～底部 80％	口 13．5 高 4．2 底 7．7	ロクロ成形／染付扇家倚文／見込五弁花文／高台内渦福文／くわらんか手	肥前系 波佐見	近世 （1750～1810年代）	表土
第52図63 図版16-63	磁器 湯呑	口縁～底部 50％	口（8．0） 高 4．6 底 3．7	ロクロ成形／手彫染付宝字草花文／見込染付文／口銹／端反碗	瀬戸・美濃系	近世 （1840～1860年代）	表土
第52図64 図版16-64	陶器 徳利	頸部～ 底部	高［6．7］ 底 7．0	ロクロ成形／外面灰釉掛け掛け／底面に墨書／高田徳利	瀬戸・美濃系	近世 （1840～1860年代）	表土
第52図65 図版16-65	土器 火消し壺蓋	口縁～天井部 40％	口（28．0） 高 2．8	ロクロ成形／上面ルレット文／表面黒色	在地系	近世以降	表土

第16表　遺構外出土中近世陶磁器・土器一覧

挿図番号 図版番号	種別 器種	石材	長さ （cm）	幅 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	特徴	出土位置
第52図66 図版16-66	石製品 不明	結晶片岩	39．2	18．0	4．0	3，200	右側縁以外欠損／表裏面は剥離面のまま，右側縁の表裏と下端部に粗い調整剥離／表面は上方に横位の擦痕も，ちょ．下方に向かってゆるやかに凹む	表土

第17表　遺構外出土近世以降石製品一覧

挿図番号 図版番号	銭貨名	初鋳年	外径 （cm）	方孔一片 （cm）	厚さ （cm）	重量 （g）	特徴	出土位置
第52図67 図版16-67	寛永通宝	1769年	2．7	0．8	0．2	5．0	完形／十一波銭／四元銭／明和６（1769）年以降	廃土

第18表　遺構外出土近世以降銭貨一覧

第４章　調査のまとめ

第１節　旧石器時代・縄文時代について

確認された当該期の遺構は、縄文時代の炉穴15基（67～81ＦＰ）・土坑９基（580・597～599・603・610・612・626・634D）・ピット２本（116・122P）である。以下では、主な事項について遺物を中心に時代を追って述べたい。

まず、後期旧石器時代から縄文時代草創期にかけての尖頭器１点が、遺構外遺物として確認されている。当地点では層位や遺構また草創期の土器が確認されているわけではないが、当該期に包括される遺物としては、市内で城山遺跡第16地点（尾形・佐々木保・深井・佐々木潤　2009）の爪形文系土器１点・同遺跡第21地点（尾形・深井・青木　2009）の多縄文系土器３点・同遺跡第22地点（尾形・深井・青木　2009）の爪形文系土器１点、田子山遺跡第51地点（尾形・大久保・深井　2018）の有舌尖頭器１点に続くもので、貴重な類例を重ねることとなった。縄文時代早期については、前半の撚糸文系土器が２点（第10図１・50図６）確認されている。その後空白があり、確認できるのは末葉～前期初頭の条痕文系土器である。本地点の縄文時代遺構で中心となる15基確認された炉穴のうち遺物が出土した69・70・73～75号炉穴はこの期に属すると推定されよう。これらについては、形状が楕円形で中央より偏って被熱赤化する炉床が確認される点からも追認される。なお、確認された縄文時代の土坑のうち、580号土坑は縄文時代早期末～前期初頭に属する。続いて前期前半の関山Ⅱ式と黒浜式が散見される中、目に付いたのは後半の諸磯式でａ～ｂ期が多く、ｃ期と浮島系が僅かに出土した。中期は初頭の五領ヶ台式、後半の加曽利ＥⅡ～Ⅲ式、同Ⅲ～Ⅳ式の土器が僅かに出土するにとどまり、以降の縄文時代の土器は確認できなかった。

第２節　古墳時代後期・平安時代について

確認された当該期の遺構は、古墳時代後期の住居跡１軒（94H）、平安時代の住居跡１軒（93H）・土坑２基（606・615D）が検出された。以下では、時代順にそれぞれの住居跡とその出土遺物について述べたい。

（１）94号住居跡（第14～16図）

古墳時代後期の94号住居跡は、２区の東端で検出されプランは５m四方の方形、西カマド、カマド北脇に貯蔵穴を持ち、柱穴は東西の中軸付近に２本、周溝は全周して確認された。出土遺物は、一括遺物と地点上げを合わせて651点が出土した。出土遺物の平面分布は主にプランの南西側と貯蔵穴付近から散発的に、垂直分布は床面付近から覆土中上層にかけて出土し、土器７点（第16図１～７）、石製紡錘車１点（第16図８）を本文に掲示した。

まず土器については、すべて土師器で１～３は坏形土器、４～７は甕形土器である。１・２はいわゆ

る比企型坏（水口　1989・尾形　1999）である。１は赤い胎土の入間系土師器で口径12.1㎝、２は口径13.6㎝を測る。３は器壁厚く口径15.8㎝と大振りの坏形土器で在地系土師器であろう（尾形　2005・2006）。４は口縁部が強く外傾し最大径を胴中位にもつが焼成段階での歪みがあり、底部には木葉痕を残す。５～７は全形を窺えないが、５は口縁部が外反し最大径を口縁部に持つと思われる。これらの特徴を編年研究（尾形　1999・2000）に照らし合わせると、いわゆる比企型坏は12㎝台と13㎝台が併存することから本市坏形土器の変遷の12～13期にあたる７世紀２／５～７世紀３／５、長甕４は本市甕形土器の変遷の13～14期にあたる７世紀３／５～７世紀４／５、５は７世紀中葉以降に出現することから（尾形　2012）、総合すると本住居跡は７世紀３／５世紀（７世紀中葉）と推定される。

（２）93号住居跡（第12・13図）

平安時代の93号住居跡は、プランの西側と北東コーナーが調査区外となり、かつ攪乱と中世以降の土坑が重なったため遺存状況も良好ではなく、出土遺物も含めて得られた情報は限定される。確認できた範囲では、やや歪んだ略方形の平面プランと推定され、調査区内でのカマドの検出はなく周溝は南北それぞれの壁に沿って確認されている。柱穴はＰ１～４の４本が検出されたが、Ｐ１・２はその位置や形状から柱穴とは別の役割を担ったものの可能性があるかもしれない。この点については、将来的に、当住居の全形が判明する段階があればそれを待って検討すべきものと思われる。

遺物については、土師器と須恵器を合わせて142点出土し、殆どが中世以降の土坑と攪乱の影響から一括遺物であり、地点を押さえることが出来たのは12点で、南北の壁に寄った付近とＰ１付近からの出土である。垂直分布は遺構の上層が遺存しなかったため、ほぼ床に近いレベルからのものである。本文に掲示したのは、須恵器坏３点（第13図１～３）、土師器甕２点（第13図４・５）である。１は口縁部を欠失するが内面に爪先技法（高橋　1974）がみられ、底部は完存し底径7.9㎝（内底径7.3㎝）を測る。２は底部をほぼ欠失し復元口径は12.4㎝、３は底部を欠損する体部立ち上がり下部を残す資料で、底径は糸切り底が剥離した状態であり、推定で8.0㎝前後の数値となろう。１に爪先技法が見られる点、いずれも胎土にチャート・白色粒子を含む特徴などから東金子産と推定される。特徴と断片的ではあるが法量から推定すると９世紀代の東金子窯産坏の編年（根本・富本・加藤・平野・坂野　2015）のⅦ期に当る９世紀第２四半期のもので、そのまま住居跡の年代となろう。土師器甕の小片はいわゆる武蔵型甕（鈴木　1983・桜岡　2003）である。口縁形状はコの字状となると思われ、根本氏の編年（根本　2003）によると第７期に当り、９世紀中葉に相当することから推定した年代に概ね一致する。

なお、遺構外遺物として掲載した第52図54は小振りの高台の付く埦、55は土製三足鍋の脚部と推定したい（福田　1997・水口　1991）。いずれも９世紀末葉～10世紀代の遺物となる可能性があろう（註１）。

第３節　中世以降について

本地点では、確認された遺構の大部分がこの期に属すると思われるが、地下式坑・井戸跡・溝跡にしぼり述べたい。

（１）地下式坑について

619・625号土坑の２基が検出され、いずれも１竪坑１主体部のＥ群１類に分類される地下式坑である。主軸は619号土坑がほぼ南北方向であるのに対し、625号土坑は東へ25°振れるが、双方概ね北を指向している。規模は625号土坑がやや大きく、主体部も竪坑に対して横長の長方形で619号土坑はほぼ正方形であった。出土遺物は、619号土坑では明らかな混入である縄文土器と土師器で該期の遺物はなく、625号土坑ではかわらけが１点（第30図１）が出土した。この資料は、胎土が比較的精良で5.4㎝の底径から直線的に立ち上がり、口径は11.0㎝を測る。口唇部は尖らずに丸味をもって収めている。この特徴は、中世前期に鎌倉地域を中心に汎関東的に分布する大きな底径から内湾して立ち上がるものではなく、直線的に立ち上がるものであることから、中世後期の所産と推定される（中世を歩く会　2002）。ここでは、伴出遺物がなく単独での出土であることから年代幅を持たせ、立ち上がりの器形が直線的なものに切り替わり、その器形が増加する15世紀～16世紀段階（中世を歩く会前掲書）のものと解し、遺構もこの年代が充たるが、29号溝跡との絡みでより15世紀代、特に中葉以前に重心があると思われる。この点について補足すると、625号土坑は後述する29号溝跡と重複するが当遺構が地下式坑であるため、29号溝跡はその上に載るような形で検出され垂直面での明瞭な切り合いは確認できなかった。ただし、平面プランとしては29号溝跡の先端付近が確認できており、新旧関係は625号土坑（旧）→29号溝跡（新）となる。

（２）22号井戸跡について（第31・32図）

井戸跡は、22号井戸跡の１基が検出された。安全面を考慮し130～150㎝掘り下げ以下は未掘とした。検出面から50㎝下方までは僅かに窄まり以降は垂直的に掘削されていた。出土遺物は鋳造関連遺物の炉壁片、還元化・ガラス質溶解物付着が認められる羽口片が出土しており、一括遺物として取り上げられたものに中世後期の産地不明の擂鉢・武蔵型板碑（服部　1972・坂詰　1983）の破片があり注目される。

一方、市内の鍛冶・鋳造関連の遺構・遺物を挙げると、城山遺跡第35地点（尾形・深井　1999）で鋳造土坑・溶解炉が検出され、大量の鉄滓・鋳型・三叉状土製品・砥石などが出土している。また、最新資料である同遺跡第89地点（第１章第１節（２）歴史的環境６．中近世を参照）では第35地点の捨て場が明らかとなった。この調査により、鍋本体の大型鋳型・鍋耳部の小型鋳型・三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類・鉄滓などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土している。また同遺跡第71地点（尾形・大久保・中山・二瓶・稲村・加藤　2013）では、遺物集中区から鋳型・定盤・三叉状土製品・鉄滓が出土し、鉄滓の科学分析から製錬もしくは鍛冶が行われていたことが判明し、周辺にそれに伴う炉などの遺構が存在する可能性が指摘されている。こられの調査成果により、17世紀前半（尾形・深井　1999）の鋳造関連遺跡で遺構と遺物が一体となって検出され、その工程が重層的に明らかとなりつつあることから、大いに注目される遺跡と評価される。

本遺跡の第116地点の調査では、遺構から鉄滓が出土しておらず鋳造・鍛冶関連でどの段階の遺物となるのかは判然とはしない。ただし、出土した遺物からは精錬に関するものとは見做されず、炉体は形状などから小形の鋳造炉の可能性が指摘される（註２）。また、鋳造関連遺物と一括で取り上げられた遺物には前述のとおり板碑片と擂鉢片があるが後述するとおり課題がある。板碑片はいわゆる武蔵型板碑で、武蔵南部では16世紀後半には既にほぼ姿を消しており、出土した資料も蓮座の研磨が丁寧で

15～16世紀以前のものと推定されるが破砕投棄されており、直ちにその年代を援用することには躊躇せざるを得ない。一方の、擂鉢片は産地不明ながら体部外面に指頭痕があり、内面には細い摺目があることから中世後期の15～16世紀段階のものと目される。しかし、産地不明としたとおり常滑を思わせるような焼き締めで硬質な陶器・炻器的な焼き上がりで、いわゆる在地系（浅野　1991）のものとは異なり非北武蔵・上野産（浅野　1991）と思しき資料で問題のある資料である。以上のとおりであるが本遺構の年代は、ひとまず消費材である擂鉢片を重視して中世後期段階に遡る可能性を指摘しておきたい。ただし、年代根拠の板碑片と擂鉢片には出土状態も含め課題もあり、17世紀前半とされる城山遺跡内での鍛冶・鋳造活動との関連も注目されるところで、更なる資料の蓄積をまって検討すべきものとしたい。

（３）29号溝跡について（第33・34図）

29号溝跡は、柳瀬川を望む崖線にほぼ沿うように37mにわたり検出された。断面形状はなだらかな立ち上がりで深さは最深で50cmである。出土遺物には常滑産甕胴部片と瀬戸・美濃産擂鉢片があるが、年代推定の点では、常滑産甕片が胴部片である点と擂鉢が消費材である点から、擂鉢片を優先したい。この資料は、遺存部下端の当初施釉面が剥げ胎土が露出するほどの使用痕が観察される。ただし、摺目があるのは確認でき、摺目の存在と釉調も含めて考えると15世紀前葉から後半の古瀬戸後期Ⅲ～Ⅳ段階の製品（藤澤　1991）に比定でき遺構もその年代となろう。ただし前述の625号土坑との重複からは15世紀後半に重心があると推定される。

[註]

註１　志木市内では、中道遺跡第87地点30号住居跡から同様の脚部と思われる土製品（尾形・大久保・林　2020）が出土している。当該住居跡の年代は９世紀末葉と報告されており日野市落川遺跡（福田　1997）で指摘されている年代と齟齬はない。なお、落川遺跡では、「９世紀末から11世紀第３四半期まで」の出土が指摘されているが、本市域では11世紀代の様相が不明であり、本報告では９世紀末葉～10世紀代の遺物とした。今後の課題となろう。

註２　高崎直成氏には遺物を実見いただき遺物に関する大筋の見解を頂いた。また村上伸二氏には図版と写真を確認いただき、遺物に係る見解を頂いている。

[引用・参考文献]

浅野晴樹　1991「東国における中世在地系土器について―主に関東を中心に」『国立歴史民俗博物館研究報告』第31集
2020『中世考古〈やきもの〉ガイドブック　中世やきものの世界』新泉社
高橋一夫　1974『前内出窯跡発掘調査報告書』埼玉県遺跡調査会
福田健司　1997『落川遺跡Ⅱ　遺物編第一分冊・第二分冊』日野市落川遺跡調査会
水口由紀子　1991「武蔵国における中世成立期の煮炊土器小考」『埼玉考古学論集』埼玉県立埋蔵文化財調査事業団
尾形則敏　1999「いわゆる「比企型坏」の編年基準の要点」「あらかわ」第２号　あらかわ考古談話会
2000「志木市内における古墳時代の土師器編年（１）－５世紀から７世紀の坏形土器の変遷―」「あらかわ」第３号　あらかわ考古談話会
2001「志木市内における古墳時代の土師器編年（２）－５世紀から７世紀の甕・甕形土器の変遷―」「あらかわ」第４号　あらかわ考古談話会
2005「第４章　第２節　148号住京跡出土の土師器の胎土分析と考古学的な検証」『城山遺跡第42地点埋蔵文化財発掘調査報告』志木市遺跡調査会報告第10集　埼玉県志木市遺跡調査会
2006「７」世紀における「在地系土師器」の出現と歴史的意義―武蔵野台地北西部の無彩系・黒色系土師器の一事例―」『埼玉の考古学Ⅱ』埼玉考古第41号　埼玉考古学会
尾形則敏・深井恵子　1999「第９章城山遺跡第35地点の調査」『志木市遺跡群９　中野遺跡第43地点　富士前遺跡第15地点　田子山遺跡第47地点　田子山遺跡第48地点　田子山遺跡第49地点　中道遺跡第41地点　城山遺跡第34地点　城山遺跡第35地点　西原大塚遺跡第36地点』志木市の文化財第27集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏　2012「第４章調査のまとめ」『城山遺跡第62地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第48集　埼玉県志木市教育委員会

尾形則敏・大久保聡・中山哲也・二瓶秀幸・稲村太郎・加藤夏姫　2013『城山遺跡第71地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第54集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・大久保聡・林　邦雄　2020『中道遺跡第87地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第73集　埼玉県志木市教育委員会
桜岡正信　2003「武蔵型甕について―上野地域の生産と流通―」『高崎市史研究』17　高崎市史編さん委員会
鈴木徳雄　1983「古代北武蔵における土師器製作手法の画期」『土曜考古』第７号　土曜考古学研究会
中世を歩く会　2002『在地土器検討会―北武蔵のカワラケ―　記録集』
根本　靖・富本久美子・加藤恭朗・平野寛之・坂野千登勢　2015『南比企窯と東金子窯（Ⅱ）―東金子窯と９世紀の編年―』古代入間を考える会
服部清道　1972『板碑概説』角川書店
藤澤良祐　1991「古瀬戸窯址群―古瀬戸後期様式の編年―」『研究紀要Ⅹ』瀬戸市歴史民俗資料館
坂詰秀一　1983『板碑の総合研究』Ⅰ総論編　柏書房
根本　靖　2003「東の上遺跡の基礎研究　Ⅴ―土器編年の予察―」『あらかわ』第６号　あらかわ考古談話会

［付 編］

自 然 科 学 分 析

Ⅰ．放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
伊藤　茂・加藤和浩・廣田正史・佐藤正教・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・黒沼保子

1．はじめに

志木市の中野遺跡第116地点から出土した炭化材について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2．試料と方法

試料は、94号住居跡の貯蔵穴から出土した炭化材（試料No.5：PLD-46688）である。炭化材は形状不明で、残存径が3.0×1.5㎝、残存年輪数が20年輪、樹種はコナラ属コナラ節であった。最終形成年輪は残存しておらず、部位不明であった。調査所見による遺構の推定時期は、古墳時代後期である。

測定試料の情報、調製データは第19表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-46688	遺構：94H 位置：貯蔵穴試料No.5	種類：炭化材（コナラ属コナラ節） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 試料の形状：不明（残存径3.0×1.5㎝） 残存年輪数：20年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2mol/L，水酸化ナトリウム：1.0mol/L，塩酸：1.2mol/L）

第19表　測定試料および処理

3．結果

第20表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代、第53図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.27％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

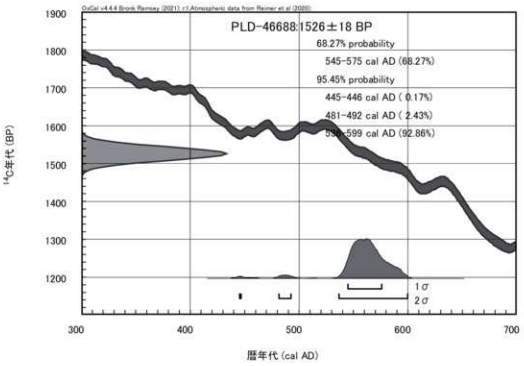
暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal 4.4（較正曲線データ：IntCal20）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、

OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.27％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.45％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

測定番号	δ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-46688 試料№5	-27.27±0.22	1526±18	1525±20	545-575 cal AD (68.27%)	445-446 cal AD (0.17%) 481-492 cal AD (2.43%) 536-599 cal AD (92.86%)

第20表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果



第53図　暦年較正結果

4．考察

木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。94号住居跡の貯蔵穴から出土した炭化材（No.5：PLD-46688）の2σ暦年代範囲（確率95.45％）は、445-446 cal AD（0.17％）、481-492 cal AD（2.43％）、536-599 cal AD（92.86％）の暦年代範囲を示した。これは、5世紀中頃～6世紀末で、赤塚氏によると古墳時代中期～飛鳥時代に相当する（赤塚　2009）。

今回の炭化材は、最終形成年輪が残存しておらず、残存している最外年輪のさらに外側にも年輪が存在していたはずである。したがって、木材が実際に枯死もしくは伐採されたのは、測定結果の年代よりもやや新しい時期であったと考えられ、測定結果は調査所見による推定時期に対して整合的であった。

［引用・参考文献］

赤塚次郎　2009「弥生後期から古墳中期（八王子古宮式から宇田式期）の暦年代」日本文化財科学会第26回大会実行委員会編『日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集』：14-20，日本文化財科学会．

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

中村俊夫　2000「放射性炭素年代測定法の基礎」日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編『日本先史時代の ^{14}C 年代』：3-20，日本第四紀学会．

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41 (cited 12 August 2020)

Ⅱ．中野遺跡第116地点出土炭化材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1．はじめに

志木市の中野遺跡第116地点から出土した炭化材の樹種同定を行った。なお、同じ試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2．試料と方法

試料は、94号住居跡の貯蔵穴から出土した炭化材１点である。調査所見による遺構の推定時期は古墳時代後期であり、年代測定の結果も整合的であった。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VHX-D510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3．結果

樹種同定の結果、試料はコナラ属コナラ節（以下、コナラ節）であった。結果を第21表に示す。

遺　構	位　置	試料No.	樹　　種	形状	残 存 径	残 存 年 輪	年代測定番号
94H	貯蔵穴	5	コナラ属コナラ節	不明	3.0×1.5cm	20年輪	PLD-46688

第21表　樹種同定結果

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版17－１に示す。

（1）コナラ属コナラ節　*Quercus* sect. *Prinus*　ブナ科　図版17－１・１a－１c

大型の道管が年輪のはじめに１列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の２種類がある。

コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

4．考察

94号住居跡の貯蔵穴から出土した炭化材は、コナラ節であった。埼玉県内で確認されている古墳時代の住居跡出土の炭化材では、コナラ節やクヌギ節が多く確認されており（伊東・山田編　2012）、今回の同定結果は周辺地域の木材利用傾向とも一致する。コナラ節やクヌギ節は二次林によく生育する樹種で（平井　1996）、遺跡周辺に生育していた樹木が伐採利用されたと推測される。

[引用文献]
平井信二　1996『木の大百科』朝倉書店
伊東隆夫・山田昌久編　2012『木の考古学－出土木製品用材データベース－』海青社

Ⅲ．中野遺跡第116地点出土の動物遺体

三谷智広（パレオ・ラボ）

1．はじめに

志木市に所在する中野遺跡第116地点から出土した動物遺体の同定結果を報告する。

2．試料と方法

試料は、94号住居跡（94H）から出土した動物遺体である。肉眼で試料を観察し、現生標本との比較により、部位と分類群の同定を行った。

3．結果

同定された動物遺体の一覧を第22表に示す。

試料No.	遺　構	出土位置	分類群	部位	状態	左右	点数
1	94号住居跡（94H）	b区一括	哺乳綱	上腕骨	骨幹部	右	1
2				橈骨	近位端	左	1

第22表　中野遺跡第116地点の動物遺体同定結果

いずれも哺乳綱の四肢骨破片である。試料No.1は、上腕骨の骨幹部である。栄養孔の位置などから右と判断される。骨端部は欠損し種の同定に至らなかったが、大きさからシカやイノシシと考えられる。試料No.2は、左橈骨の近位端破片である。関節面が残存するが、種の同定には至らなかった（図版17－2）。

[参考文献]
松井　章　2008『動物考古学』京都大学学術出版会.

図　　版

1．調査1区全景

2．調査2区全景

図版2

1．1区調査前現況（東から）

2．2区表土剥ぎ（西から）

3．1区プラン確認（東から）

4．2区プラン確認

5．2区プラン確認2

6．作業風景

7．旧石器試掘坑ＴＰ７（南から）

8．旧石器試掘坑ＴＰ10（西から）

1．93号住居跡完掘（南から）

2．93号住居跡土層断面（西から）

3．93号住居跡遺物出土状況（東から）

4．93号住居跡掘り方完掘

5．94号住居跡遺物出土状況（南東から）

6．94号住居跡遺物出土状況近景（南東から）

7．94号住居跡完掘（南東から）

8．94号住居跡カマド完掘（南東から）

1．67号炉穴完掘（南西から）

2．68号炉穴完掘（南から）

3．69号炉穴燃焼部土層断面（北西から）

4．70・71・72号炉穴土層断面（南から）

5．70・71・72号炉穴完掘（南から）

6．73号炉穴完掘（東から）

7．74号炉穴燃焼部土層断面（北から）

8．74号炉穴完掘（北から）

1．75号炉穴土層断面（東から）

2．75号炉穴完掘（東から）

3．76号炉穴完掘（南から）

4．77・78号炉穴燃焼部（西から）

5．77・78号炉穴完掘（南から）

6．79号炉穴燃焼部土層断面（西から）

7．80号炉穴完掘（東から）

8．81号炉穴完掘（南から）

1．580号土坑完掘（南から）

2．597号土坑遺物出土状況（西から）

3．597号土坑完掘（西から）

4．598号土坑完掘（南から）

5．599号土坑完掘（西から）

6．603号土坑完掘（東から）

7．610号土坑完掘（西から）

8．611・612号土坑完掘（西から）

1．626号土坑完掘（北から）

2．634号土坑完掘（東から）

3．606・607号土坑完掘（西から）

4．615号土坑完掘（南から）

5．619号土坑調査風景（西から）

6．619号土坑完掘（北から）

7．619号土坑完掘（東から）

8．625号土坑調査風景（南から）

1．625号土坑完掘（北から）

2．625号土坑完掘（西から）

3．29号溝跡土層断面（東から）

4．30号溝跡完掘

5．29号溝跡完掘

6．22号井戸跡完掘（東から）

7．1号道路状遺構検出状況（北から）

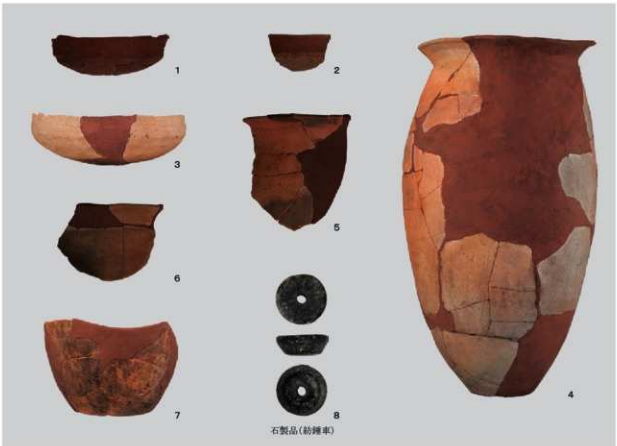
1．2区東側土坑群

2．2区中央土坑群

1．1区ピット群

2．2区ピット群

1．炉穴・土坑出土遺物

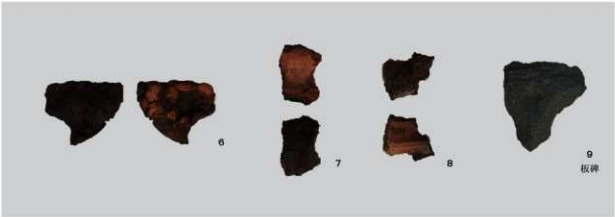


2．94号住居跡出土遺物

1．93号住居跡出土遺物

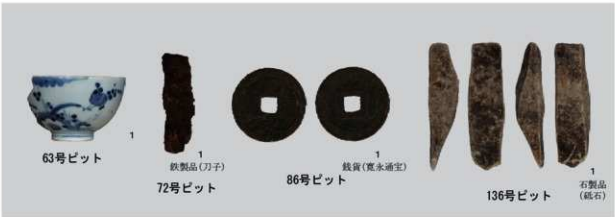
2．土坑出土の陶磁器・土器・鉄製品

3． 22号井戸跡出土遺物1



1．22号井戸跡出土遺物２

２．29号溝跡出土遺物



３．ピット出土の磁器・鉄製品・銭貨・石製品

４．遺構外出土遺物１

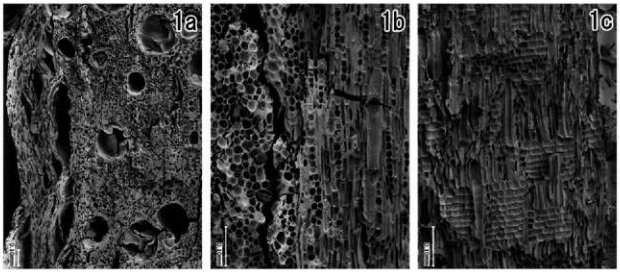
遺構外出土遺物２

18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47

遺構外出土遺物３

48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
石製品(不明品)
67
銭貨(寛永通宝)

遺構外出土遺物 4



1．炭化材の走査型電子顕微鏡写真
1a－1c．コナラ属コナラ節
a：横断面、b：接線断面、c：放射断面

2．中野遺跡第116地点出土の動物遺体（94号住居跡出土）
1．哺乳綱　右上腕骨骨幹部　2．哺乳綱　左橈骨近位端

報 告 書 抄 録

ふりがな	なかのいせきだい116ちてん　まいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	中野遺跡第116地点　埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	志木市の文化財
シリーズ番号	第87集
編 著 者 名	尾形則敏　徳留彰紀　大久保聡　木村結香　石川安司　小林陽子
編 集 機 関	埼玉県志木市教育委員会
所　在　地	〒353-0002　埼玉県志木市中宗岡１丁目１番１号　　TEL 048（473）1111
発行年月日	令和４（2022）年９月30日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡（全体面積）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中野遺跡（なかのいせき）（第116地点）	志木市（しきしし）柏町（かしわちょう）１丁目（ちょうめ）1464-1の一部、1472-2・4の各一部	11228	09-002	35°50′6″	139°34′31″	20210622～20210930	1,380.69（4,757.06）	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中野遺跡（第116地点）	集落跡・墓跡	縄文時代 古墳時代前期 平安時代 中世以降	炉穴　15基 土坑　9基 ピット　2本 住居跡　1軒 住居跡　1軒 土坑　2基 土坑　59基 井戸跡　1基 溝跡　2本 道路状遺構　1本 ピット　242本	縄文土器 縄文土器 土師器・石製品 土師器・須恵器 土器 陶磁器・土器・鉄製品 陶器・鍛冶関連遺物・板碑 陶器 磁器・石製品・鉄製品・銭貨	遺構外より旧石器時代終末期から縄文時代草創期の凝灰岩製の尖頭器が出土した。

要　約
中野遺跡は、旧石器時代、縄文時代草創～晩期、弥生時代後期、古墳時代前～後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡である。今回の第116地点では、縄文時代の炉穴・土坑・ピット、古墳時代後期の住居跡、平安時代の住居跡・土坑、中世以降の土坑・井戸跡・溝跡・道路状遺構・ピットなど多数の遺構が検出された。

志木市の文化財　第87集

中野遺跡第116地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発　行　埼玉県志木市教育委員会
　　埼玉県志木市中宗岡１丁目１番１号
発行日　令和４（2022）年９月30日
印　刷　望月印刷株式会社